

令和4年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会事業報告

1 総括

2 部門別事業報告（別冊）

令和4年度社会福祉法人宮古市社会福祉協議会事業報告

1 総括

令和3年度に策定した「第1期中長期経営計画(2022～2026年度・令和4～令和8年度)」の使命「ともに生きる豊かな地域社会づくりを進める」ため、基本理念・基本方針・行動指針に基づき、健全な経営を目指し重点項目を柱とした行動計画により、各種事業活動に取り組めました。

重点項目の中で、

【1制度の狭間を生まない総合相談体制の構築】は、新規事業として「宮古圏域成年後見センター業務」及び「みやこ中央地域包括支援センター業務」「生活支援体制整備業務(一中圏域)」を受託し相談機能を充実した他、中長期経営計画の期間内での部門別経営の構築を見据え、地域福祉部門を「地域支援係」と「生活支援係」に区分し、地域支援係は、地域福祉活動計画に基づき、「福祉の学びと担い手の育成」「安心の地域づくり」「地域相談支援機能の充実」「新たなニーズ・課題への対応」に関係機関及び福祉関係団体等の理解と協力を得て取り組めました。

生活支援係は、「宮古地域福祉権利擁護センター」「宮古圏域成年後見センター」「くらしネットみやこ相談室(生活困窮)」「こども食堂」の受託運営など、多様化・複雑化する生活課題の解消に対応した他、制度以外の相談にも応じ制度の狭間を埋める活動を行いました。

未来推進会議(総合相談体制構築プロジェクト)は、総合相談窓口の拠点となっている地域包括支援センターを含めて、窓口業務を整理し体制を構築する必要があること。また、重層的支援体制整備事業について、宮古市との実施協議が遅れていることから、今後の体制構築に向けて相談業務の再確認と現状把握に務めました。

【2住民参加と協働に向けた地域福祉活動の再構築の強化】は、地域福祉活動を推進するための自主財源確保について、町内自治会及び民生委員児童委員協議会、福祉協力員、福祉関係団体などと協働し、地域住民の協力を得て会費、募金活動、寄付の受入等に取り組めました。

福祉活動財源は、本会が実施する社会福祉事業、福祉教育、和来輪来まつり、社協だより発行、ボランティア育成、ふれあいサロン、見守り支え合い、福祉関係団体への活動費助成など、また、赤い羽根「じぶんの町を良くする活動応援事業」、歳末「みんなでささえあうあったかい地域づくり支援事業」などに活用し、地域住民との協働による地域福祉活動の充実と強化に努めました。

地域福祉活動の再構築の中で、地域福祉ニーズを把握し協議する場としての「地域福祉活動推進委員会(仮称)」は、福祉協力員の位置づけとなる「福祉協力員設置要綱(仮称)」と併せて設置を検討する

必要があること、また、未来推進会議(福祉ニーズプロジェクト)との関わりがあることから、次年度に継続して取り組むこととしました。

【3 情報発信・管理の整理と強化】は、広報紙「社協だより」年3回の定期発行の中で掲載内容の充実と見やすく分かりやすい紙面構成に努めました。併せて地域福祉活動財源の確保に係る取組みは、市広報みやこに周知チラシを折り込む形で、また、ホームページも随時更新し社協経営や事業活動に関する情報発信を行いました。

未来推進会議(広報推進プロジェクト)は、広報媒体の種別と全体構成のあり方など具体的な進め方を検討しました。

【4 適切な組織・運営体制の整備と強化】は、当年度の計画に「事務機構の見直し」と「拠点整理」を掲げています。事務機構の見直しは、地域福祉活動推進部門の構築を進めるため、その一環として地域福祉課を「地域支援」と「生活支援」に、また、地域施設課を「高齢担当」と「障害担当」に区分し、所管の業務と役割を明確にして業務にあたりました。

地域包括支援センターは、市内8地域に設置が完了し支援業務に務めましたが、連携業務である生活支援体制整備事業は、2つの中学校区に生活支援コーディネーターが未配置で、地域づくりの推進に課題が残りました。単年度受託事業や指定管理事業が社協経営において主要な役割を果たしている中で、収支が不均衡な事業もあることから、受託運営のあり方について宮古市と協議を継続することとしました。

また、介護保険事業や障害サービス事業においては、新規利用者や複数回利用者の確保が低調なことに加えて、コロナウイルス感染症による事業休止もあって厳しい運営状況となりました。このことに伴うサービス提供のあり方の再検討については、未来推進会議(新たな介護サービスプロジェクト)田老・川井地区を始動し、これと併せて他のサービス事業の現状分析と課題の整理を行い体制整備に向けて取り組んで参ります。

組織運営体制の整理は、法人指導監査で指摘があった評議員及び理事選任区分の見直しについて、定款施行細則第3条別表1及び第11条別表2を変更し適切な区分に整理いたしました。

【5 職員(人材)活用・育成の整理と強化】は、当年度も人材確保は厳しい状況が続き、特に看護職・介護職の募集が採用に結び付かず、職員が充足しない中で協力、連携して業務を行いました。慢性的なマンパワー不足はサービス提供への影響が懸念されることから、人員配置に見合う利用定員やサービス内容とするなど、実態に合わせて業務の見直しを行い運営に努めました。

また、職員育成の整理と強化は、専門職について外部研修への参加、派遣研修の受講により資質向上に取り組みました。一般職は、これまで実施していた研修のあり方を、階層別研修と業務別研修に見直す方向とし、研修体系を確立し強化を図ることについてコンサルタントに依頼し、令和5年度から3カ年の取組みとして体系を構築することとしています。

職員の勤労意欲の向上は、モチベーションの強化につながる給与・処遇の改善について、介護職員等処遇改善加算、ベースアップ加算を取得し該当職員に支給しました。

2 部門別事業報告（別冊）

令和4年度
部門別事業報告

| | | |
|----|--------------|-------|
| 1 | 総務課 | 1 頁 |
| 2 | 地域福祉課（地域支援） | 8 頁 |
| 3 | 地域福祉課（生活支援） | 17 頁 |
| 4 | 在宅支援課 | 25 頁 |
| 5 | 在宅福祉課 | 29 頁 |
| 6 | 地域施設課 | 50 頁 |
| 7 | 田老福祉センター | 57 頁 |
| 8 | 新里センター | 66 頁 |
| 9 | 川井センター | 71 頁 |
| 10 | 清寿荘 | 83 頁 |
| 11 | 統括地域包括支援センター | 106 頁 |

社会福祉法人宮古市社会福祉協議会

※事業管理欄における印について

◎＝計画あり→実施、×＝計画あり→未実施、○＝計画なし→実施

PCM評価5項目

| 項目 | マネジメント理念 | 計画変更/モニタリングの視点 | 評価の意味 |
|-------|--|--|--|
| 妥当性 | プロジェクトは、プロジェクト関係者（ステークホルダー）、その中でも特に ターゲットグループ（主たる裨益者・組織）のニーズに即したものでなければならない | プロジェクトは今でも（計画変更後も）、 プロジェクト関係者及びターゲットグループのニーズに即したものであるか。 | プロジェクトは、ターゲットグループ（主たる裨益者）、対象のニーズ、優先度や政策に 合致しているか。 |
| 有効性 | プロジェクトは、 目標を達成しなければならない 。多様な要因が影響する目標の場合は、当該 プロジェクトが目標の達成に対して効果を出す ことが求められる。 | プロジェクトは、プロジェクト目標に 本当に効果をもたらすことができているのか。 | プロジェクトの成果（活動）を通じて、プロジェクト目標が 達成できたか 。その 達成への効果はあったか。 |
| 効率性 | プロジェクトは、 最小の投入及び活動で最大の成果 を産出することが求められる。 | 投入 は全て活用され、成果に結びついているか。より安く、早く、簡単にする方法はないか。 | プロジェクトの投入（インプット：ヒト・モノ・カネの投入財）がどれだけ 成果 （アウトプット：成果物）に 変換されたか 。成果物は 最小 （または適切な量）の投入で 産出 されたか。 |
| インパクト | プロジェクトは、社会的、経済的、環境及びその他 全体への影響に配慮し、悪いものは軽減し、また良いものは推進 する。 | プロジェクトは 負のインパクトを出していないか 。またもっとインパクトを出せる要素があるのか。 | プロジェクトの実施により引き起こされた、意図したまたは意図していなかった、正または負の 変化があったか。 |
| 持続性 | プロジェクト 終了後もよい効果が持続し、さらに自立発展 するような工夫や仕組み作りが重要である。 | プロジェクトの効果を 持続させるような仕組みはできているのか 。仕組みづくりのためにできることは何か。 | プロジェクトの終了後、プロジェクトが生み出した効果/便益が 持続するか 。または 自立的発展 をするか。 |

※PCMハンドブック第3版(モニタリング・評価編)：NPO法人 PCM Tokyo(2016/8/1)

第2期宮古市地域福祉活動計画「“ひと”と“人”がつながり 関わりあい ともに 支え合う まち みやこ」

I. 基本方針（各課共通上位目標） ※組織理念
「ともに生きる豊かな地域社会づくりを進める」

【総務課】

II. 事業目標 ※組織理念に向けた各事業が達成すべき目標

- ・ ①経営向上に資する法人運営
- ・ ②人材の獲得・育成・定着
- ・ ③適切な財務管理と安定的な財源確保
- ・ ④会員等に対しアカウンタビリティを果たす
- ・ ⑤各業務の質の向上、標準化・効率化

〈庶務担当〉

- ・ ①-1法人運営としての業務執行
- ・ ①-2内部会議の効果的な運営
- ・ ①-3地域福祉推進拠点としての施設活用
- ・ ②-1人材育成研修の実施
- ・ ②-2新規学卒者及び中途採用者の獲得
- ・ ②-3安心して働き続けられる職場づくり
- ・ ④-1ホームページを活用した広報の充実

III. 事業活動 ※事業目標を解決するために実施する具体的活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------------|------------|---|--|--|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 経営向上に資する法人運営 | 法人としての業務執行 | 三役会議 理事会・評議員会 専門委員会 評議員選任・解任委員会 調整委員会 | ≫ 法人としての意思決定、理事の職務執行監督のため理事会を開催。 ≫ 法人運営の重要事項の決定、業務執行が適正か監督するために評議員会を開催。 ≫ 必要な重要課題を専門別に研究協議し、地域の福祉ニーズに対応する活動を展開するため専門委員会及びより専門的な協議をする | 三役会議10回 理事会・評議員会3回以上 専門委員会2回 選任解任委員会1回 調整委員会(2 | 8回実施 理事会6回、評議員会2回 未実施 1回実施 1回実施(一部事 |

| | | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|---|--|---|---|
| | | | <p>ため職員による調整委員会を開催。 》中長期経営計画の進捗管理および評価</p> | <p>回) 経営計画に従い 実施</p> | <p>業廃止届出) R4後見センター受託 中央包括受託/第一 中区体制整備受託 重層的支援体制整備 事業市と協議開始 指定管理施設市介護 保険課と協議開始 介護職員処遇改善手 当/ベースアップ加 算取得</p> |
| | <p>内部会議の効果的な 運営</p> | <p>経営会議 管理者会議 課内会議 未来推進会議</p> | <p>》内部会議を開催し毎月の実績を評価しなが ら事業活動の検討及び改善を図る。 》管理者会議＝管理者級での横連携による実 績管理・事業改善を図る。 》課内会議により業務課題共有・改善を図る 》広報推進プロジェクト・新たな介護サービス プロジェクト</p> | <p>経営会議12回 管理者会議 12 回 課内会議12回 各2回以上</p> | <p>12回開催 12回開催 12回開催 広報/介護プロジェ クト各1回実施</p> |
| | <p>地域福祉推進拠点と しての施設活用</p> | <p>第4期総合福祉セン ター指定管理（2年 目）</p> | <p>》第4期指定管理申請計画に基づき、地域福祉 活動の拠点として、利便性の向上を図り有効 的に活用する。 》防災に関する計画の見直し（消防計画書の見 直し、要配慮者利用施設における避難確保計 画作成） 》防犯対応に関する検討（指定管理評価項目） 》総合福祉センター運営協議会の開催 》アンケートによる満足度調査</p> | <p>年間5組 計画見直し、避 難訓練実施 2回 80%以上</p> | <p>新規15組達成 未実施 未実施 2回開催 満足度89%</p> |
| <p>② 人材の獲得・育 成・定着</p> | <p>新規学卒者及び中途 採用者の獲得</p> | <p>就職相談会への参加 県内大学、専門学校訪 問</p> | <p>》就職相談会への参加、県内の大学・専門学校 を訪問し、市外からの新規学卒者の採用を目 指す。</p> | <p>新卒採用2名以 上 中途採用（退職</p> | <p>応募3名 採用2名 採用20名（退職24</p> |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------------------|--|--|--|---|-----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|--------|--------|---------|
| | | ハローワーク | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 県外大学、専門学校にも求人情報を提供する。 | 補充がメイン／必要数) | 名) | | | | | | | | | | |
| | 人材育成研修の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 初任者研修 中堅職員研修 リーダー研修 管理職研修 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 職位に応じて必要な知識及び技能を計画的に習得させ、各自の自己啓発を促し、当会の目的を貫徹するに足りる知識や技能等をもつ人材を育てる | 各研修 1 回 | 初任者研修12回実施。中堅研修/管理指導職員研修は県社協実施に各1名。訓練校中堅研修/新入・若手社員育成担当者研修各1名。 | | | | | | | | | | |
| | 安心して働き続けられる職場づくり | 安全衛生管理 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ ・健康診断・ストレスチェック ・安全衛生委員会 ・職場巡視 ・安全衛生研修会 | <ul style="list-style-type: none"> 1 回 1 2 回 1 2 回 1 回 | <ul style="list-style-type: none"> 11・12月実施 毎月開催 毎月実施 8・11月実施 | | | | | | | | | | |
| | | 均等均衡待遇の確保 一般事業主行動計画の推進（次世代法、女活法） | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 不合理な待遇差の解消のため給与規程を見直す。 ≫ ≫ 行動計画目標達成に向け取組む | <ul style="list-style-type: none"> 給与規程改正 行動計画目標 | <ul style="list-style-type: none"> 給与規程改正し養育手当を同一条件とした。（嘱託・契約） 計画期間～R5. 6月6/6項目達成済。 | | | | | | | | | | |
| ④ 会員等に対しアカウンタビリティを果たす | ホームページを活用した広報の充実 | 会員 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 社協各サービスを周知し、より効果的なサービス提供へ繋げる。 ≫ 提供サービスや会費を活用した事業の情報を公表し説明責任を果たす。 | 新規ページの公開（サービス情報、会費使途報告） | <ul style="list-style-type: none"> 広報推進プロジェクトにて検討開始。 HPを活用し公表済み | | | | | | | | | | |
| ⑤ 各業務の質の向上、標準化・効率化 | | 課内職員 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 業務の棚卸し、なくてもよいタスクを廃棄 ≫ デジタル化による効率化 ≫ アクシデントインシデント報告書で検討し同じミスを防ぐ | | <ul style="list-style-type: none"> 係統合、担当替えによるワークフローの見直し/介護保険及び障害福祉サービス等請求領収書見直し/公印押印ガイドライン作成 報告書0件 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| センター利用者数 | 741 | 995 | 1,086 | 1,194 | 616 | 768 | 1,001 | 1,011 | 896 | 803 | 1,135 | 1,186 | 11,432 | 96.8% | 11,804人 |
| アンケート満足度調査 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 89% | — | — | 89% | 111.3% | 80%以上 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|--------|----|
| 新規利用団体・個人 | 4 | 3 | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 15 | 300.0% | 5組 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 理事会・評議員会 | | | ◎ | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ◎ | | | |
| 三役会議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | × | ◎ | ◎ | | ◎ | × | ◎ | | | |
| 経営・管理者・課内会議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 次年度事業計画作成 | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 就職相談会・学校訪問 | | × | | ○ | | × | | ○ | × | | | | | | |
| 内部研修 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | | | |
| 安全衛生委員会・職場巡視 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 安全衛生研修会 | | | | | ◎ | | | | ○ | | | | | | |
| 総福センター運営協議会 | | | | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | |

【総合評価】

・効率性

配置職員は昨年度より1名減の8名。IT機能（クラウドサービス等）による情報共有、業務効率化により成果は維持できている。介護保険/障害福祉サービス等事業請求領収業務についてシステムを活用した方法に切り替える手続きを実施。併せて公印押印ガイドラインを作成するなど、法人全体でのタスクの削減に努めた。介護保険事業の縮小に伴い継続して事務作業の削減と効率化に努める。

環境面では職員減少に伴い、女子更衣室を1箇所を集約、リモート研修やミーティングに活用できるよう専用部屋を整備し効率性が高まった。

（併せて廃棄可能な書類を廃棄し、更衣室内のスペースを確保した。）

・有効性

管理者会議では継続して、組織の使命に向けた職員の役割について議論を深めた。

総福センター利用率は継続して減少している。目標値を現実的なものとしたため達成率は上昇しているが、実績値としては減少。

最低賃金改定に伴い、賃金基準額を上げるとともに介護保険・障害福祉処遇改善加算を算定し、賞与での職員処遇を向上させた。また、養育手当の支給基準を見直し、常勤職員と嘱託・契約職員の支給要件を同等とした。

総福センターの修繕については、定期点検（真空ヒータ・濾過設備）結果に基づき必要な修繕を行った。早期に対応することで円滑な事業実施へと繋がった。新規利用者は目標を達成したが、年間利用者数は未達成。感染症の影響による減少は終息に向かっていると思われるが、利用団体の活動減少

が伺われる。満足度はアンケート調査での要望に対して迅速に対応した結果と窓口業務での対応見直しによるものと思われる。

・インパクト

未来推進会議、避難確保計画、防犯マニュアルについては計画どおりの実施とならず。この他にも、虐待対応やBCP作成、感染症対策等、改善を要する業務や法に基づく計画やマニュアルの作成が多岐に渡るため、法人全体でのタスクの見直しを要する。

職員の処遇改善は直接的に給与増の効果あったが、社会情勢の変化に対応するまでの改善とは至らず継続した取り組みが課題として残る。

職員の予防・健康意識の向上を図ることを目的に安全衛生研修(動画研修)を2回実施。

・妥当性

情報公表について、情報開示が求められるデータを公表している。会費をいただいている住民(裨益者)に対する有益かつ説明責任を果たす情報を提供する点は不足していると思われ、広報推進プロジェクトによる検討を進めている。プロジェクトでは、広報手段の洗い出しや各手段の効果や有効性を検討。ターゲットによる広報手段の在り方を次年度も継続し検討する。寄付による地域福祉活動への協力者への対応や公表の在り方も継続して改善を図っていく。

・持続性

継続的な新卒職員採用、初任者研修を重ねて実施することで、入職職員が組織の使命達成を目指して組織活動するよう取り組んでいる。また、中堅研修や管理職研修、育成担当者研修について外部研修を活用するなど、組織の持続性を高めるため階層別研修の実施に向けた。

次期指定管理更新に向け情報交換を開始。本会として、または宮古市公共施設として、市公共施設再配置計画に連動した協議が重要となる。

| | | |
|--------------------|--|---|
| <p>○職員体制(運営規程)</p> | <p>○職員体制(現行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局長 1名 ・総務課長 1名 ・総務課長補佐 1名 ・総務係主任 1名 ・総務係事務員 1名(センター管理担当) 1名(請求事務担当) | <p>○配置車両: ※課内共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 日産クリッパー 1台(所有) スズキアルト 1台(所有) |
|--------------------|--|---|

<会計担当>

- ・①-1事業計画に連動した目標値となる予算作成
- ・①-2運営実績の月次把握・評価による経営改善
- ・③-1適切な出納管理業務
- ・③-2財務諸表等の公表
- ・③-3財源確保のため基金管理・寄附受入

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 |
|---------|------|------|------------|----|
|---------|------|------|------------|----|

| | | | | 目標値 | コメント |
|-------------------|---------------------|--------------------|---|---|---|
| ① 経営向上に資する法人運営 | 事業計画に連動した目標値となる予算作成 | 理事会・評議員会 | ・補正予算作成 ・次年度当初予算作成 | 1回以上 3月 予算流用の適切な実施 | 1回作成済 3月作成済 |
| ③適切な財務管理と安定的な財源確保 | 運営実績の月次把握、評価による経営改善 | 会計監査 経営会議・管理者会議 | ・決算監査(5月) ・月次決算を各所属長へ報告 ・第1～3四半期業務監査(7、10、1月) ・適切な月次実績管理となる費用按分計上 ・経営分析シートによる財務分析 | 毎月20日まで 3回 費用按分起案 8か所分 | 実施済 経営会議で検討 7月書面監査。 10、1月参集。 予算作成時設定 未実施 |
| | 適切な出納管理業務 | 日々の収入・支出管理業務 | ・改訂：市区町村社協事務局長の出納業務に関する10のチェックポイントに基づいた業務管理 ・出納自主点検表によるチェックの実施 | 80%以上 四半期ごと | 未実施 各四半期実施 |
| | 財務諸表の公表 | 会員・地域住民 他法人・団体 | ≫法人運営の透明性の向上のため財務諸表等電子開示システムへ計算書類等を公表する | 1回 | 公表済み |
| | 財源確保のため基金管理・寄附受入 | 市内外の協力者 | ・当会の理念、活動に賛同してくれる協力者からの寄附の受入れ、依頼(活動への参画)。 ・寄附活用報告などのフォロー体制の充実。 | 300,000円 | 大口寄付により 早期に年間目標達成。 食料支援は増加傾向。 Facebook投稿。 |
| ⑤各業務の質の向上、標準化・効率化 | | 課内職員 | ≫業務の棚卸し、なくてもよいタスクを廃棄 ≫デジタル化による効率化 ≫アクシデントインシデント報告書で検討し同じミスを防ぐ | | 係統合、担当替えによるワークフローの見直し 清寿荘会計伝票入力業務代行(8月～) 報告書3件(誤振込) |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|----------|---------|--------|--------|--------|------|-------|--------|--------|--------|---------|-------|---------|---------|--------|-----------|
| 報告日 | 5/20 | 6/20 | 7/20 | 8/20 | 9/20 | 10/20 | 11/20 | 12/20 | 1/20 | 2/20 | 3/20 | 4/20 | — | 100.0% | (毎月20日まで) |
| 自主点検 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | × | — | 80%以上 | — | — |
| 寄附受入額 | 502,943 | 54,000 | 13,400 | 11,000 | 0 | 0 | 16,411 | 72,850 | 41,750 | 105,400 | 3,000 | 166,000 | 986,754 | 328.9% | 300,000円 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 業務監査 | | | | ◎ | | | ◎ | | | ◎ | | | | | |
| 決算監査 | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 財務諸表公表 | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 次年度予算作成 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 固定資産現品確認 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |

【総合評価】

・効率性

投入（職員、設備）は前年度変化なし。成果は維持できている。

・有効性

各事業の経営分析シートは未実施であった。職員配置での費用減少および新規委託事業（成年後見センター、中央包括）により、管理事務経費に係る委託料収入を得ることができ、収支改善ができた。また同時に、処遇改善加算の取得と併せ全体的に職員の処遇をアップできている。

・インパクト

年度初めに按分率を設定し、毎月費用計上することで適切に財務状況を把握できている。それを各事業に周知している。処遇改善加算の取得が今年度初めてであり、賞与見込みの予測が困難であったが2年目以降は解消されるものと思われる。より経営改善に向けるためには事業ごとに改善策を深化する必要がある。

・妥当性

インパクト同様、より正確な財務状況を毎月把握することは、経営改善に繋がり住民（裨益者）への利益になると考えられる。

・持続性

寄付に関しては、我々の活動について必要性を広報することで持続性を期待できる。また、事業指定の物品寄付が年々増加しており事業への市民参加や理解促進が図られている。

| | | |
|-------------|---|-------------|
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） ・総務課長 1名 ・総務課長補佐 1名 ・係長（会計担当）1名 ・会計担当事務員 2名 | ○配置車両：※課内共有 |
|-------------|---|-------------|

【地域福祉課 地域支援係】

Ⅱ. 事業目標

＜地域福祉課＞

- ・地域住民の生活を支える中核機関として、住民やボランティア、保健・福祉・学校等の関係者、行政機関との連携・協働を図りながら、あらゆる地域生活課題への対応と地域のつながりの再構築に向けて取り組む。

＜地域支援係＞

- ・福祉の学びや体験の機会を増やししながら、新たな担い手の育成と確保を図る（Ⅰ-(1)身近な福祉への気づきの醸成、Ⅰ-(2)福祉への参加人口増加）
- ・誰もが安心・安全に暮らし続けられる地域づくりを推進する（Ⅱ-(1)場の創出、Ⅱ-(2)つながり・支え合いの充実）
- ・様々な生活課題の対応に向けて相談支援機能の充実に努める（Ⅳ相談機能の向上・福祉サービスの充実）
- ・必要な生活支援サービスの確保や新たなサービスの開発に努める。（Ⅴ新たな課題への対応）

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------|---|-------------------------------|----------------------------|-----------|----------------------------------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①福祉教育の推進 | 身近な福祉への気づきの醸成 学校における福祉教育 社会的包摂に向けた福祉教育と参加支援 | 児童生徒 教職員 福祉施設・事業所 一般 | >>児童・生徒対象体験教室実施（談・打合せ・振返り） | 年50件 | 年間35件実施。市内福祉事業所等と連携し、多様なプログラムを実施 |
| | | | >>学校訪問 | 年60件 | 計画通り実施。体験教室打合せや作文コンクール事務で訪問。 |
| | | | >>施設職員等との福祉教育プログラム検討 | 年1回 | 実施なし |
| | | | >>福祉教育プログラム更新 | 3つ追加または更新 | 今年度よりゴールボールのプログラムを実施 |
| | | | >>プログラムのモデル実施 | 年3回 | 市内小学校3校でゴールボールを実施 |

| | | | | | |
|--------------------|--|----|--------------------------------|------------------------------------|--|
| | | | >>資源の創出（当事者団体への相談、施設との連携・協力） | 打合せ3回 | 実施なし |
| | | | >>研修会・情報交換会開催 | 年1回 | 実施なし |
| | | | >>みやっこタウン実行委員会 | | 10月開催に向けて、会議に5回参加 |
| | | | >>みやっこタウン企画参加 | 年1回 | 10月に実施。ボランティアにかかる大学ブースを開設。 |
| | | | >>ふくしすけっと隊開催（夏休み福祉教育企画） | 年1回 | 時期を変更して、子ども手話教室検討、企画したが、開催にまでは至らなかった。 |
| | | | >>福祉作文・標語コンクール開催 | 年1回 | 9月に審査会実施。10月に表彰式実施。 |
| | | | >>和来輪来まつり開催 | 120人 | 約200人参加。コロナ感染症で延期。福祉大会と併せて実施。市内福祉事業所、関係機関と連携し開催することができた。 |
| ②ボランティア・市民活センターの運営 | 福祉への参加人口の増加 情報発信と担い手の確保 コーディネート機能の充実 | 住民 | >>ボランティア・市民活動団体情報交換会開催（さ・わカフェ） | 年3回 | 被災者支援に携わる団体を対象に、3月のみ1回開催。 |
| | | | >>情報発信（ボラセンだより）・SNS更新・助成事業案内 | SNS: 月2回 助成事業: 3回 VCだより: 12回 | Facebookとブログの更新13件。助成事業案内を3回実施。 |
| | | | >>施設・関係機関等への訪問、聞き取り（随時） | 年3回 | 実施なし。 |
| | | | >>活動ニーズ、活動状況の把握（通年） | 相談年60件、訪問年60件 | 相談: 市外団体から被災者との交流を希望する相談に対応。 |

| | | | | | |
|--------------|------------------|---------|---------------------------------|-------------------|---|
| | | | | | 訪問：出張相談を中心に、36回実施。 |
| | | | >>活動団体支援/ボランティア連絡協議会事務局運営（通年） | | 総会：6月実施。 運営委員会：2月実施。 |
| | | | >>ボランティア関係保険手続き | 年600人 | 642名が手続きを行う。 |
| | | | >>ボランティア講座等福祉への参加機会の創出 | 年2回 | 学習支援員登録研修会を実施。14名の参加 |
| | | | >>〇〇プロジェクト実施(場の創出・被災者生活支援事業と連携) | 年3回 | 実施なし |
| | | | >>岩手県社協ボランティア・市民活動センター企画委員会への参加 | 年2回 | 第1回：3月に参加 |
| ③高齢者サロン | つどい、通いの場の創出・地域交流 | 住民 | >>サロン新規立上支援/相談・訪問 | 新規立上年1箇所 | 活動の相談2件。新規なし |
| | | | >>活動継続支援/相談・訪問 | 訪問年60件、レク用品貸出年60件 | 訪問20件、レク用品24件 |
| | | | >>多様な通いの場の創出にむけた協議 | 年3回 | 体操教室立ち上げ1カ所 |
| | | | >>リーダー研修会企画参加及び運営協力 | 年4回 | 未実施 |
| | | | >>地域イベント、サロン情報発信 | 年3回 | 実施 |
| | | | >>サロン連絡会開催（5圏域） | 各1回 | 北部、西部包括でサロン連絡会を実施。地域の活動について情報交換を行うことができています |
| | | | >>サロン合同連絡会開催 | 年1回 | 未実施 |
| | | | >>各種研修会の案内 | 年5回 | 未実施 |
| ④つながり・支え合い支援 | 見守り支援配食 | 生活困難世帯等 | >>配達時の見守り活動 | 年240件 | 1699件。感染対策を強化して実施 |
| | | | >>宅配ボランティアの養成 | 10人 | 配達ボランティアとして4名登録。ポ |

| | | | | | |
|----------|---|-----------|---|----------------------------|---|
| | | | | | ランティアの集い 実施 |
| | | | >>中継点の活用 | 5ヶ所 | 2か所実施。田老地区拠点。毎週月曜日金浜老福センターを中継点として活用 |
| | | | >>地域内のネットワークづくり | 随時 | 各包括との連携 |
| | 災害時の支援体制 | 行政職員 | >>宮古市との災害時連携協力体制の構築 | 協定締結 | |
| | | | >>災害ボランティアセンター研修・訓練実施 | 年1回 | 計画通り実施 宮古圏域の市町村社協を対象に実施 |
| | 介護機器貸出・点検 | 高齢者、障がい者等 | >>介護機器の貸出点検の実施/ >>利用者の状況確認、見守り活動 >>定期的に訪問点検（半年に1回） >>利用者の状況把握と関係機関との連携 | 年57件 年10件 随時 | 他部署、他事業所の協力により迅速な対応ができた 電話での状況確認、点検を実施 状況に応じてケアマネジャーと連携を図りながら、状況把握を実施 |
| ⑤被災者生活支援 | 生活支援の相談継続 つどい、通いの場の創出・地域交流 地域見守り支援拠点の運営 | 被災者 住民 | >>訪問、見守り支援個別 >>事例検討会実施（現地事例検討会参加） >>アセスメント見直し及び支援度区分判定 | 年5,040件 年1回 | 生活支援相談員数の減少により、訪問件数減となる。 長年の処遇困難ケースにおいて、各関係部署協力によりサービスにつながったケースあり 県社協年間計画に基づき計画どおり実施 アセスメント会議様式を作成し、複数人で見直しを図り |

| | | | | | |
|----------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------------|-------|---|
| | | | | | 効率よく実施できた |
| | | | >>各種研修会及び情報交換会への参加 | | 県社協の年間計画に基づき参加 |
| | | | >>被災者連絡調整会議への参加 | 年4回 | 宮古市主催により計画どおり参加 |
| | | | >>見守り支援拠点サロン運営(毎週木曜日) | 年120人 | 参加者増により年間計画を上回った |
| | | | >>住民支え合いマップづくり(新規・継続含む) | 年4地区 | マップ研修地区を実施(1地区) |
| | | | >>一般世帯を含めアウトリーチ等を通じた継続支援の検討 | | 関係機関と連携し同行訪問実施 |
| ⑥低所得世帯相談 | 生活福祉資金貸付 たすけあい銀行貸付 | 低所得世帯 障がい者世帯 高齢者世帯 生活保護世帯 | >>アセスメント、支援計画作成、申請手続、交付決定手続 | 年300件 | コロナ特例貸付終了後も減収が継続している世帯から相談あり 貸付に該当しない場合は他制度や就職相談窓口へつなぐ |
| | | | >>償還滞納世帯状況把握訪問 | 年70件 | 長期滞納世帯を重点的に訪問。来所相談に繋がり、減額償還の手続きを行ったケースあり |
| | | | >>生活困窮者自立支援事業との連携(通年) | | プラン作成に伴い、次回の収入見込み日までのつなぎとして貸付が必要になるケースがある。相談の場に同席し、対応している |
| | | | >>研修会・事例検討会開催(合同) | 年1回 | 実施なし |
| | | | >>支援会議開催 | | 実施なし |
| | | | >>滞納世帯償還指導面接(県社協主催) | 年1回 | コロナ感染拡大防 |

| | | | | | |
|---------------|---------------------------------------|--------------------------|---|--------|--|
| | | | | | 止の為、今年度は実施見送り |
| | | | >>適正化委員会開催 | 年1回 | 5月に実施 |
| ⑦心配ごと相談 | 課題解決へ向けた協力・援助 | 住民 | >>専門相談員（司法書士）へのつなぎ | 年24件 | 地域福祉課職員にて対応。相談機関の充実により、専門相談員へのつなぎは無 |
| ⑧社会福祉大会 | 福祉活動の普及・推進 | 福祉活動推進者 関係機関・団体 一般 | >>県社会福祉大会参加 | 年1回 | 計画どおり |
| | | | >>社会福祉関係者の表彰 | | 計画どおり |
| | | | >>市社会福祉大会・シンポジウム開催 | 250人 | コロナ禍により表彰式のみ実施に変更 |
| ⑨民生委員児童委員活動支援 | 地域づくりに向けた連携・協力 | 民生委員・児童委員 | >>地区民協活動助成金交付 | 年2回 | 計画通り実施 |
| | | | >>互助共励給付金交付手続き窓口 | 随時 | 5件の申請手続き実施 |
| ⑩敬老会助成 | 助成金交付 | 町内会・自治会、地域づくり委員会等 | >>敬老会開催地区助成 | 年76件 | 57件の助成各地区、記念品の配布等、実施 |
| ⑪共同募金 | 地域福祉活動財源の確保（活動基盤の充実） 地域生活課題の把握 | 一般 | >>共同募金委員会事務局運営 運営委員会（年5回）審査委員会（年3回） 地区募金委員会（年3回）業務監査（年4回） 県共同募金会報告 | 共募事業計画 | 感染拡大防止の為8月の会議を书面決議に変更。また、その後の会議については、参集型とリモート形式での併用開催で計画通り実施 |
| | | | >>共同募金運動 運動計画立案、団体との連絡調整 | 共募事業計画 | 年度当初より募金実績増につながる手立てを検討。市内施設へ直接訪問し、自動販売機設置の協力依頼を行う。共募委員の意見を参考にし、コラボ商品 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------------------|----------------|-----------------------------------|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----------------|---|-------|-------|--|-----------------------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 及びグッズの商品化。街頭募金に変わる活動として市内イベントへの参加 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 共募事業計画 直接の事業所訪問にて活動への協力を依頼 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 共募事業計画 随時対応。郵送、広報誌、ホームページにて周知 |
| ⑫企画・広報 | 広報・情報発信 デジタル活用 | 一般 | >>広報誌作成・発行（社協だより） | | | | | | | | | 年3回 | 計画どおり | | | | |
| | | | >>ボラセン情報発信 | | | | | | | | | 年36回 | ブログやFacebookを中心に、13回更新 | | | | |
| ⑬人材育成 | 実習受入 | 学生 | >>キャリア教育、インターンシップ実習受入（随時） | | | | | | | | | 随時受け入れを実施する。 | 10月に約1ヶ月間受け入れ実施 | | | | |
| | | | >>ソーシャルワーク実習受入（前期・後期） | | | | | | | | | | 1人受入れ | | | | |
| | | | >>各種研修参加、研修報告会（通年） | | | | | | | | | | 市外での参集型の研修やリモートでの研修会に参加 | | | | |
| ⑭調査・研究 | 新しい課題への対応と見直し | 一般 | >>生活圏域情報交換会開催 | | | | | | | | | 8圏域 | 今年度は民協単位を中心に7ヶ所で開催 | | | | |
| | | | >>地域福祉活動計画評価委員会開催 | | | | | | | | | 年1回 | 開催の検討を実施し、今年度見送り | | | | |
| | | | >>地域福祉活動推進委員会（仮称）等の設置準備 | | | | | | | | | 地域で開催される委員会等の把握 | 4C会議で各地域の現状把握を実施 | | | | |
| ⑮会員・会費事業 | 社協会費 | 一般会員・法人会員・特別会員 | >>社協会費活動（7月重点月） 一般会費、法人会費、特別会費 | | | | | | | | | 前年度実績額 | 一般 14,774,353円 法人 1,449,000円 特別 478,000円 16,701,353円 | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | |
| 体験教室 | 5 | 5 | 9 | 3 | 0 | 3 | 2 | 5 | 0 | 1 | 2 | 0 | 35 | 70.0% | 50件 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| 学校訪問 | 6 | 8 | 14 | 5 | 2 | 6 | 4 | 8 | 3 | 1 | 2 | 1 | 60 | 100.0% | 60件 |
| ボランティア相談件数 | 7 | 3 | 4 | 2 | 3 | 2 | 4 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 36 | 30.0% | 120件 |
| ボランティア訪問支援件数 | 2 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 3 | 36 | 60.0% | 60件 |
| 情報発信件数 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 2 | 2 | 13 | 36.1% | 36件 |
| ボランティア保険手続 | 311 | 150 | 56 | 56 | 17 | 8 | 19 | 1 | 2 | 14 | 0 | 8 | 642 | 107.0% | 600人 |
| サロン訪問件数 | 0 | 1 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 20 | 33.3% | 60件 |
| レク用品貸出件数 | 0 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 5 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 | 40.0% | 60件 |
| 見守り配食件数 | 94 | 137 | 173 | 145 | 150 | 148 | 143 | 140 | 142 | 130 | 137 | 160 | 1,699 | 707.9% | 240件 |
| 介護機器貸出件数 | 3 | 2 | 4 | 7 | 5 | 4 | 5 | 6 | 6 | 4 | 5 | 6 | 57 | 61.3% | 93件 |
| 介護機器点検件数 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 10 | 19.6% | 51件 |
| 被災者支援件数 | 105 | 112 | 201 | 226 | 38 | 311 | 301 | 189 | 565 | 178 | 289 | 266 | 2,781 | 55.2% | 5,040件 |
| 見守り支援拠点サロン利用者数 | 18 | 13 | 35 | 22 | 0 | 38 | 33 | 25 | 34 | 21 | 24 | 28 | 291 | 242.5% | 120人 |
| 資金相談件数 | 16 | 22 | 23 | 14 | 18 | 12 | 20 | 27 | 18 | 28 | 26 | 21 | 245 | 81.7% | 300件 |
| 償還訪問件数 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 5 | 2 | 13 | 10 | 1 | 3 | 45 | 64.3% | 70件 |

| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 福祉教育プログラム検討 | | | | | | | | | | × | | |
| プログラムのモデル実施 | | | ○ | ○ | | × | × | ◎ | | | | |
| 資源の創出 | | | | | | × | × | × | | | | |
| 福祉教育研修会 | | | | | | | | | | | × | |
| ふくしすけっと隊 | | | | × | | | | | | | | |
| 福祉作文標語コンクール | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 和来輪来まつり | | | | | | | ◎ | | | | | |
| さ・わカフェ | | × | | | | | × | | | | × | ○ |
| ○○プロジェクト | | | × | | | | | × | | | | × |
| ボランティア研修 | | | ◎ | ○ | | × | | | | | × | ○ |
| 事例検討会 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 被災者連絡調整会議 | | ◎ | | | ◎ | | | ◎ | | | ◎ | |
| 住民支え合いマップづくり | | × | | | × | ◎ | | × | | | ◎ | |
| 適正化委員会 | | ◎ | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 社会福祉大会 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| 民児協助成 | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | |
| 敬老会助成 | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 社協だより | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | ◎ |
| ボラセン情報発信 | × | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | × | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ソーシャルワーク実習受入 | | | | | ◎ | | | | | | | |
| キャリア教育実習受入 | | | | | | | ◎ | | | | | |
| 生活圏域情報交換会 | | | | ◎ | × | ◎ | | | | | ○ | ○ |
| 地域福祉活動計画評価委員会 | | | | | | | | | | | × | |

【総合評価】

・効率性

全体的に生活支援相談員の減少や職員体制が整わない事があり、業務予定の変更をせざるを得ない時もあったが、延期等しながら開催することができた。また、時期や状況によって一部の職員へ業務が集中してしまい、事業担当の変更や他職員でも対応できるように努め、これまでの事務処理方法の見直しや事務の効率化も図った。

・有効性

開催手法を見直し規模を縮小しながら、初めて社会福祉大会とわくわくまつりの併催に取り組み、市内関係機関及び社協内他事業との協働とともに、地域の社会資源の支援を具体化できたのは成果である。

また、数年ぶりに地域の団体との情報交換会や配食ボランティア懇談会を開催、課題や今後の方向性、社協へ求める役割等が確認でき、有効的な機会となった。

・インパクト

共同募金委員会等において募金額の減少について検討、企業の協力をいただき寄付付き商品及び市内の障がい者事業所等の協力でグッズの商品化を実現。今までアプローチがなかった事業所へも反響があり間接的なつながりができた。

・妥当性

事業の実施やアウトリーチにより、地域の課題や類似のニーズが明らかになっており各事業のニーズは妥当と思われるが、事業自体の内容の見直しや改善の必要がある。

・持続性

妥当性同様、地域の課題やニーズに即した事業の見直しや改善を図り、引き続き必要な事業は実施。また、コロナ特例貸付の終了により新規相談及び借受世帯からの継続相談支援行う。

| | | |
|---|--|---|
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職 1名 ・生活支援相談員 6名 ※内1名田老配置 ・資金貸付相談員 0.5名 ・生活支援コーディネーター（1層） 1名 ・生活支援コーディネーター（2層） 1名 | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職 1名 ・生活支援相談員 5名 ・資金貸付相談員 2名×0.25 ※生活支援係兼務 ・生活支援コーディネーター（1層） 1名 ・生活支援コーディネーター（2層） 1名 | <p>○配置車両：</p> <ul style="list-style-type: none"> スズキアルトバン 4台（リース） スズキアルトバン 1台（リース）※配食 トヨタハイエース 1台（乗用）※他事業共有 トヨタハイエース 1台（貨物）※他事業共有 |
|---|--|---|

【地域福祉課 生活支援係】

〈宮古地域福祉権利擁護センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・分野横断的な相談支援や権利擁護の推進等の住民生活に関わる福祉関連事業を総合的に実施する。
- ・認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等の方が地域において自立した生活が送れるようにする為に、福祉サービスの利用援助事業を推進する。
- ・専門員一人当たりの契約基準(35名)に基づき、事業実施に支障のないよう関係機関と調整を図る。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|--------------|--|----------------------|--|--|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 福祉サービス利用援助 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに係る相談業務 ・福祉サービス利用援助契約の締結 ・支援計画作成 ・書類等預かり物件に係る保管業務 ・利用者支援 ・モニタリング | 認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の課題解決に努める ・利用者のプライバシーへの配慮 ・相談援助を通して、利用者のアドヴォカシーに努める ・申請受付と契約締結ガイドライン作成 ・支援計画の作成 ・県社協の契約審査会に諮る。また契約締結に疑義が生じた場合には、再度契約審査会に諮る ・預金の払い戻し・解約・預け入れの手続き・日常生活費の支払い・管理等（金庫からの出し入れ等は複数チェックで実施） ・利用者の意向に基づき手続き及び調整 ・利用者の意思確認及び関係機関との連絡 | 相談件数：1,404件 支援回数：1,440回 契約締結者：90名 モニタリング：180件 | 相談件数：2,045件 支援回数：1,567回 契約者数：100名 モニタリング：160件 モニタリング件数は目標値を下回ったが、ガイドラインに示されている実施回数は満たした。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|--|--|--|--|--|------------------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 調整 ・専門員の的確な調整・指示のもと生活支援員による正確な支援を実施 ・支援内容の複数チェック体制を確立 ・定期的な実施状況の確認及び評価 ・成年後見制度への移行支援及び利用促進 | | | |
| ②専門職としての資 質向上 | ・専門員の的確な指 導・研究 ・内部研修会、外部 研修会への参加 | 職員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ・外部・内部会議等に積極的に参加し専門 的知識を習得 ・「高齢者・障がい者の理解」「虐待防止」 等本事業に係る内外の研修に参加 | 外部会議：33件 内部会議：3件 研修：6件 | 外部会議：15件 内部会議：3件 研修：4件 | |
| ③事業の普及・啓発 | ・広報、啓発 ・地域の権利擁護体 制強化 | 地域・住民 関係機関 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ・地域や関係機関に本事業を理解されるよ う普及・啓発に努める ・基幹、協力社協で「社協だより」等に当 事業について記事掲載しPRする ・パンフレットを関係機関へ配布 | 年数回 年1回 | 啓発活動：年6回 広報掲載：年4回 | |
| ④運営管理 | ・コンプライアンス の強化 | 職員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ・的確な利用料算定及び請求 ・利用料の集金を確実に実施 ・生活支援員報酬算定及び明細書の作成 ・運営適正委員会へ定期的な報告 ・県社協の業務点検の調査への協力 | 月1回 年1回 年1回 | 月1回実施 県社協調査における業 務改善事項については 是正改善報告済。 | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | | | | | | | |
| 開所日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 21 | 242 | 100.0% | 242日 | | | | | | | | |
| 利用者数 | 89 | 90 | 92 | 93 | 94 | 95 | 98 | 97 | 98 | 100 | 100 | 100 | 1,146 | 106.1% | 1,080人 | | | | | | | | |
| 相談件数 | 114 | 169 | 195 | 188 | 198 | 178 | 173 | 204 | 175 | 169 | 158 | 124 | 2,045 | 145.7% | 1,404件 | | | | | | | | |
| 成年後見制度移行 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 33.3% | 3件 | | | | | | | | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | | | | | | | |
| 契約締結審査会 | ◎ | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | |
| 権利擁護部会 | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 障がい者差別解消推進委員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | × | | | |
| 高齢者虐待防止ネットワーク会議 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | × | | |
| 研修会(参加・主催) | ○ | × | × | | | × | × | ○県社協 | | | ◎ | | | | | | | | | ◎ | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--|-----------------------------------|-------|--|---------------------------|--|--|--|
| 現地調査／業務点検 | | | | X → ○ | | ○ ← X | | | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性 業務マニュアルを作成。人員体制も整い新規相談対応も概ね短期間で対応することができた。財源については頭打ち状態であるため今後も改善は難しいと考える。記録、請求事務に関しては成年後見センターと一体化したシステムを導入し業務時間の大幅な短縮につながった。 ・ 有効性 相談件数は目標値を大幅に上回り、契約数も増えたことから統計的には目標として「事業利用が必要な方の福祉サービス利用援助事業を推進することへの効果は非常にあった。一方、専門員一人当たりの契約基準(35名)を基に関係機関と調整を図ることは当事業のニーズの高さから新たな仕組みが構築されない限り実態としては非常に難しく目標の見直しが必要となった。現契約者については、成年後見センターと連携し成年後見制度への移行が望ましいと思われるケースをリストアップし、その内6件について関係機関と協議を進めることができた。実際に後見制度への移行数は1件と目標を達成することはできなかったが、本人の権利擁護支援について関係機関への働きかけができたと考える。 ・ インパクト 目標の見直しを行い、相談の入り口段階では速やかな対応に努めた。その結果、実際の利用までに待機者が発生した。前述にもある通り当事業のニーズの高さからみても今後も増えることが想定されるため、短期解決策としては生活支援員の増員を検討する必要がある。また上位目標達成には、利用者の課題背景や支援を必要とする理由に目を向けながら、困難事例については内部の相談支援事業と連携した支援方針会議や医療、法律、消費生活センター等幅広い支援関係者との積極的な連携が必要となってくる。 ・ 妥当性 相談件数及び契約数からみても当事業ニーズは非常に高い。しかしながら、本事業の中核的な役割である福祉サービスの利用援助より、日常的な金銭管理を支援者から依頼されることが実態であるため専門員による家計管理が非常に求められる。本事業の役割と立ち位置を再確認し、相談時に当事者を中心とした支援について依頼者（相談者）と十分に協議し今後の方針を共有していく必要がある。 ・ 持続性 生活支援員の高齢化もあり、今後の事業継続には生活支援員の人材確保と研修等による育成が必須となる。また、事業継続する上では上記評価項目のとおり、財源確保はもちろんのこと、当事業単体でなく多様な関係機関への働きかけや会議運営について新たなプロジェクトの視点と実践力、調整力が必要となってくる。 | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・ 専門員兼成年後見コーディネーター2名 | | | ○職員体制（現行） ・ 専門員兼成年後見コーディネーター2名 | | | ○配置車両： ・ トヨタアクア 1台（所有） | | | |

〈宮古圏域成年後見センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・ 判断能力が十分でない方への意思決定支援や身上監護が適切になされるよう相談窓口の明確化と制度理解の促進。
- ・ 権利擁護支援の地域連携ネットワークづくり。
- ・ 制度運用に係るニーズ把握と資源調整。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | | | 活動対象 | | | 活動項目への取り組み | | | 評価 | | | | | |
|-----------|------------|----|--------------|--------------------------|----|---|---|-----|------|---------------------------|---|------|-----|-------|-------|
| | | | | | | | | | | 目標値 | | コメント | | | |
| ① 中核機関の運営 | 広報・啓発 | | | 市町村民/関係機関・団体 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村広報誌への窓口周知 ※市町村広報/社協だより活用 ・用途別パンフレット作成 ・関係機関へのチラシ配布 ・利用促進セミナー開催 ・関係機関研修会開催 | | | 年8回 (4市町村×2紙面) | 4市町村計8回掲載 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年1回 | 作成完了 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年1回 | 配布完了 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年1回 | 岩泉町社協主催研修に講師派遣として代替 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年5回 | 他機関主催研修に講師派遣として代替 | | | | |
| | 相談支援 | | | 本人/家族/関係機関/日常生活自立支援事業担当者 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・来所/電話/訪問による相談対応 ・町村部での出張相談会 ・町村社協窓口との連携 ・アセスメントシートの作成 ・関係機関支援会議等への参加 | | | 新規年60件 | 目標達成 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年9回以上 | 町村各2回の実施 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年24回 | 目標達成 | | | | |
| | | | | | | | | | | シート作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・共有シート配布 ・システム導入 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年8回以上 | 年8回/主催年4回 | | | | |
| | 制度利用促進 | | | 本人/家族/関係機関 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・日事担当者定期ミーティング ・本人情報シート活用 ・後見ニーズの把握 ・受任者（専門職）との連携 | | | 月1回 | 毎月実施 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年3回以上 | 年5回活用 | | | | |
| | | | | | | | | | | 年1回 | 調査全4種 201ヶ所に実施。 | | | | |
| 年20回 | | | | | | | | | | 未達成。申立てまでに関わるケースが少なかったため | | | | | |
| 後見人支援 | | | 専門職後見人/家庭裁判所 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・後見人相談 ・司法との連携 | | | 年20件 | 年14件。親族後見人の把握ができず目標値を下回る。 | | | | | |
| | | | | | | | | | 年2回 | 年7回。目標達成 | | | | | |
| ② 協議会の運営 | 広域ネットワーク会議 | | | 行政/社協職員 | | | 市町村職員/市町村社協職員協議 | | | 年2回 | 年5回実施 | | | | |
| | 協議会運営 | | | 関係者 | | | 協議会開催 | | | 年1回 | 目標達成 | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 21 | 242 | 99.6% | 243日 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------|------|
| 相談件数（新規） | 1 | 5 | 10 | 4 | 6 | 6 | 10 | 3 | 1 | 4 | 6 | 11 | 67 | 111.7% | 60件 |
| 相談件数（延べ） | 1 | 8 | 14 | 8 | 11 | 13 | 16 | 20 | 17 | 24 | 29 | 63 | 224 | 186.7% | 120件 |
| 受任者との連携 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 13 | 65.0% | 20件 |
| 後見人支援 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 | 45.0% | 20件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 広報 | | | | ◎ | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| チラシ配布 | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | ○ |
| セミナー開催 | | | | | | | | | | × | | | | | ○ |
| 研修会開催 | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | × | ○ | | | |
| 出張相談会 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 定期ミーティング | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ニーズ把握 | | | | | | | | | × | × | → | ◎ | ○ | | |
| 司法との連携 | × | | | | | | | | × | | | | | | |
| 市町村担当者会議 | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | ○ | × | → | ○ | | | |
| 協議会開催 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |

【総合評価】

・効率性

圏域内の行政間で当事業の必要性について合意が諮られた上での受託事業であったが、行政担当者が変わったことで再度事業の目的や運営体制についての協議に時間を要した。そのためセンター開所の周知が遅れることとなったが、下半期より各種会議の開催や各団体主催の研修会等で説明していくことで初年度としては概ね計画通り達成できたと考える。

・有効性

当圏域の制度利用に関するニーズ把握のため、圏域内の福祉施設・事業所をはじめ病院、金融機関等、全4種の調査を201ヶ所に実施。全ての調査において有効回答率は75%以上となり活動としては非常に効果があった。さらに、新たに立ち上げた地域連携ネットワーク協議会において、アンケート集計結果をもとに当圏域のニーズや今後必要な取組みを福祉、医療、司法のほか金融機関、土業等幅広い関係者ととも共有し協議できたことはプロジェクト達成に大きな効果があった。

・インパクト

プロジェクト実施により多機関多職種と制度利用が必要と考える方(本人)を中心とした支援について協議する場を各場面において実施したことにより、相談支援に携わる方達の知識習得や後見制度に留まらない幅広い視点の持ち方を学ぶ機会となった。一方で、今までの申立てまでの流れに変化が生じたことで第一次相談機関において一部戸惑いが生じる場面が見られたことは要因の分析と引き続き整理が必要と考える。また、上記目標達成には地域連携ネットワーク協議会がより活発になっていくことが必要な要素の一つと考える。

・妥当性

国をはじめ委託元の各種計画に基づき実施している。有効性に記載のとおり目標達成にむけた活動としては十分に評価できる。当年度の活動を通して、目標達成のためには広報啓発のさらなる強化が必要と認識したことから活動を広げていくこととしている。

・持続性

圏域を対象としたプロジェクトであることから地域性が大きく影響する。今後も委託元と十分にプロセスを確認しながら進めていきたいと考える。

| | | |
|--|--|-------------------------------------|
| ○職員体制（運営規程） ・ 所長 1名 ・ 社会福祉士 1名 ・ 相談支援員 1名 ・ 事務員 0.5名 | ○職員体制（現行） ・ 所長 1名 ・ 社会福祉士 1名 ・ 相談支援員 1名 ・ 事務員 0.5名 | ○配置車両： ・ （ヴィッツ 1台） ・ （軽車両 1台） |
|--|--|-------------------------------------|

<くらしネットみやこ相談室>

II. 事業目標

- ・ 多様で複合的な課題を抱える相談者に寄り添い、適切なアセスメントを通じて継続的な自立相談支援を展開する
- ・ 生活困窮者（世帯・子）の早期発見や孤立防止のための取組やネットワークを構築する
- ・ 働く場や参加する場を広げていくため、既存の資源を活用、調整または開発に努める
- ・ ひきこもり等、社会とつながりにくい状態にある方の思いに寄り添うため継続訪問を行なう

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------------|-------------------|----------------|----------------------------|-------------|-----------------------------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 自立相談支援 | アセスメント | 生活課題を抱えた方 | 相談支援 | 年2,160件 | 目標値達成 |
| | プラン作成 | | プラン作成 | 年36件 | 目標値達成 |
| | プラン実施 | | 支援調整会議 | 年12回 | 計画通り |
| | モニタリング・評価 緊急支援 | | 任意事業（住居確保・家計・就労・就労準備、一時生活） | 年120件 | 概ね計画どおり |
| | | | プラン者のモニタリング・評価 | 年20回 | 計画どおり |
| | | 食料支援・住居確保・一時生活 | 年60件 | 増加傾向 | |
| ② こども食堂・親への自立支援 | こども食堂 | 生活困窮・ひとり親世帯 | しおかぜキッチン | 年12回・各回10世帯 | 実施回数は計画通り。参加世帯が若干の減。 |
| | 学習支援 | 生活困窮世帯 | 居場所型学習支援（しおかぜリビング 通年・長期休暇） | 年50回以上 | 長期休暇のみの実施のため実績減。数値目標の見直し検討。 |
| ③ アウトリーチ機能 | 機関連携 | 支援が必要だが行き | 貸付事業・他相談機関との情報共有 | 相談実績年10人 | 計画通り |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------------|-------------|----------------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------|---------|
| | こども食堂 | 届いていない人 | 地域共生型こども食堂 | 年10回以上/6ヶ所 | 計画通り | | | | | | | | | | |
| | 学習支援 | | 集合型学習支援まなびネット | 年10回以上/6ヶ所 | 計画通り | | | | | | | | | | |
| | 訪問活動 | ひきこもり状態にある方 | アウトリーチ支援員による訪問支援 | 年12回以上 | 計画通り | | | | | | | | | | |
| | フードパントリー | 生活困窮・ひとり親世帯 | 食料・日用品無料配布 | 年2回以上 | 計画通り | | | | | | | | | | |
| ④ 社会資源の活用と創出 | 企業との連携 | 一般就労が困難な相談者 | しごとネット | 2社以上 | 目標値達成 | | | | | | | | | | |
| | 就労準備支援 | | 職場見学・就労体験 | 年2回/2人以上 | 計画通り | | | | | | | | | | |
| | | | 就労準備各種プログラム | 月1回以上 | 再計画要 | | | | | | | | | | |
| | | | 荒波キッチン | 商店街との交流月1回以上 | コロナ禍により交流はできず | | | | | | | | | | |
| 機関連携・資源創出 | 市内社福法人・医療機関・行政・相談機関 | CAFE風運営 | 年1,560人 | 来客数減 | | | | | | | | | | | |
| | | ミヤココ運営協力 | 年40回以上 | 計画通り | | | | | | | | | | | |
| | | | 多機関多職種事例検討会 | 年1回 | 未実施 | | | | | | | | | | |
| ⑤社会的孤立防止・解消 | 研修開催 | 地域住民 | こども支援研修会(こども食堂・学習支援) | 年1回 | 実施済 | | | | | | | | | | |
| | | | こども食堂研修会(フレンドカフェ) | 年1回/継続参加5人 | 視察研修実施 | | | | | | | | | | |
| ⑥相談員資質向上 | 研修参加 | 職員 | 生活困窮者全国交流研究大会 | 年1回 | 今後予定 | | | | | | | | | | |
| | | | 研修受講(オンライン含む) | 随時 | 随時受講 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 新規相談 | 22件 | 31件 | 30件 | 26件 | 45件 | 22件 | 16件 | 20件 | 25件 | 27件 | 22件 | 19件 | 305件 | 127.1% | 240件 |
| 相談件数(延) | 148件 | 193件 | 223件 | 208件 | 210件 | 198件 | 162件 | 164件 | 186件 | 195件 | 182件 | 213件 | 2,282件 | 105.6% | 2,160件 |
| プラン作成数 | 4件 | 4件 | 4件 | 2件 | 3件 | 4件 | 0件 | 1件 | 5件 | 2件 | 1件 | 3件 | 33件 | 91.7% | 36件 |
| プラン利用数 | 10件 | 12件 | 12件 | 10件 | 8件 | 9件 | 7件 | 5件 | 6件 | 8件 | 8件 | 6件 | 101件 | 84.2% | 120件 |
| 緊急支援数 | 9件 | 9件 | 11件 | 10件 | 8件 | 6件 | 2件 | 6件 | 10件 | 8件 | 5件 | 17件 | 101件 | 168.3% | 60件 |
| 就労者数 | 2件 | 1件 | 1件 | 2件 | 1件 | 0件 | 2件 | 0件 | 3件 | 1件 | 2件 | 3件 | 18件 | 150.0% | 12件 |
| しおかぜキッチン参加世帯数 | 6世帯 | 7世帯 | 7世帯 | 9世帯 | 6世帯 | 7世帯 | 7世帯 | 6世帯 | 9世帯 | 7世帯 | 7世帯 | 9世帯 | 87世帯 | 72.5% | 120世帯 |
| 地域共生型こども食堂 | 5地区 (6回) | 3地区 (3回) | 3地区 (3回) | 6地区 (7回) | 5地区 (12回) | 3地区(3回) | 4地区 (5回) | 3地区 (3回) | 5地区 (7回) | 6地区 (9回) | 3地区 (3回) | 6地区 (12回) | 6地区 (73回) | 132.7% | 5地区/55回 |
| 居場所型学習支援 | 0回 | 0回 | 0回 | 2回 | 10回 | 0回 | 0回 | 0回 | 4回 | 2回 | 0回 | 3回 | 21回 | 42.0% | 50回 |
| 集合型学習支援まなびネット | 5地区 (6回) | 3地区 (3回) | 3地区 (3回) | 5地区 (6回) | 4地区 (9回) | 3地区 (3回) | 4地区 (5回) | 3地区 (3回) | 4地区 (6回) | 5地区 (7回) | 3地区 (3回) | 5地区 (9回) | 5地区 (63回) | 180.0% | 5地区/35回 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|--------|--------|
| 風来客数 | 186人 | 137人 | 198人 | 143人 | 116人 | 143人 | 149人 | 146人 | 128人 | 118人 | 142人 | 179人 | 1,785人 | 114.4% | 1,560人 |
| ミヤコ運営協力 | 3回 | 3回 | 5回 | 3回 | 3回 | 4回 | 4回 | - | - | - | - | - | 25回 | 52.1% | 48回 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 事例検討 | | | | | | | × | | | × | | | | | |
| こども支援研修会 | | | | ○ | | | | × | | | | | | | |
| 居場所型学習支援 | | × | × | ○ | ○ | × | × | × | ◎ | ◎ | × | ◎ | | | |
| 集合型学習支援 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 荒波キッチン | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| こども食堂研修会 | | | | | | | | | | × | | | | ○ | |
| フードパントリー | | | | | ◎ | | | | × | | | | | | |

【総合評価】

・効率性

年度当初から住居確保等の緊急支援を要するケースが頻発し1人の支援に費やす時間が大幅に増えた。課題解決が難しく、長期間伴走型支援を必要とするケースが増えてきているが、有効的支援が充足していないことから必ずしもプランに直結しないケースも多かった。また、表面化している課題の解決で相談者から終結となるため、相談件数と比較するとプラン件数は若干目標値を下回った。このことは、相談以外の活動に影響し遅れが生じる結果にもなった。一方、下半期より職員1名減となり体制が不十分な中、相談件数や就労支援数（就労者数）が目標を達成することができたこと、こども食堂や荒波キッチン等の活動を継続できたことは大いに評価できる。

・有効性

自立相談支援事業について数値目標は概ね達成。下半期より、社会とつながりにくい方への継続的な訪問を強化し相談につながれたケースもあった。しごとネットでは、新規の企業を2社開拓。その他、働く場や社会参加の場づくりのため、障がい分野の機関との連携を図った。就労準備ボランティアの活用や就労の場づくりについて会議へ参加、意見交換を行っている。学習支援事業については、小学校を卒業すると参加しなくなる児童が多く中学生の部はこれまでなかなか実績に結びつかなかったが、ターゲットのニーズをとらえ直し、目的意識を同じくするNPO法人と連携し運営方法を変えたことにより中学入学後も継続的な参加につながった。

・インパクト

昨年度から継続して食糧や物品の寄付が増えている。主にこども食堂やひとり親支援の情報が広く知られている成果だと考える。昨年度に引き続き、ひとり親対象のフードパントリーを実施。これをきっかけにアウトリーチの訪問や関係機関との情報共有につながったケースも出てきている。しかし、応募者が固定化されつつあり情報発信のあり方を検討する必要がある。

・妥当性

相談件数及びプラン数、任意事業実績、国の動向からみて当事業ニーズは高く、今後はさらにこれまで潜在化していた課題が表出し相談は増えていくことが予想される。今年度に入り“8050問題”にあたると思われるケースやひきこもりに関する相談が増加。ひきこもりについては関係機関からの相談も増え、これまで各機関で対応に苦慮してきたことがわかった。また、これまで同様住まいに関する相談も多いが、効率性及び持続性の評価のとおりその支援策が不足している。これらのことについて行政とも協議を重ねていく必要がある。

| | | |
|--|--|--|
| <p>・持続性</p> <p>事業として実施しているなかで居場所機能のニーズは高いことが顕著である。効率性にあるとおり、相談者の課題解決には入口だけではなく出口機能も充分でなければならない。そのためには当事業には地域づくりが必須であり、こども食堂、学習支援等、活動の担い手となり得る人材発掘や場の提供、ネットワーク化が今後必要となってくる。また、荒波キッチンやしごとネット、カフェ風についても今後の展開等を含めて地域づくりの一環として組織内外で検討していく必要があると考える。さらには、相談室及び就労準備支援拠点のいずれも建物の老朽化が問題となっており、事業の継続には大きな検討材料となっている。</p> | | |
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任相談支援員（社会福祉士）1名 ・相談支援員 2名 ・就労支援員 2名 ・家計改善支援員 0.5名 ・学習支援員 0.5名 ・アウトリーチ支援員 1名 ・学習支援コーディネーター 1名 | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任相談支援員 1名 ・相談支援員 3名(2名兼務) ・就労支援員 3名(1名兼務) ・家計改善支援員 1名(兼務) ・アウトリーチ支援員 1名 ・学習支援コーディネーター 2名(兼務) | <p>○配置車両：</p> <ul style="list-style-type: none"> トヨタヴィッツ 1台 ダイハツムーヴ 2台 トヨタハイエース 1台（子ども食堂） |

【在宅支援課】

＜宮古居宅介護支援事業所＞

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者、家族の意思を尊重しつつ、その意向を踏まえて、課題を分析してサービスを提案し、利用者・家族との相互理解のもと、支援を行っていく
- ・各事業所や地域とのネットワークを広げ、さらに多職種の連携を深めることで、利用者・家族の意向にスムーズに対応していく
- ・内部外部研修への参加や、文献・事例検討の読み込み等により自己研鑽を行い、個々の力を伸ばしていく。また事業所内で互いに自己啓発援助をしていくことで、事業所としての力を上げていく
- ・障害福祉サービスとの連携を図り、障害の方が介護サービスにスムーズに移行できるようにしていく

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------------------|---|----------------|---|-----------------------------------|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 居宅介護支援、介護予防・日常生活支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談業務 ・アセスメント、課題分析 ・居宅サービス計画作 | 利用者・家族 地域住民 | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧、迅速、的確な対応 ・利用者、家族の意向、総合的な援助方針、解決すべき課題、役割分担の確認、サービス実施状況の継続的な把握及び評価 | 提供数：2,640件 相談数：120件 (利用者以外) | 異動、退職に伴い4月より職員が2名減となった。1人当たりの受け持ちケースが決められてい |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---------------|---|----------------------------|---|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-------|--|
| | 成 ・担当者会議 ・計画説明、同意 ・計画交付 ・モニタリング ・再アセスメント | | | | | | | | | | | | | | る事もあり、持ちきれないケースを他事業所に依頼した。このこともあり目標値は達成できなかった。相談支援数は188件と目標達成できた |
| ②ネットワーク構築 | ・多職種との連携 | 医療・福祉・地域の関係機関 | ・いつでも相談出来る関係性を築く ・独居、認知症高齢者、重度の要介護者への対応 ・利用者の緊急時体制を把握し具体化 ・地域ケア個別会議等への参加 | 会議出席：100件 (担会含む) | 担会を含む会議の出席は100件を超えており目標達成できた。会議以外にも電話連絡等により情報の共有を行うことで、いつでも相談ができる関係が構築できている | | | | | | | | | | |
| ③資質向上 | ・各種研修会への参加 ・内部研修 ・満足度調査 | 職員 | ・ケアマネジメント、認知症ケア、接遇、対人援助技術、苦情処理、個人情報保護、認定調査に関する研修会、eラーニング、講習などに積極的に参加 ・事業所への評価をいただき質の向上や改善に役立てる | 内部研修：6回 外部研修：10回 年1回 | ・毎月の所内研修に加え、外部研修にも積極的に参加し質の向上に努めた ・満足度調査も実施した | | | | | | | | | | |
| ④運営管理 | ・法令、運営基準の再確認及び情報収集 ・給付管理 | 職員 | ・情報収集、必要な書類の定期的なチェックの実施 ・加算項目の的確な請求及び過誤請求の防止 | 月1回点検 | ・法令や運営基準に則り運営を行った。9/16の情報公表の調査でも特に指摘事項はなかった。今後も法令等を確認していく。また確実な請求を行っていく | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 30 | 31 | 30 | 25 | 27 | 26 | 26 | 26 | 26 | 24 | 24 | 27 | 322 | 89.2% | 361日 |
| 利用定員 | | | | | | | | | | | | | | | — |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|--|-----|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-------|-------|--------|
| 要支援（延） | 23 | 22 | 21 | 21 | 21 | 19 | 19 | 17 | 18 | 17 | 18 | 17 | 233 | 64.7% | 360人 |
| 要介護1・2（延） | 91 | 88 | 88 | 87 | 87 | 86 | 84 | 83 | 79 | 76 | 73 | 74 | 996 | 75.5% | 1,320人 |
| 要介護3・4・5（延） | 59 | 63 | 62 | 57 | 56 | 57 | 57 | 54 | 57 | 58 | 58 | 57 | 695 | 72.4% | 960人 |
| 合計 | 173 | 173 | 171 | 165 | 164 | 162 | 160 | 154 | 154 | 151 | 149 | 148 | 1,924 | 72.9% | 2,640人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 認定調査 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 職員研修 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| ネットワーク会議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 満足度調査 | | | | | | | | × | | ◎ | | | | | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率性 人員の減少に伴う担当人数及び役割の増加により余裕がない状態であったが、職員間での訪問調整やサービスの調整に努力し、利用者・家族に不利益が及ばない様に対応した。また、7月より日曜日が休日となったことで、平日勤務する職員の人数を確保することが出来、職員の負担軽減につながった。利用者・家族から日曜休みになった事での不安の訴えや苦情等もない。また、事例検討やミーティング等で情報の共有をすることで、担当が不在の時でも他の職員で対応することができている ・有効性 職員が減った事により他事業所に居宅変更となった方もおり提供数の目標には届かなかったが、現在の職員人数における提供数の目標でいくと提供目標数1,850件となり目標は達成できた。また提供数以外の相談支援も増えており次に繋がる支援ができている ・インパクト ZOOMや動画配信の利用で直接会場に出向かなくても効率的に研修を受けることができおり、専門職として利用者・家族に助言することもできている ・妥当性 事業目標に則した支援を行うことが出来ている。下半期で利用者・家族への満足度調査を実施し、98%の方が満足していると高評価を頂いた。この事は活動への取り組みは一定の効果があり妥当であったと評価できる。今後も満足度調査を実施し利用者・家族の声を生かしていきたい ・持続性 住み慣れた自宅や地域で生活していくためには、事業所だけでは支えることができない。関係する機関（医療・福祉・民生委員等）とも連携を図り利用者・家族を支えていく。また、資質向上のため内部、外部研修に参加し研鑽していく | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両： | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・介護支援専門員 1名以上 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・介護支援専門員 4名 | | | | | 3台（軽自動3台） | | | | | |

〈相談支援事業所〉

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者等が望む日常生活または社会生活を営むことができるように支援する
- ・利用者等の選択等に基づいたサービスが多様な事業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう支援する
- ・利用者等の意思及び人格を尊重し、常に利用者等の立場に立ち、特定のサービス事業者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行う
- ・市町村、障害福祉サービス事業者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善、開発に努める

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--|--------------|---|------------------|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------|-------|
| | | | | 目標値 | コメント | | | | | | | | | | |
| ① 計画相談支援 (サービス利用支援・継続サービス支援) | ・日常生活全般に関する相談 ・アセスメント ・利用計画案の作成 ・担当者会議 ・利用計画の実施 ・モニタリング | 障害者、障害児、家族 | ・訪問、面接、丁寧的確な対応 ・利用者、家族の意向の確認 ・援助方法、課題、役割分担の確認 ・福祉サービス事業所との連絡調整 ・サービス実施状況の確認及び評価 | 提供数：200件 | 目標は達成できた。利用者・家族の意向等確認しながら、丁寧な対応を心掛けている | | | | | | | | | | |
| ② 関係者との連携強化 | ・多職種との連携 | 医療・福祉・地域の関係者 | ・いつでも相談できる関係性を築く ・福祉サービス事業所との連絡を密に行う | 会議出席：20件 | 関係機関との関係性が深まり、支援の幅に広がりを持っている | | | | | | | | | | |
| ③ 専門職としての資質向上 | ・各種研修会への参加 ・内部研修 | 職員 | ・関係機関等で行われる研修会へ参加 | 内部研修：6 外部研修：6 | 内部外部研修にも参加でき、資質向上に努めた | | | | | | | | | | |
| ④ 運営管理 | ・法令、運営基準の再確認及び情報収集 ・給付管理 | 職員 | ・法令、運営基準などの再確認、情報収集、必要な書類の定期的なチェックの実施 | 月1回 | 確実な請求ができています | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 | 100% | 243日 |
| 利用定員 | — | — | — | — | — | — | | | | | | | — | — | — |
| サービス利用支援 | 2 | 9 | 2 | 3 | 1 | 4 | 3 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 | 40 | 133.3% | 30人 |
| 継続サービス利用支援 | 12 | 13 | 14 | 15 | 10 | 6 | 10 | 11 | 8 | 8 | 4 | 6 | 117 | 112.5% | 104人 |
| 障害児支援利用援助 | 2 | 4 | 2 | 5 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 7 | 28 | 133.3% | 21人 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|-------------------------------------|----|----|-----|---------------------|-----|----|----|----|-----|--------|------|
| 継続障害児支援利用援助 | 2 | 5 | 5 | 3 | 5 | 7 | 6 | 6 | 5 | 7 | 4 | 9 | 64 | 173.0% | 37人 |
| 合計 | 18 | 31 | 23 | 26 | 17 | 19 | 21 | 20 | 15 | 21 | 12 | 26 | 249 | 129.7% | 192人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 職員研修 | × | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | × | ○ | | | |
| ネットワーク会議 | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | ○ | ◎ | |
| 【総合評価】 ・効率性 事業所内での情報の共有を図り不在の場合でもフォロー出来る体制となっている。優先順位を測りながら計画的に進められ期日内に終了できている ・有効性 新規依頼が下半期に増となり計画目標は達成できた。今後も目標達成の為新規依頼には対応していく ・インパクト 障害児・者、自らが望む場所で社会の一員として日常生活または社会生活を営むことができるよう、他事業所と連携し支援することができた ・妥当性 事業目標に則した支援ができており、利用者・家族の意向を確認しながら対応している。また支援事業所からも情報をいただき支援できた ・持続性 関係する機関（支援事業所・基幹型・行政・医療等）とも連携を図り利用者・家族を支えていく。また、資質向上のため内部・外部の研修会には参加し研鑽していく | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・管理者 1名 ・相談支援専門員 1名以上 | | | | ○職員体制（現行） ・管理者 1名 ・相談支援専門員 1名 | | | | ○配置車両： ・1台（軽自動車） | | | | | | | |

【在宅福祉課】

<訪問介護係「ホームヘルプサービスセンター」>

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者が地域で安心し自立した生活を送れる様、状況等に留意したサービス提供に努める。
- ・他機関、他事業との連携を図り、地域に密着したサービス提供に努める。
- ・研修を通して専門職としての知識・技術の向上に努める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|------|------|------------|-----|------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|----------------|---|--|---|
| <p>① 介護保険事業 (訪問介護)</p> | <p>○身体介護 (排泄介助、食事介助、特段の専門的配慮をもって行う調理、清拭、部分浴、全身浴、洗面等、身体整容、更衣介助、体位交換、移乗・移動介助、通院・外出介助、起床・就寝介助、服薬介助、自立生活支援・重度化防止のための見守りの援助等)</p> <p>○生活援助 (掃除、洗濯、ベッドメイク、衣類の整理・被服の補修、一般的な調理、配下膳、買物・薬の受け取り等)</p> | <p>要介護1～5</p> | <p>介護保険、障害福祉、地域生活支援、総合事業活動への共通な取り組み</p> <p>≫アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できること、できないことを把握する。 ・動作の分析をする。 ・利用者の思いや希望の確認をする。 ⇒生活課題を明確化する <p>≫訪問介護計画の作成 ⇒統一したサービスを実施する</p> <p>≫訪問介護計画に沿ったサービス提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調、疾病等に留意し安心・安全に介助する。 ・常に残存機能を活用し身体・生活機能低下を予防する。 ⇒記録に残す <p>≫サービス提供後の特記事項等の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調の変化やサービス変更等報告する。 ・他機関、他事業への報告をする。 ⇒多職種との連携 <p>≫ケース検討の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング、業務報告、会議等にて情報を共有し、サービス提供に繋げる。 <p>≫サービスの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度、支援内容・方法の見直しをする。 ・新たな課題・ニーズを把握する。 ⇒再アセスメントに生かし、新たな訪問計画書を作成していく。 | <p>1,310件/ 4月 1,240件/ 5月 1,310件/ 6月 1,350件 /7月 1,230件/ 8月 1,310件/ 9月 1,350件/10月 1,310件/11月 1,350件/12月 1,310件/ 1月 1,220件/ 2月 1,350件/ 3月</p> | <p>新規や体調等の変化により、サービス回数が増えた方等の時間の調整を図り、即対応し新規獲得に努めたが、毎日複数回の利用者の入所、入院、ショート、他のサービス利用により、訪問回数の減少がみられ、全体では、目標値を達成できなかった。コロナ感染拡大により、ショート利用ができなかったり、在宅への帰宅が遅れ訪問できなかったケースもあり、今年度もコロナ感染症に左右された一年でもあった。</p> |
| <p>② 障害福祉事業 (居宅介護) (受託居宅介護)</p> | <p>○身体介護 (入浴介助、清拭、洗髪、排泄介助、食事介助、衣服の着脱介助等)</p> <p>○家事援助</p> | <p>支援区分1～6</p> | | <p>109件/ 4月 104件/ 5月 110件/ 6月 104件/ 7月 95件/ 8月</p> | <p>年末、年始等のキャンセルはあったものの、サービス全体では、キャンセル</p> |

| | | | | | |
|---------------------|---|-----------------|---|--|--|
| | (調理、洗濯、掃除、 買い物、その他関係機 関への連絡等) ○通院介助 (通院に必要な介助) | | | 104件/ 9月 104件/10月 105件/11月 99件/12月 109件/ 1月 99件/ 2月 110件/ 3月 | ル等も少なく 安定したサー ビス提供がで き、目標値を達 成することが できた。 |
| 障害福祉事業 (同行援護) | ○同行援護 (視覚に障害がある方 の外出時に必要な視覚 的情報の支援・移動の 支援・排泄及び食事等 の介護、その他外出す る際に必要となる介助 等) | 市町村が認めた者 | ・利用者の動作の確認や、移動する場所等の 確認を行い、介助時は常に声がけしながら、 安心、安全に介助する。 | 14件/ 4月 13件/ 5月 17件/ 6月 15件/ 7月 17件/ 8月 15件/ 9月 14件/10月 13件/11月 16件/12月 15件/ 1月 15件/ 2月 16件/ 3月 | 定期的な利用 により、ほぼ目 標値を達成す ることができ た。 |
| ③ 地域生活支援事 業 | ○移動支援 (屋外での移動が困難 な障がいのある方の外 出のための支援サービ ス、利用者の身体状況、 環境に応じて外出時に おける移動中の介護 等) | 市町村が認めた者 | ・利用者の動作の確認や、移動する外出場所 等の確認を行い、安心、安全に充実した余暇 活動、外出となるよう支援する。 | 2件/7~9月 | 健康診断等 での利用のみで、 コロナ禍もあり、他のサー ビス内容での利 用なく、目標値 を達成できな かった |
| ④ 介護予防・日常生 活総合事業 | 訪問型サービス(独自) (掃除、洗濯等の日常 生活の訪問型サービ ス) | 事業対象者 要支援1・2 | ・訪問介護員と共に行うなど、自立支援 の観点から出来る限り自らの家事等を行 うことができる様に支援する。 | 75件/4月、70件/5月 75件/6月、73件/7月 70件/8月~11月 75件/12月、1月 73件/2月、75件/3月 | 要介護へ移行 や、自立した方 もあり、利用者 の減少あり、目 標値を達成す |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-----------------|---------------|---|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------------|--|-------|----------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | ることができ なかった |
| ⑤ 体調・環境管理 | 感染症予防 | 利用者、職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルの確認をする。 ・新型コロナウイルス感染症の段階に沿った対応をする。 ・毎日の検温、体調の確認をする。 ・手洗い、うがい、手指消毒を行う。 ・マスク、手袋、予防衣等を着用する。 ・室内の換気を行う。 | | | | | | | | | | | 感染予防の徹底に努め、体調不良時は、早めの受診、療養の声がけを行い対応することができた | | |
| ⑥ 書類・物品管理 | 書類・物品（衛生用品等）の整備 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・書類は分類ごとに整理し、保管期間が経過した書類は、日程を決めて処分する。 ・物品は在庫を常に確認し、余裕をもった物品管理をする。 | | | | | | | | | | | 6月に保管年数の過ぎた書類の処分を行った | | |
| ⑦ 実習生等の受け入れ | 同行訪問 | 利用者・家族 実習生 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問先の日程表を作成し、利用者等の承諾を得る。 ・安全に注意し同行訪問を実施する。 | | | | | | | | | | | 訪問先の調整等に苦慮しながらも、事故等なく高看生の実習同行訪問を行うことができた | | |
| ⑧ 研修（資質の向上） | 内部研修 外部研修 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画を作成する（法令遵守・個人情報保護法、認知症、感染症、救命救急講習、介護・生活援助技術、ケース検等） ・コロナ禍でも、できる研修の工夫をする。 | | | | | | | | | | 内部研修：12回 外部研修：5回 | 5、6月、10、11月、3月と5回の全体会議（研修）ができた。他の月は、コロナ感染症の影響により開催できなかった | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | |
| 開所日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 28 | 31 | 365 | 100% | 365日 | |
| 利用定員 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|--------------------------|-------|-------|-------|-------|---------------|-------|-------|--------|--------|---------|
| 要支援1・2等（延） | 77 | 77 | 75 | 77 | 73 | 69 | 65 | 59 | 60 | 55 | 56 | 59 | 802 | 92.1% | 871件 |
| 要介護1～5（延） | 1,301 | 1,277 | 1,244 | 1,220 | 1,184 | 1,217 | 1,190 | 1,125 | 1,169 | 1,086 | 1,020 | 1,155 | 14,188 | 90.7% | 15,640件 |
| 居宅介護（延） | 112 | 112 | 105 | 115 | 108 | 118 | 105 | 101 | 96 | 90 | 103 | 112 | 1,277 | 102.0% | 1,252件 |
| 同行援護（延） | 14 | 13 | 15 | 13 | 18 | 16 | 13 | 14 | 15 | 15 | 13 | 15 | 174 | 96.7% | 180件 |
| 移動支援（延） | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 33.3% | 6件 |
| 合計 | 1,504 | 1,479 | 1,439 | 1,426 | 1,383 | 1,420 | 1,374 | 1,299 | 1,340 | 1,246 | 1,192 | 1,341 | 16,443 | 91.6% | 17,949件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 実績管理 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 物品管理 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 全体会議（研修含） | × | ◎ | ◎ | × | × | × | ◎ | ◎ | × | × | × | ◎ | | | |
| 【総合評価】 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・妥当性 利用者のニーズに即したサービス提供を利用者の状況等を確認しながら、他の事業と連携を図りながらサービス提供することができた。 ・有効性 利用者へ寄り添いながら安心した生活が送れる様、他機関、他事業と連携を図ることができた。研修については、宮古市での感染者が発生してからは、全体研修（会議）が出来なかったが、出来る月に「ケース検討」「虐待防止について」の研修をすることができた。全体的に事業目標を達成できている。引き続き、他の事業との連携を図りながらサービスを継続していくことが必要である。 ・効率性 新規依頼、体調不良時の受診や訪問要請等、訪問時間やヘルパーの調整を図り即対応したことや、他の事業との連携を図りながらサービス提供を行ったこと等が訪問回数の増加につながった。 ・インパクト 毎月、ショート利用、入所、入院等が多くみられ、毎日訪問の利用者のサービスの減少がみられた。コロナ発生の影響があり、ショート利用から自宅に戻れない利用者や、職員の休みも重なり訪問を増やすことが出来なかった。 ・持続性 利用者の体調の変化に留意し、利用者へ寄り添いながら他のサービスとの連携を図りサービス提供を引き続き行っていく。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両：アルト5492 | | | | | |
| 介護保険 | | | | | ・ 管理者兼サービス提供責任者（介護） | | | | | アルト4700 | | | | | |
| ・ 管理者 1人 | | | | | （介護福祉士）1名 | | | | | ミラ 5137 | | | | | |
| ・ サービス提供責任者 5人以上 | | | | | ・ サービス提供責任者（介護福祉士）3名（介護） | | | | | アルト5203 | | | | | |
| ・ 訪問介護員等 30人以上 | | | | | （介護福祉士）1名（介・障） | | | | | アルト1931 | | | | | |
| ・ 事務員 1人 | | | | | （介護福祉士）1名（障害） | | | | | アルト2080 | | | | | |
| 障害福祉 | | | | | ・ 訪問介護員等（介護福祉士）18名 | | | | | | | | | | |
| ・ 管理者 1名 | | | | | （初任者研修）9名 | | | | | | | | | | |
| ・ サービス提供責任者 1名以上 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 訪問介護員等 10名以上 | | | | | | | | | | | | | | | |

〈訪問介護係 訪問入浴サービス〉

Ⅱ. 事業目標

- ・安心して自宅で入浴が出来清潔を保つ
- ・家族、ケアマネと連携を図りながらサービスを提供する
- ・体調の観察を行い在宅で安心して過ごせる

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--------|--|--------------------------------------|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-------|-------|
| | | | | 目標値 | コメント | | | | | | | | | | |
| ① 健康管理 | ・バイタルチェック ・皮膚状態の確認 ・入浴後の状態確認 ・水分摂取の声かけ | 利用者 | ・血圧、体温、脈拍を測定し一般状態の確認 ・皮膚状態を確認し状態にあった洗身を行う ・入浴後の状態確認し水分摂取の声かけ | 1日4件 平均月70件～75件 (要介護、地域生活支援事業) | 他事業とのかかわりもあって件数を増やすことが出来ない現状である | | | | | | | | | | |
| ② 更衣・移動介助 | ・入浴前後の着脱 ・浴槽までの移動 | 利用者 | ・利用者の負担が無いように着脱を行う ・浴槽までの移動は、状態にあった方法で介助し安全に行う ・介護者の話を聞くなど介護の負担軽減を図る | | 入浴前後の状態を職員3名で確認、職員間でも声を掛け合い更衣介助、移動も安全に行うことが出来た | | | | | | | | | | |
| ③ 環境管理 | ・室内温度 ・湯温の調整 | 利用者・家族 | ・気温の変化に対応した室内温度の調整 ・利用者の状態を確認し湯温調整を行う | | 気温の変化に伴い湯温調整、室内の温度もご家族に協力して頂き行えた | | | | | | | | | | |
| ④ ネットワークとの関係 | ・多職種との連携 | 職員 | ・ケアマネージャーへの連絡、報告を行い状態の変化など早期に対応する ・訪問看護、訪問介護等の職員とも情報共有する | | 体調の変化が見られた場合には、随時ケアマネージャーに報告を行い他のサービス利用時の状態が分かる事が出来た | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 18 | 15 | 19 | 16 | 16 | 18 | 16 | 17 | 15 | 17 | 19 | 17 | 203 | 84.2% | 241日 |
| 利用定員 | | | | | | | | | | | | | | — | — |
| 要支援(延) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0人 |
| 要介護1・2(延) | 4 | 3 | 2 | 3 | 3 | 4 | 2 | 1 | 3 | 1 | 3 | 0 | 29 | 58.0% | 50人 |
| 要介護3・4・5(延) | 29 | 28 | 31 | 25 | 24 | 23 | 26 | 25 | 19 | 20 | 25 | 24 | 299 | 79.5% | 376人 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-------|------|
| 合計 | 33 | 31 | 33 | 28 | 27 | 27 | 28 | 26 | 22 | 21 | 28 | 24 | 328 | 77.0% | 426人 |
| 地域生活支援事業 | 12 | 9 | 12 | 11 | 8 | 11 | 10 | 11 | 8 | 8 | 10 | 10 | 120 | 91.6% | 131人 |
| 全体合計 | 45 | 40 | 45 | 39 | 35 | 38 | 38 | 37 | 30 | 29 | 38 | 34 | 448 | 80.4% | 557人 |

【総合評価】

- (妥当性) 受診などで曜日変更の希望が有る場合は、調整し訪問できた。
- (有効性) 体調不良、利用者家族のコロナ関係でのキャンセルもみられたが入浴実施出来た時は、更衣介助、移動など安全に行えた。
- (効率性) 入浴前後の状態も変化なく実施出来たがキャンセルも有り計画した人数は、達成されなかった。
- (インパクト) 皮膚状態を確認することができ変化が見られた時などケアマネージャーに報告し早めに対応、清潔保持も出来た。
- (持続性) 現在の職種、員数を維持し継続しサービスを行っていく。

| | | |
|---|--|--------------------------|
| ○職員体制（運営規程） ・管理者 1名 ・看護師 1名 ・介護員 2名 | ○職員体制（現行） ・管理者 1名 ・准看護師 1名 ・介護福祉士 2名 | ○配置車両： マツダボンゴ 1台（リース） |
|---|--|--------------------------|

〈通所介護係 老人デイサービスセンター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・1日でも長く在宅生活ができるようひとり一人の健康状態の確認をする
- ・低栄養にならないような食事を摂取できるよう他部署とも連携をし、筋力低下も防ぐ
- ・個性を尊重し、価値や存在を大切にする

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|--|------|---|-------|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 健康管理 | ・バイタルチェック ・服薬管理 ・体調観察、体重測定 ・連絡帳確認 ・排泄介助、水分補給 | 利用者 | ・バイタルチェック⇒看護師 ・健康状態⇒利用者、家族、ケアマネと常にコミュニケーションをとる ・連絡帳⇒家族・デイ情報共有 ・お薬手帳チェック ・水分⇒季節によって形態を変える ・排泄はトイレで出来るよう定期的に誘導する | 1日19名 | 1日平均17名 体調不良の方に多く見られるのが水分不足なので、健康チェックの際、不足していないかも観察しながらチェックしている。また、情報の共有を家族と行い、早めの受診等で大事に至らないようにした |

| | | | | | |
|------------|---|-----------|--|-------|---|
| ② 食事提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食、昼食、夕食 ・嗜好調査 ・BMI、栄養計算 ・献立作成 ・食事量の確認 ・口腔体操、ケア ・個々にあった食形態 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査⇒好みを知り、献立にいかす ・朝、夕食事摂取が難しい方⇒デイにて提供し、服薬確認 ・BMI⇒低い方には高カロリーのもの、高い方は調整をしながら提供 ・体重管理⇒毎月測定し給食会議で話し合う | 1日19名 | 1日平均17名 独居の方、ご家族が仕事でほぼ家に不在の方については、デイで3食食事の提供を行った |
| ③ 機能訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練計画作成 ・家の状況確認 ・訓練メニュー作成 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・住居での動作確認 ・PTは身体状況確認しメニューを作成 ・PT、看護師は本人の意思を確認しながら訓練を実施する ・看護師、PT等で3ヶ月ごとに評価をする | 1日6名 | 1日平均7.5人昨年度の倍の数となっている。希望者は意欲的に取り組まれ現状維持している |
| ④ レクリエーション | <ul style="list-style-type: none"> ・頭、体の体操、ゲーム ・季節の行事 ・制作活動 ・昭和の喫茶 ・音楽療法 ・歩行、握力テスト | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ体操、セラバンド体操を行う ・新聞を見ながら世の中の動向を確認する ・活動の中で指先を使ったり、頭の体操をすることで認知症予防につとめる ・音楽療法⇒回想法を取り入れたり、筋力強化及び飲み込み改善 | 1日19名 | 平均17.0名 制作活動は季節のものを行うことで意欲的にできている。今年度から音楽療法を月に2回行うことにしたが、みなさんに喜ばれている |
| ⑤ 入浴 | <ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助 ・着脱介助 ・皮膚状態の確認 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立できるよう支援する ・浴槽の塩素濃度確認 ・皮膚疾患の利用者⇒薬塗布等処置 ・洗身、洗髪、着替えなどして清潔保持 | 1日13名 | 1日12.9名ほぼ目標値達成。皮膚等の観察を行い変化があったときは情報共有を行った |
| ⑥ 送迎 | <ul style="list-style-type: none"> ・送迎 ・体調確認 ・家族とのコミュニケーション ・消毒 | 利用者 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・乗車前⇒検温、体調確認、朝食、服薬の確認 ・運行経路確認 ・添乗、運転技士情報共有 | 1日19名 | 1日平均17名 車両は換気をし感染に気を付け行った。ご家族、訪問介護職員と連携をしながら実施できた |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|------|------|------|--|------|------|----------|--|------|------|------|--------|--------|--------|
| ⑦ 衛生管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時での室内、室外の消毒、換気 ・ 利用者、職員の手洗い ・ マニュアル確認 | | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒薬剤についてはその用途に合わせて使用する ・ 介助の際は、マスク、手袋、予防衣着用 ・ 浴槽の水質管理⇒塩素濃度定期的に測定 ・ 給食の提供⇒運ぶ際エレベーター等消毒 ・ 食材搬入は直接ではなく消毒してから厨房内に入れる | | | 毎日 | 消毒の理解をししっかり行うところ、やらなくてもいいところの区別をしながら行った | | | | | | |
| ⑧ 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアル確認 ・ 避難訓練 ・ アクシデント、インシデントの記録 ・ 情報の共有 | | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的なマニュアルの確認 ・ 火災、台風、災害別の避難訓練の実施 ・ ヒヤリハットの報告について話し合い | | | 毎日 | 利用者は避難訓練にもしっかり参加していた。レク活動の際、災害時の話題も取り入れた | | | | | | |
| ⑨ 資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部、内部の研修会 | | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケア、介護技術、待遇など ・ 個別ケアカンファ ・ サービスマニュアル確認 ・ 災害時の対応 | | | 4ヶ月に1回程度 | 研修が出来なかったのが今後は実施したい | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 25日 | 23日 | 26日 | 25日 | 23日 | 24日 | 25日 | 25日 | 25日 | 23日 | 22日 | 26日 | 292日 | 100.0% | 292日 |
| 利用定員 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | 25名 | | | — |
| 要支援(延) | 42人 | 40人 | 42人 | 32人 | 33人 | 41人 | 27人 | 32名 | 29人 | 31人 | 30人 | 28人 | 407人 | 56.8% | 716人 |
| 要介護1・2(延) | 289人 | 279人 | 279人 | 252人 | 199人 | 251人 | 243人 | 264人 | 190人 | 233人 | 210人 | 230人 | 2,919人 | 88.8% | 3,288人 |
| 要介護3・4・5(延) | 122人 | 134人 | 166人 | 134人 | 119人 | 144人 | 143人 | 109人 | 148人 | 140人 | 129人 | 160人 | 1,648人 | 124.4% | 1,325人 |
| 合計 | 453人 | 453人 | 487人 | 418人 | 351人 | 436人 | 413人 | 405人 | 367人 | 404人 | 369人 | 418人 | 4,974人 | 93.3% | 5,329人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 機能訓練 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 音楽療法 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 職員研修 | × | | | × | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | |
| 給食員会 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| 実績管理 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

【総合評価】

妥当性…様々な状況でお暮しの方々が生活の中で困っておられる際、デイで出来る限りの受け入れを行うことができた。例えば、食事面や緊急の受け入れ、延長サービス等を実施した。

有効性…個別機能訓練を希望される方が増えてきている。ご本人や体調面の配慮しながら実施することができた。栄養面、筋力面は専門職との情報共有をしながらサービス提供を行うことができた。

効率性…上期については職員が不足の状態であったが、下期は職員不足解消となり余裕を持ちながらサービスを提供することができた。多職種との調和もとれ、情報共有も行うことができた。

インパクト…職員のチームワークも良く、同じ方向性で利用者一人ひとりを尊重しサービスを実施することができた。

持続性…高齢者の身体的特徴と対応を把握し、身体面、精神面を支えていけるよう専門職（PT, MT等）の協力を得ながらサービスを提供していく。

| | | |
|---|---|--|
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・生活相談員2名 ・看護師 1名 ・機能訓練指導員 2名 ・介護職員 4名以上 ・調理員 2名 ・事務員 1名 | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・生活相談員 2名 ・看護師 1名 ・機能訓練指導員 1名 ・介護職員 4名以上 調理員 2名 ・事務員 1名 | <p>○配置車両：</p> <ul style="list-style-type: none"> 日産シビリアン 1台 トヨタコースター 1台 トヨタハイエース 3台 トヨタノア 1台 ダイハツムーブ 1台 |
|---|---|--|

〈通所介護係 障害福祉サービスセンターゆにぞん〉

Ⅱ. 事業目標

- ・安定した日常生活を送れるよう支援する
- ・活動範囲を広げ地域活動に参加できるよう支援する
- ・奉仕活動等とおし自分の役割を果たしお互いを認め合う

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|---|------|---|-------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 食事提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査 ・口腔ケア、体操 ・配膳、下膳 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・配膳、下膳が出来るよう支援。 ・消毒、テーブル拭き等当番制にして、自分の役割をこなす。 ・嗜好調査⇒食事形態、好き嫌い確認。 | 1日13食 | <p>1日10.6食と目標値には達しなかった。</p> <p>下膳はほぼ全員が行えるよう支援しながら実施。消毒、テーブル拭きは曜日ごとに役割として何名か極力行っていただいている。</p> <p>また、厨房協力により嗜好調査の結果を反映させた</p> |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|---|-------|--|
| | | | | | 内容(形態、量)で食事提供ができた。 |
| ② 入浴 | <ul style="list-style-type: none"> ・入浴支援 ・皮膚状態確認 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立出来るよう個々に合わせた支援。 ・入浴の手順、お風呂でのマナーを身に着ける。 | 1日6人 | 一日の最大入浴者数が5名。週の平均でも4名と目標値には届かなかったが、環境面を含め快適な入浴提供に配慮しつつ、併せて支援・訓練との側面も意識付けを図り、個々の意欲と動作機能向上に繋ぐことができた。 |
| ③ 機能訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別プログラム | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々のアセスメント、支援計画をPTと共に作成。 ・3ヶ月に1回モニタリング及び、評価をPTと共に行う。 | 1日13人 | やらされるリハビリではなく、どういう意図で何に効果があるのかを説明し、意欲的に取り組んで頂けるようPT指導内容を基に実施。現場で直接的にモニタリングしながらの実施はできたが書面としての示しは実施が遅れている。 |
| ④ 個別活動、レクリエーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ビーズ、縫物、絵画制作等 ・ゲーム ・買い物 ・季節行事 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム⇒本人、家族、職員と相談。 ・本人の意欲向上のため、興味のあるものに取り組む。 ・指先や頭を使い機能の維持向上を図る。 | 1日13人 | 1日10.6名と目標値には達しなかった。感染予防対策を施しながら可能な限り外出行事や厨房協力のもと冬期間を除き月1回のおやつづくり。また、老人デイと数年ぶりに合同で忘年会や運動会等実施でき、ご利用者からも好評であった。個別活動は複数活動を提示し興味あるものを探りながら無理なく実施できた。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|--------|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | 毎月の音楽療法や茶道教室には昨年度まで参加されていなかった利用者が参加するなど、意欲的参加が見られた。 |
| ⑤ 地域活動に参加 | ・コンサート ・スポーツ大会 ・卓球バレー | 利用者 | | | | | | | | | | | 参加者8人 | | 今年度はスポーツ大会等中止になり地域活動には参加できなかった。 |
| ⑥ 奉仕活動 | ・草取り ・手すり等館内の清掃 | 利用者 | | | | | | | | | | | 8人 | | 活動役割としての清掃消毒等を行えたが、地域や対外的な奉仕活動はコロナ禍における活動の在り方について十分な検討ができないまま未着手となった。 |
| ⑦ 衛生管理 | ・定時での室内、室外の消毒、換気 ・利用者、職員の手洗い ・マニュアル確認 | 職員 | | | | | | | | | | | 毎日 | | 常に感染リスクを考慮し、消毒についても優先箇所を検討したうえで、少ない職員で効率よく、効果的な作業を課内で協力しながら取り組めた。 |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 20日 | 19日 | 22日 | 20日 | 17日 | 20日 | 20日 | 20日 | 21日 | 19日 | 19日 | 22日 | 239日 | 98.8% | 242日 |
| 利用定員 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | 20人 | - | - | - |
| 認定区分2・3(延) | 74人 | 74人 | 89人 | 74人 | 66人 | 68人 | 82人 | 81人 | 81人 | 80人 | 83人 | 92人 | 944人 | 105.0% | 899人 |
| 認定区分4・5(延) | 106人 | 107人 | 127人 | 120人 | 97人 | 114人 | 129人 | 125人 | 111人 | 101人 | 104人 | 115人 | 1,356人 | 113.7% | 1,193人 |
| 認定区分6(延) | 28人 | 22人 | 29人 | 28人 | 14人 | 16人 | 19人 | 17人 | 18人 | 14人 | 19人 | 25人 | 249人 | 88.3% | 282人 |
| 合計 | 208人 | 203人 | 245人 | 222人 | 177人 | 198人 | 230人 | 223人 | 210人 | 195人 | 206人 | 232人 | 2,549人 | 107.4% | 2,374人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 機能訓練 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 奉仕活動 | × | | × | | × | | × | | × | | × | | × | | × |
| 実績管理 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|---|--|---|---|--|--|
| 地域活動 | | | | x | | x | | | x | | |
| <p>【総合評価】 妥当性…在宅をベースとした支援・訓練の在り方、それを念頭においた活動へのアプローチ、提供を大きな柱として捉え強制的感覚ではなく、ご利用者個々の意向、特性に極力沿った活動や処遇を心掛け実践。新年度も継続し定着化するよう努める。 有効性…コロナ禍における地域、及び奉仕活動の在り方を見出せず結果、未実施となってしまった。 効率性…人的な部分では専属職員が上期7月から2名体制、下期11月から1名配置頂いたが職員数不足の状況は続いており課内で他部署と協力しながらの事業遂行となっており個々の目標への支援は十分とは言えない状況となっている。設備面では少しでも事業をスムーズに行うために、ダイルームにPC・インターネット環境を。また事務所に給付実績、支援計画と連動したシステムを導入頂いている。 インパクト…上位目標である“地域活動、奉仕活動”はコロナ禍での活動自体の在り方の検討工夫の場を設定と十分な協議ができず実施できなかったことから取り組み要する。 持続性…身体障害、知的障害の特性を考慮しつつ、社会性、生活能力を向上できるよう、本人たちの納得いく形で明確な取り組みが出来るよう継続した支援を行う。また、在宅においても活動・訓練が反映出来るよう家族との連携も引き続き行っていく。</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・障がいサービス管理責任者 1名 ・看護師 1名 ・指導員及び介護員 2名以上 ・理学療法士 1名（嘱託） | | | | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・障がいサービス管理責任者 1名 ・看護師 1名 ・指導員及び介護員 2名以上 | | | | <p>○配置車両：</p> <ul style="list-style-type: none"> 日産シビリアン 2台 トヨタハイエース 3台 トヨタノア 1台 | | | |

〈子育て支援係〉

II. 事業目標

- ・子育て不安に寄り添い、個々の姿を尊重し将来に役立つ支援をしていきます。

〈児童発達支援事業 すこやか幼児教室〉

- ・利用児の発達過程・家族の意思に基づいて選択されたサービス提供に努める。
- ・利用者との信頼構築のため分かりやすい説明に心がけ責任を果たしていく。
- ・個別の発達・姿の把握のために職員の資質向上および地域ネットワークと連携し支援を果たしていく。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|------|------|------------|-----|------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|--|--|---|---|
| ① 療育支援 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活における基本動作の訓練 機能の発達訓練 集団生活への適応訓練 食事・おやつ 提供 送迎サービス | 利用児・家族 必要な親子 | <ul style="list-style-type: none"> 遊びを通しての発達訓練・集団生活への適応訓練 音楽療法（感覚遊び・自己表現活動） 作業療法（粗大運動・微細運動） 身辺自立訓練（食事・排泄・身の回りの始末） 支援計画に即して実施 | 常時 18回 48回 週2～3回 状況に対応 | <ul style="list-style-type: none"> 年度当初は就園・就学で利用人数は減少。後半から個別支援のケースで併用児の利用が増加した |
| ② 相談支援 | <ul style="list-style-type: none"> アセスメント、課題分析 個別支援計画 計画説明、同意 モニタリング 活動の情報提供 | 利用児・家族 家族 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関からの情報提供 見学の受け入れ 利用児の行動観察、家族の意向、関係機関との情報交換 相談事業所との連携 個別支援計画の実施および評価反省 継続的な支援の有無・把握及び評価 毎月の活動の視点・ねらいを伝える | 新規契約10名 50件 随時 1,320件 12回 | <ul style="list-style-type: none"> 目標達成 見学児は皆契約につながった。 毎月5～6回実施 相談事業所との連携で活動見学やモニタリングを一緒に行うことで支援内容・計画に反映できた。 実施できた |
| ③ 地域ネットワーク構築 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携 | 嘱託医・療法士 特別支援コーディネーター・児相心理士・こども発達支援コーディネーター・保健師 保育所・幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> 作業療法・音楽療法・発達検査時の行動観察および支援法についてのカンファレンスの実施 | 60回 | 計画的に実施できた併用児についても活動後に様子を伝えながら連携を図る |
| ④ 資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> 各種研修会への参加 内部研修 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> オンライン方式、YouTube等も駆使しながら知識・技能を高めていく 日々の運営を通して内部研修につなげていく。（行動理解・活動方針確認） | 外部研修：6回 内部研修：10回 | <ul style="list-style-type: none"> 外部研修はコロナ禍や人的環境から実施できなかった 内部研修はオンラインでの研修を実施する。7回実施 |
| ⑤ 運営管理 | <ul style="list-style-type: none"> 自己評価および公表 法令、運営基準の再確認及び情報収集 給付管理 | 利用者 職員 | <ul style="list-style-type: none"> 法令に定められている自己評価への取り組み 県への提出および公表 情報収集、必要な書類の定期的なチェックの実施（提供実績表・検温表） 加算項目の的確な請求及び過誤請求の防止 安全・衛生管理点検 | 年1回 利用の都度 242日 | <ul style="list-style-type: none"> 外部関係の書類整理は計画的に取り組んでいるが日々の事務処理が遅れがちになっていることが課題である |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| 開所日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 13 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 234 | 96.7% | 242日 |
| 利用定員（月平均数） | 2.6 | 1.8 | 2.4 | 2.8 | 2.2 | 3.9 | 3.7 | 4.4 | 4.1 | 4.5 | 5.2 | 6.6 | — | — | — |
| 合計 （利用延べ人数） | 52 | 34 | 53 | 55 | 28 | 78 | 74 | 87 | 81 | 85 | 99 | 146 | 872 | 98.4% | 886人 |
| 令和3年度実績数 | 73 | 64 | 100 | 114 | 115 | 111 | 111 | 114 | 84 | 116 | 94 | 127 | 1,223 | 108.4% | 1,128人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| アセスメントの再確認 | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 個別支援計画評価反省 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| お便りの発行 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| サービス提供実績確認 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 関係機関との連携 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 各種研修会参加 | × | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | × | ◎ | | | | ◎ |
| 自己評価・公表 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ |

【総合評価】

・効率性

◎事業実績は昨年度よりは減少となる。要因として考えられることは保育料無償化並びに集団保育・教育現場での障害を理由に集団保育を拒否することはできないことから、低年齢から集団保育を受けるケースが増えていることも大きな要因でもある。

◎企業努力として限られた職員配置を有効に駆使し一人一人に与えられた役割をこなすことで利用者からの信頼を損なわないよう留意してきたことで新規利用児の獲得につなげていくことができた。

・有効性

◎個々の利用者のニーズ把握に努め継続して利用できるよう運営規程に基づきながら家族支援（兄弟支援）も考慮した運営に努めた（保護者同席の利用緩和および保護者のリラクゼーション事業の導入など）

◎昨年度の利用実績から事業のニーズ把握に努め作業療法が効果的で利用児の心身に大きな成果が見られたことを受け今年度から毎週1回の割合で事業内容に組み入れることとした。（併用児の利用日数の増加につながる）

・インパクト

◎利用者のニーズ把握を関係機関も交えながら常に検討し、今できることを見極めながら施策、職員の技能、社会資源の情報交換を密に図ることで対応できニーズに合わせた支援ができた。

| | | |
|--|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・妥当性 ◎事業目標を家族支援も考慮し計画実施してきていることが後半の利用増加につながってきている。 ・持続性 ◎利用者のニーズに寄り添いながら専門療育を継続していくことで子どもの育ち支援・更に職員の資質向上にもつながっていくことが期待されることから外部専門講師の導入は必要と思われる。（作業療法士・音楽療法士・関係機関との連携） | | |
| ○職員体制（運営規程） <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・児童発達支援管理責任者 1名 ・保育士 2名（常勤） | ○職員体制（現行） <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・児童発達支援管理責任者 1名 ・保育士 1名（常勤）・時間パート保育士1名・兼務保育士 2名 | ○配置車両： トヨタノア 1台 |

〈つどいの広場〉

II. 事業目標

- ・打ち解けた雰囲気の中で親子の遊び場、交流の場を設定し、誰でも気軽に利用できるようにする。
- ・子育て相談を通して、子育てへの不安や負担感の緩和に繋げ、安心して子育てができる地域の子育て支援体制の充実を図る。
- ・関係機関と連携を図り、子育て及び子育て支援に関する講習会の実施や情報提供を行っていく。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|-------|---------------|--|------------------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 子育て支援の推進 | 子育て支援 | 親子 保護者 | ◎親子、また子ども・保護者同士の交流の場の提供 ◎親子でのふれあい等、遊び方指導 <ul style="list-style-type: none"> ・愛着形成を目的とした行事 (数回土日に実施) ・ふれあいを目的とした行事 (数回土日に実施) ・子育て支援係合同事業 ◎子育てについて正しい知識を学ぶ場の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け講話会 | 12回 12回 3回 | 4・5月新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベント中止。6月以降順調に開催できた。土曜日開催保護者向け講話会1回取り組む。家族連れ、ご夫婦での参加多数あり。ベテラン保育士を |

| | | | | | |
|-----------|----------|--------|---|----------------|---|
| ② 支援体制の構築 | 子育て相談 | 保護者 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健師による講話 | 5回 | <p>交えての茶話会を開催。育児不安、入園に向けた疑問等の生の声を聞くことで、サポートできた。</p> <p>健康相談会を保健センターが主となり開催。アットホームな育児相談の場となっている。</p> <p>宮古市地域創生センター・宮古市立図書館・保健センター配布</p> <p>感染症拡大防止のため子育て支援係内の合同事業は無し。</p> <p>宮古市子育て支援4施設合同事業 10/18開催（1回） 会場シーアリーナ</p> |
| | 情報の発信 | 宮古市民 | <ul style="list-style-type: none"> ◎子育てへの不安や負担感の緩和 ・利用者からの相談受付 ・保健師による健康相談会 | 常時 5回 | |
| | 情報提供 | 親子 | <ul style="list-style-type: none"> ◎子育て世帯に限らず、周知の拡大に努める ・すくすくだより発行 ・施設情報や行事ポスター、ちらし配布 | 12回 | |
| | 関係機関との連携 | 子育て支援係 | <ul style="list-style-type: none"> ◎地域に特化した子育て情報の提供 ・子育て支援施設、サービスの紹介 ・宮古市子育て支援だより、市内のイベント情報の提供 | | |
| | | 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ◎子育て支援係の連携強化 ・合同事業に向けての合同会議 | 3回 | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ◎情報を共有しながら連携し、地域の子育て世帯への支援を行う。 ・宮古保健センター 情報交換や内部打ち合わせ ・子育て支援センター、他つどいの広場 合同会議 4施設合同事業 | 5回 3回 1回 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|--------|---|--|--------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | であそびの森縁日 ごっこ開催。 参加者26組55名 サークル活動等の 提供スペースが確 保できない。 | | |
| | 場所の提供 | | | | | | | | | | | | | | | | ◎サークル活動や他機関での研修等の場所 としての使用拡大 ・使用可能な事を周知する | サークル活動や 研修会としての 利用 | |
| ③資質向上 | 研修会への参加 | 職 員 | | | | | | | | | | | | | | | ◎リモートなども活用し、知識や技術など必 要な資質の向上に努める ・宮古ブロック会への参加 ・宮古保育会への参加 ・研修会への参加 ・内部研修 | 2回 8回 4回 3回 | リモート研修に参 加 |
| ④安全管理 | 非常災害時の備え | 親 子 | | | | | | | | | | | | | | | ◎非常災害時に利用者の安全を確保する ・避難訓練 ・非常持ち出袋点検 | 4回 2回 | 非常災害対策訓 練計画・非常役 割分担の見直し |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | | | |
| 開所日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 26 | 31 | 30 | 28 | 28 | 28 | 30 | 354 | 98.0% | 359日 | | | | |
| 利用定員 | | | | | | | | | | | | | | | — | | | | |
| 子ども | 166 | 169 | 195 | 286 | 177 | 95 | 157 | 130 | 171 | 156 | 196 | 202 | 2,100 | 54.4% | 3,860人 | | | | |
| 大人 | 142 | 154 | 197 | 263 | 148 | 92 | 142 | 122 | 167 | 139 | 184 | 174 | 1,924 | 58.3% | 3,300人 | | | | |
| 合 計 | 308 | 323 | 392 | 549 | 325 | 187 | 299 | 252 | 338 | 295 | 380 | 376 | 4,024 | 56.2% | 7,160人 | | | | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | | | |
| おたより | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 愛着形成を目的 とした行事 | × | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ふれあいを目的 とした行事 | × | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 子育て支援係 合同事業 | | | | × | | | × | | × | | × | | | | | | | | |
| 研 修 | | × | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | ◎ | × | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|---|---|---|---|--|--|---|--|---|---|
| 内部研修 | ○ | | ◎ | ○ | | | | | ◎ | | | ○ |
| 避難訓練 | ◎ | | | × | ○ | ○ | | | ◎ | | × | ○ |

【総合評価】

○効率性

- ・職員配置6月より定数を満たし、職員の連携と子育て支援系の協力のもとで開館日数をクリアできた。
- ・季節感を取り入れた通常環境、またイベント時の環境構成等利用者さんがわかりやすいように整えることに努めた。環境を整えることで、利用者さんへのアプローチと信頼関係を築き上げたことで育児相談などにも繋がった。
- ・イベントに対しての参加者アンケートによると、活動の満足度が得られたことがわかった。

○インパクト

- ・子育て中の保護者の育児不安や負担感等の相談対応について、保護者向け講話会、専門性に特化した方の事業を開催したことで、解決に向けた支援ができた。また職員に対して信頼のもとで話される親御さんもいることで、不安や困り感を拾い上げ解消できるようにサポートをした。今年度初めての茶話会を開催したことで、親御さんからの評価は高かった。

○持続性

- ・子育て支援に必要な、保護者向け講話会、専門性に特化した方との関係機関との連携を継続しながら、また地域の子育て支援に関わる施設と連携して、安心して子育てできる環境のお手伝いを促していく。また妊婦さんもママ体験の場としてすすくランドの様子を知っていただけるような機会を作りたい。

○妥協性

- ・市街地に移転した情報が伝わり利用に繋がっている。利用実世帯数を調査した結果、施設設置（行政区）の利用世帯が年間通して多い。
- ・年間利用人数は昨年よりは増加(2,846名→4,024名)その中で祖父母との来館数は年間で2%。移転して1年経過してキャトル宮古併設時は商業施設であった。交通機関も便利であったという事由に繋がっていたのではないかと。

(令和4年度利用実世帯数：宮古市：873世帯 宮古市中学校学区→河南：275世帯・第一：213世帯・宮古西：145世帯)
 県内他市町村：58世帯 山田町：36世帯・盛岡市：8世帯・岩泉町：2世帯

- ・現在施設共有スペースの中での運営であることで利用の仕方について検討し、乳幼児のあそび場として危険とを感じる場面があったことで、市こども課・企画課より、安全ネットが設置された。

○有効性

- ・防災計画についての見直しの実施と施設と合同避難訓練の実現。また利用者さんを含めた避難訓練の実施。
- ・日々の業務にて、感染症対策を強化しながら、安全安心な環境づくりに今後も継続していく。
- ・利用者さんのニーズに合わせた遊びの提供を今後も続け、子育て支援の拠点としての役割を果たしていく。

○職員体制（運営規程）

- ・子育ての知識と経験を有する専任の者 常時2名以上

○職員体制（現行）

- ・保育士 3名

○配置車両：

なし

〈田代児童館〉

Ⅱ. 事業目標

- ・地域に開かれた支えあう場所として、地域に関わる全ての幼児・児童の健全育成の拠点としての役割を目指します。
- ・健全な遊びの提供をし、健康を促進し情緒豊かにすることを目指します。
- ・放課後の生活に家庭的な雰囲気をつくり、安心した居場所づくりを目指します。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------------------------|----------------------|--------------------------------------|--|--|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 放課後・長期学校休業日の保育の実現と利用の促進 | 学童保育 子育て支援係合同 | 児童館利用申請児童 (小学生) | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後、長期休業日の保育 ・放課後利用児童増加確保の為の呼びかけ 長期休業日保育の利用のすすめ ・小学校との連携、情報交換 山口小学校の時程、下校、行事等 ・合同行事開催ボランティア活動の推進 夏祭り会、クリスマス会、子育て支援係合同遠足、老人デイサービス交流会 | <p>年 2 回</p> <p>年 2 回</p> <p>年 4 回</p> | 登録している児童は定期的に利用している。冬季時期は田老経由で帰ってくるので、遅い時間となり、児童館にいる時間が少ない。 |
| ② 児童健全育成事業 | 文化活動・親子・世代間交流会 | 地域に関わる幼児・児童 地域の児童に関わる関係機関 地域住民 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化活動の立案、計画作成 ・文化活動実施についての協力依頼 ・文化活動の実施 児童館季節行事への招待 ・地域の特産物を知る 野菜栽培、収穫体験 草取り作業・清掃作業 ・地域住民と触れ合う 運動会・紅白歌合戦 スポーツ交流・ペタンク | <p>年 1 回</p> <p>年 2 回</p> <p>年 2 回</p> <p>年 2 回</p> <p>年 1 回</p> | コロナ感染症蔓延防止の為、地域との交流は少なくなっている。運動会も中止になり、地域の方との交流は感染症の蔓延状態を考慮して製作活動を2度行った。 |
| ③ 職員研修 | 職員の資質向上を図る | 児童館従事職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童館論、児童健全育成について学び必要な知識と技術の習得 ・WEB研修の活用により共通理解をする ・専門性の具体的な役割を学ぶ 内部研修 外部研修 | | 子育て支援係でリモート研修などに参加している。保育会の研修は、幼児がいないことで内容 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|--|------------|----|----|-----|-----|-----|----|----|------------------------------------|---|------------|-------|
| | | | | ・宮古ブロック会加入 | | | | | | | | | | を見て参加している。 | |
| ④ 管理運営 | 指定管理業務 入館児童に係る手続き 保育目標・食事の目標の整備 児童台帳の整備 管理日誌の整備 出席簿の整備 維持管理業務 保守点検 防災管理 細菌検査の実施 | 入館対象児 幼児3歳以上 学童小1から小6 児童館従事職員 | 入館許可、解除申請書受付、市に送付 消防用設備保守点検 自動火災報知機、消火器、誘導灯 防災計画に基づき計画実施 避難誘導マニュアルの整備 防災マニュアルの作成 非常災害対策訓練年間計画作成 感染症対策マニュアル作成 防災対策マニュアル作成 職員の細菌検査 検査項目・赤痢菌・サルモネラ菌・腸管出血性大腸菌0-26、0-11、0-157 専門業者の回収を経て判定 | | | | | | | | | 年1回 年1回 毎月1回 毎月1回 | 避難訓練は毎月定期的に行っている。 細菌検査も毎月行っている。 コロナ感染予防の室内の消毒や室内の出入りはマスク着用と手の消毒は毎回実施している。 | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 25 | 23 | 26 | 25 | 23 | 24 | 25 | 24 | 24 | 23 | 23 | 26 | 291 | 119.3% | 244日 |
| 利用定員 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | — | — | — |
| 小学生 | 51 | 53 | 65 | 57 | 33 | 55 | 59 | 64 | 55 | 42 | 46 | 43 | 623 | 98.9% | 630人 |
| 幼児 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | | 0人 |
| 合計 | 52 | 54 | 66 | 58 | 34 | 56 | 60 | 65 | 56 | 43 | 47 | 44 | 635 | 100.8% | 630人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 児童館だより | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 野菜栽培交流会 | | ◎ | | | | | | | | × | | | | | |
| 季節行事世代間交流 | | | | ○ | | | | × | | | | ◎ | ◎ | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|---|--|--------|---|--|--|--|
| 子育て支援合同事業 | | | | x | | | x | | | |
| 【総合評価】 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当性 児童館での役割として地域が望んでいるのは児童の安全管理で、山口小学校から下校し登館後、家族がお迎えに来るまでの短い時間だけいる場所としているように感じる。高学年になるとより時間が遅くなり、児童館にいる時間が短く計画も立てられない状態にある。 ・ 有効性 コロナ感染症が比較的落ち着いた時期に地域交流事業を計画し、実施することができたが参加者が少なく、交流には至っていないように感じる。コロナ感染が落ち着いたとしても、実際は児童自体も体調を崩したり、参加者も少なく交流まではいかなかった。 ・ 効率性 児童の利用は目標数達成している。地域との交流はあまり行えていない。今年は地域ぐるみの紅白歌合戦なども行う予定だったが、コロナ感染症蔓延で中止になる。ただ、高齢者のみの健康体操等は学校で集まりを持っているので交流できる機会と考えたが、児童が帰ってくる時間帯が遅いので中々計画を立てられない。 ・ インパクト 子供たちの誕生会や季節行事など行っている。ただ、児童が少なくなったことで誕生会の回数が少なくなったと児童の方から話され、誕生会がない月も「お楽しみ会」として行事を行いという意見が出され、行事に対しては自分たちが積極的に内容を考えて進めている。 ・ 持続性 感染症が落ち着いたこと、継続して感染予防に努め、徐々に交流機会をもっていけたらと考えている。地域の方々が積極的に参加する内容等を考慮して、佐羽根地区の方々にも今後も参加を呼びかけていきたいと考えている。 | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | ○職員体制（現行） | | | ○配置車両： | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 館長 1名 ・ 児童厚生員 4名 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 館長 1名 ・ 児童厚生員 2名 | | | | | | | |

【地域施設課】

<金浜老人福祉センター>

II. 事業目標

- ・ 宮古市の公の施設である事を第一に考慮し、高齢者を中心とした福祉の増進、公平な利用に供する管理運営を行う。
- ・ 高齢者が気軽に集まり心身共に充実した活動が行える場の提供に努める。
- ・ 老人クラブなど地域で活躍している高齢者の活動及び情報共有の拠点となるような施設運営を行う。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|--------|--|--|----------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 施設運営 I | 施設貸出 I | <ul style="list-style-type: none"> ・ 趣味の会 ・ 老人クラブ ・ ほっとほ一む ・ その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を中心とした生きがづくりや健康増進に努める。 ・ 活動場所の提供や誰もが平等に利用出来る施設の提供。 | 毎月延べ300名 | 達成率99.8% (12.9%増) 下期より民謡が休会していたが(伴奏者の骨折)市広報に会員募集を掲載し会員増強に努めた。(入会9名) 利用者の生活状況や |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--------------------------------|-----------------------|---|---|---|------|------|------|------|------|------|------|--------|-------|---------------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | 緊急時の連絡先を聞き取り、緊急時の対応を強化した。 |
| ② 施設運営Ⅱ | 施設貸出Ⅱ | ・宮古市の高齢者 (各団体関係なし) | ・宮古市の高齢者を中心とした集まり。老人クラブなどの団体関係なく、地域の高齢者が気軽に参加でき、情報交換や小活動を行う。 | 毎月1回実施 5名～10名参加 | 解散した赤前老人クラブの希望者で活動を再開させ、詐欺防止や健康情報を提供した。 | | | | | | | | | | |
| ③ サービス向上 | ・アンケート実施 ・施設維持管理 ・スキルアップ | ・施設利用者 ・職員 | ・満足度調査を実施し、意見や希望を聴取し、サービス向上に努める。 ・安心して利用できるよう保守点検の業務委託。 ・危険個所の確認及び整備。 ・外部、内部研修の積極的な参加。 | アンケート回答率80% 随時実施 | アンケート回答率100% ・施設内外を巡回。刈払いや危険個所の点検により防災防犯に努めた。 ・施設修繕箇所及び備品購入調査票を宮古市へ提出し優先度により来年度に予算化された。 ・毎月内部研修を実施。 | | | | | | | | | | |
| ④ 団体支援 | ・各事業の実施 ・地域貢献 | ・老人クラブ ・単位老人クラブ | ・老人クラブの基本理念に沿った事業実施 ・地域における老人クラブとしての役割、特にも友愛活動、奉仕活動を積極的に行うよう支援する。 ・「はつらっクラブ通信」発行（他情報提供及び会員募集のチラシ配等） | 市老連事業年6回 支部老連事業3回 毎月1回支援 年2回発行 | ・感染防止のため企画を見直し開催。老人クラブには活動状況に応じて個別に補足説明を重ね、負担軽減と運営支援を行った。 市老連事業年3回 支部老連事業4回 毎月1回支援の実施 はつらっクラブ年2回の発行実施 補助金清算業務を支援 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 20日 | 19日 | 22日 | 20日 | 20日 | 20日 | 20日 | 20日 | 20日 | 19日 | 19日 | 22日 | 241日 | 99.6% | 242日 |
| 利用定員 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | — | — |
| 利用者数 | 370人 | 299人 | 371人 | 319人 | 242人 | 226人 | 311人 | 291人 | 282人 | 256人 | 273人 | 353人 | 3,593人 | 99.8% | 3,600人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 施設貸出 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| アンケート実施 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 施設保守点検（消防・清掃） | | | ◎清掃 | | ◎消防 | | ◎清掃 | | | | | | ◎清掃 | ◎消防 | |
| 宮古市老人クラブ連 | | | ◎役員会 | ×スポ大 | | ×県民長 | ◎クラブ | | | | | | | | ◎ 功 労 |

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|----------------------|-------------------------|----------------------------|-----|--|-----------------------|-------------|---------------------------|--|--|--|--------|
| 合会事業 | | | (書面)・監 査(書面)・ 総会(書面) | 会中止 | | 寿体育祭 シニアスポ 大会廃止 | 大会・×発 表会 | | | | | 者表彰 |
| 宮古支部老人クラブ 連合会事業 | ◎三役会 議・監査(書 面) | ◎理事会 (書面)・総 会(書面) | ×森林浴 中止 | | | | | ◎交流 会・オリ ーダー 交流会 | | | | |
| 「はつらつクラブ通 信」発行 | | | | | | ◎1,300部 | | | | | | ◎1300部 |

【総合評価】

・効率性

- ▶施設の十分な感染予防対策を講じて、スケジュール調整を行いながら開館したことでほぼ目標値を達成することができた。
- ▶団体支援行事は書面開催や開催中止など計画が変更となったことから、リーダー研修会等内容を見直し実施することができた。

・有効性

- ▶感染症拡大による施設利用の自粛で上半期は8月から9月にかけて月別目標を達成できなかった。下半期は路面凍結による外出自粛で目標を下回る月もあった。解散した老人クラブに声をかけ意向を確認し趣味活動に結びついている。
- ▶感染症対策による老人クラブの活動制限は、高齢者自身の健康や活動意欲にも大きな負の影響を及ぼしており、会員減少や解散するクラブも増加傾向にあるため、随時相談対応をしながら活動の継続を促がしている。

・インパクト

- ▶年間目標値をほぼ達成。「新しい生活様式」を取り入れながら、高齢者が気軽に集まり心身共に充実した活動が行える場の提供に努めた。
- ▶新たに相談・支援内容をデータ化したことで、当施設の役割を改めて確認した。今後もデータを積み上げ、分析を行いながら改善を重ねる。

・妥当性

- ▶高齢者が自らの生きがいを高め、介護予防・健康増進といった機能を果たしていくために当施設の役割は大きい。
- ▶一方で、一部活動がマンネリ化し利用者が固定されていることから、高齢者のニーズを把握し活動内容を見直しながら、新規利用者が気軽に利用できる環境を整える。

・持続性

- ▶身体活動や社会参加活動を継続することは、フレイル(心身の衰え)予防につながることから、人とのつながり方や集まりの場の新しい形づくりが必要である。
- ▶施設に関する情報の周知が不足していることから、幅広い年齢層に向けた情報発信をする必要があり今後も継続する。

○職員体制(運営規程)

- ・所長 1名(兼務可)
- ・職員 3名以上

○職員体制(現行)

- ・所長 1名(身障センター所長補佐兼務)
- ・主任 1名
- ・運転技師 1名

○配置車両:

- ・施設利用者送迎車両(マイクロバス1台)
- ・団体支援等車両及び送迎車両(ハイエース1台)

| | | |
|--|---------|--|
| | ・事務員 1名 | |
|--|---------|--|

〈地域活動支援センターかねはま〉

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者の自立促進、生活の質の向上等を図ることができるよう、状況に応じて必要な機能訓練、創作活動、レクリエーション等を提供し、社会との交流を促進する。

〈宮古市身体障害者福祉センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・社会適応訓練・機能回復訓練等を実施し、身体障がい者の自立及び社会参加の促進に併せて積極的な施設の利用の促進を図る。
- ・宮古市身体障害者福祉会等の障がい者団体支援に努め、地域生活の支援を促進する。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------------------|--------|------|---|---|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 地域活動支援センター 一金浜 | 機能訓練 | 利用者 | ・OT・PT及び指導員による個別メニューやストレッチ体操による身体機能の維持及び回復 | OT・PT月：1回 個別メニュー・ストレッチ体操：来所時 | コロナ感染関係で自粛する利用者や体調を崩され通院や入院またショートステイを利用する方が増え実績は減となる。 個別リハストレッチ体操は毎日実施し機能維持・向上に努めた。 |
| | 社会適応訓練 | 利用者 | ① 料理教室 ② 視覚サポート講座 ③ 園芸教室 ④ 施設外機能訓練 ⑤ 茶道教室 | ① 月1回 ② 月1回 ③ 年4回 ④ 年5回以上 ⑤ 月1回 | 料理：6,7月実施その他職員が講師の代行し実施 視サ：4,5,6,7月実施 園芸：りんご収穫 施設外：8月除き毎月実施 茶道：利用者の都 |

| | | | | | |
|------------------|------------|-------------------------------------|--|--|--|
| | | | | | 合で中止となる傾向あり。 |
| | 創作活動 | 利用者 | ① 書道 ② 陶芸 ③ 七宝 ④ 大正琴 ⑤ カラオケ | ① 月3回 ② 月2回 ③ 月1回 ④ 月2回 ⑤ 月4回以上 | 書道：8,9月利用者の都合で中止 陶芸：実施 七宝：実施 大正琴：利用者の都合で未実施 カラオケ：一人限定で実施 ※コロナ対策をしながら実施。利用者の生きがいとなるように工夫した。 |
| | スポーツレク | 利用者 | ① 卓球バレー ② サウンドテーブルテニス ③ その他 ボッチャ・レク等 | ① 月4回以上 ② 月4回 ③ 年4回以上 | 予定通り実施 ※予定以外でも希望を取り入れ実施 |
| ② 宮古市身体障害者福祉センター | 障がい者への利用促進 | 地域住民 障がい者 利用者 家族 ボランティア | ① 作品展示会及び地域交流会 ② 高浜小学校との交流会 ③ 宮古市身体障害者福祉会団体に対する支援 ④ 宮古市身体障害者福祉会会報の発行 ⑤ 団体支援福祉大会及び会議開催 ⑥ 手話ボランティアの団体への支援 | ① 年1回 ② 年1回以上 ③ 随時 ④ 年2回 ⑤ 年3回以上 ⑥ 随時 | ぺんこ美術館市民交流センターで実施。年代も幅広い方々に作品をみていただき障害者の理解促進を図る。 学校交流は感染予防のため学校側の申出があり未実施が多かったが、花壇づくりには来所されている。 団体支援は、研修旅行等現地との連 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|-------------------|----------------|----|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | 絡調整等行い実施 予定だったが感染 拡大のため中止。 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 4月岩手県卓球バ レー大会不参加の ため5/3当センタ ーで卓球バレー大 会を実施。 後半大会に参加。 久しぶりの大会に 生き生きされてい た。 ゲートボール大 会・サウンドテー ブルテニス実施。 リフレッシュ教室 は内容を一部変更 し実施。 ※コロナうつの解 消に努めた。 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 更生相談 | 障がい者 利用者 家族 | 相談対応及び関係機関との連携 | 随時 | 家族の悩み・補装 具・福祉用具・感 染症の相談あり。 介護支援専門員等 関係機関との連絡 調整等行う。 |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| 機能訓練 | 219 | 220 | 246 | 243 | 199 | 209 | 216 | 203 | 197 | 192 | 210 | 233 | 2,587 | 93.7% | 2,760件 |
| 更生相談 | 0 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 3 | 2 | 4 | 3 | 7 | 4 | 44 | 122.2% | 36件 |
| 社会適応訓練 | 40 | 34 | 63 | 36 | 10 | 27 | 46 | 53 | 41 | 24 | 53 | 55 | 482 | 267.8% | 180件 |
| 創作的活動 | 18 | 30 | 45 | 34 | 15 | 21 | 21 | 28 | 9 | 23 | 10 | 22 | 276 | 100.0% | 276件 |
| スポーツ他 | 263 | 300 | 328 | 352 | 355 | 322 | 339 | 285 | 357 | 277 | 307 | 294 | 3,779 | 116.2% | 3,252件 |

| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------|------------|----------------|--------------------------|---------------|---------------------|-----------------------|--|----------------------|-----|----|---------------|------|
| 宮古市身体障害者福祉会新聞発行 | | ×書面決議の関係で6月に変更 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | | | |
| 岩手県身体障害者福祉会福祉大会 | | | | ×会場の都合で11月に変更 | | | | ○7月からの変更 11/1 | | | | |
| 学校交流 | | | ○6/29マリンゴールド植え | × | | | ○花壇作り来所/学習発表会父兄のみ | | | | ×コロナ禍学校の方針で中止 | |
| 宮古市身体障害者福祉会団体支援 | ◎監査・総会書面決議 | | ×岩手県障害者スポーツ大会不参加 ◎理事会 | | ○会長・副会長会議(研修旅行について) | ×研修旅行企画調整するが感染拡大のため中止 | ◎卓球バレー大会 10/16 ◎視障協研修支援 10/15 | ◎卓球バレーみやこ大会 11/23 | | | | ◎理事会 |

【総合評価】

・効率性

▶利用時には自宅及び乗車前・来所時の体温測定等行い、職員は朝・出勤時・午後の3回検温を実施し施設内の感染対策を行い安心して利用していただけるように努めた。

感染拡大のため昨年より自粛等で、年間で実人員8名減、延べ人員81名減となっている。行事内容の工夫や時間延長の受け入れを行い、また臨時開館も行い利用者の活動の促進を図った。

課内の職員の協力体制があり、少ない職員でがんばり抜くことができた。

▶団体支援行事は、紙面開催や中止など計画が変更となったため、会員の方々には、書面で素早く周知している。行事に参加できない会員の方々に会報を通じて、他の会員の頑張っている姿の掲載や、感染対策についての情報提供を行った。

・有効性

▶感染拡大により外出の機会が減る中、平日及び祝日等の臨時開館を行い活動の場を提供し喜ばれる。

▶団体支援は、新型コロナウイルスの感染拡大によってリスクがあり活動がなかなか難しかったが、感染対策を行い10月11日には岩手県卓球バレー大会に参加し、利用者の生きがいとなる。感染者なし。

▶宮古市身体障害者福祉センターのチラシを作成し、岩手リハ、県病（宮古、山田）、宮古第一病院、障がい福祉係（山田町・宮古市）、宮古市社会福祉協議会各センター、市内包括支援センター・居宅介護支援事業所、レインボーネット、ぺんこ美術館の来場者の方々に配布し周知を図った。

・インパクト

- ▶「新しい生活様式」を取り入れながら利用者の自立促進・生活の質の向上を図った。
- ▶団体支援は、会員の方々が楽しみにされている岩手県卓球バレー交流大会・福祉大会等に参加。感染対策し細心の注意を払い支援に努めた。
- ・妥当性
- ▶利用者の自立促進、生活の質の向上を図り、状況に応じて必要な機能訓練、創作活動、レクリエーション等を提供し、社会との交流を促進する当施設の役割は大きい。一方で新規の利用者及び会員が増えないため、市内に出での活動を増やした。
今後も継続が必要。
- ▶身体障がいの方が利用できる施設として重要である。日常の居場所としても必要な場所として定着している。その一方施設に関する情報の周知が不足していることから、宮古市社会福祉協議会のホームページや宮古市内の資源を活用し、活動を周知していくことが必要である。
ぺんこ美術館を継続し利用者の意欲向上や宮古市身体障害者福祉センター周知を図っていく。

| | | |
|--|--|--|
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・看護師 1名 ・介護福祉士 1名 ・指導員 1名 ・介護職員 1名 ・介助員 1名 | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・指導員 1名（老人福祉センター所長兼務） ・看護師 1名 ・介護福祉士 1名 ・介護福祉士兼運転技士 1名 ・介護員兼運転技士 1名 ・介助員 1名 | <p>○配置車両：</p> <ul style="list-style-type: none"> リフトバス 1台 車椅子用車両 1台 軽自動車 1台 |
|--|--|--|

【田老福祉センター】

II. 事業目標

- ・田老福祉センターを地域活動の拠点として包括的支援体制の整備を図りながら、住民主体による地域福祉活動を推進する。

＜地域支援係＞

II. 事業目標

- ・個と地域の一体的支援を実施していく。
- ・地域に必要な資源や活動を把握し働きかけるために実地踏査を通し地域アセスメントに取り組む。
- ・地域課題解決に向けて必要な資源や活動について主体的なかかわりができるよう地域に働きかける。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------------|-------------|------|--|-----|--------------------------------------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 田老福祉センター管理運営 | ・センター内施設の活用 | 住民 | ≫田老福祉センターを地域の拠点として、センターを活用した住民活動の促しを進める。 | | 作品展示による住民活動の披露の場や文化祭開催を通じカフェコーナーでは住民 |

| | | | | | |
|--------------|--------------------|--|--|--------------------------------|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流イベントの企画、運営 ・センター利用者の増加・会議室等の貸館。 | <p>年8回</p> <p>月5件</p> | <p>同士が談笑する等のセンターを拠点としたイベントの取り組みが出来た。防災講座を実施。地域から10名参加あり。</p> <p>コロナ禍以降申し込みがなかった自治会から役員会の借用申込があり利用者増につながったが目標値達成に至らなかった。</p> |
| | ・田老福祉センターの維持管理 | | <p>≫田老福祉センターを安全により充実した活用ができるよう、維持管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務委託による保守・点検 ・必要箇所の修繕（屋上防水工事） ・清掃計画を立て、必要箇所の定期的清掃 | <p>年2回</p> <p>年4回</p> | <p>プレハブ倉庫の片づけを実施（リサイクル品、備品の破棄等）センター周辺の除草、草刈りにて環境整備ができた。</p> |
| ② 田老地区地域支援事業 | ・福祉教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・宮古北高等学校 ・田老第一小学校 ・田老第一中学校 ・田老保育所 | <p>≫学校における福祉教育、福祉への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童対象福祉体験教室の実施 ・学校訪問 ・田老地区福祉演芸大会 | <p>4回</p> <p>10回</p> <p>1回</p> | <p>学校訪問 5回</p> <p>福祉体験教室 4回</p> <p>関係機関と協働で実施することができた。事前に打ち合わせをして福祉体験に対する捉え方等について話し合い意識や活動の共有を図ることができた。</p> <p>認知症カフェでボランティア活動に繋げることができた。</p> |
| | | | <p>≫各地区に福祉協力員を委託。他の事業や行事への協力を依頼する。世帯情報の共有。</p> | | <p>社協会費赤い羽根個別募金の徴収時に世帯状況の共有を図ることが出来た。</p> |
| | ・福祉協力員による地域福祉活動の向上 | | | | |

| | | | | | |
|-----------------------------|-------------|---|--|-----|--|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・協力員の委託 ・保険加入 ・広報活動の依頼 | 年8回 | |
| ・田老地区民生委員児童員活動支援 | 民生委員児童委員 | <ul style="list-style-type: none"> ≫地域の高齢者見守り ・地域高齢者情報共有 ・地域活動協力体制の強化 ・地区民児協議支援 | 6回 | 12回 | 民協定例会（4回）などで情報共有を図った。包括主催の高齢者等情報交換会（2回）を実施し相談や活動について民生委員同士や田老C、包括との連携について共有を図ることができた。 |
| ・田老地区福祉演芸大会 →田老福祉センター文化祭 | 田老地区全世帯 | <ul style="list-style-type: none"> ≫住民同士のつながりや支え合いの充実、福祉・地域づくりの担い手育成推進のため実施する。 ・準備会の運営 ・協力団体の委嘱→依頼 ・地域情報の共有 ・広報活動の依頼 | | 3回 | 準備会（2回開催）にて、地域の活動の撮影および上映や作品展示による地域の活動発信や活動の活発化を目的として開催することを全体で確認。自治会総会やサロン等に出向き事業や協力依頼の説明を行った。地域に出向き撮影を機会に地域の活動を通じた地域の現状などを伺う事が出来た。（14カ所） |
| ・田老地区世代間交流会 | 高齢者・小学生・高校生 | <ul style="list-style-type: none"> ≫つながり支え合いの充実、地域づくりの担い手育成推進 ・協力の依頼 ・企画会議開催 | | 36件 | チラシ配布3回 |
| ・田老地区老人クラブ | 老人クラブ会員・高齢 | ≫老人クラブ活動支援 | | 2回 | |

| | | | | | |
|------------|--|---------|--|-----|---|
| | 活動支援 | 者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 田老地区高齢者運動会運営支援 | 1回 | 総会等2回。 随時支部長と連絡を取り合い交流支援の調整を行っている。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 田老老人クラブ会員と高齢者の交流支援 | 2回 | |
| ③ 低所得相談事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ たすけあい銀行貸付事業 ・ 生活福祉資金貸付事業 | 低所得世帯事業 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 世帯状況の把握、困窮防止につながる生活再建 ・ 貸付にかかる相談業務 | | 当該借受人の申し出により償還免除申請支援を実施。支援をきっかけに生活状況を確認することが出来た。孤立傾向世帯としてアウトリーチの必要性を把握した。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 償還訪問、指導 | 6回 | |
| ④ 共同募金事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 田老地区募金委員会 | | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 田老地区募金委員会運営 ・ 田老地区の募金活動について検討し実施 | 3回 | 2回実施。募金活動等の取り組み、方向性の共有が図れた。 社福法人での寄付付き自動販売機の設置協力（機種変更・新規設置）となった。 |
| ⑤ 高齢者サロン事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 支え合いの充実 ・ 居場所づくり ・ 交流の場の創出 | 高齢関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 各地区で住民同士の交流促進と高齢者の介護予防・見守り形成を促し、支え合いの充実を図る。 ・ ふれあいいいききサロン運営 | 12回 | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ ほっとほーむ運営支援 | 9回 | 活動休止のサロンが多いことから、個別にできる活動の提供支援。代表等と連絡を取り合い状況把握。25回。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主運営サロン支援 | 12回 | 他事業の利用の情報提供。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------|----------|---|----|----|----|-----|-----|--|----------------|----------|----|-----|--------|-------|
| | | | | | | | | | ・ 田老地区サロン連絡会 ・ 田老ネットワーク会議 ・ 認知症カフェ | 2回 2回 3回 | 自主運営支援5回 | | | | |
| ⑥ 被災者生活支援事業 | ・ 継続相談 | 被災者・地域住民 | ≫ 個別訪問活動 ・ 災害公営住宅アセスメントに添った見守り活動。 ・ 課題の明確化。適切な支援に繋げる。 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ≫ 地域支え合い活動 ・ 支え合いマップ作成 | | | | | | 3回 | 1回（更新） | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| サロン訪問 | 8 | 1 | 6 | 4 | 4 | 2 | 6 | 2 | 2 | 3 | 2 | 7 | 47 | 195.8% | 24件 |
| 復興見守り（訪問） | 13 | 34 | 30 | 27 | 15 | 18 | 17 | 17 | 42 | 22 | 22 | 17 | 274 | 342.5% | 80件 |
| センター利用（貸館） | 3 | 5 | 4 | 4 | 0 | 6 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 6 | 50 | 83.3% | 60件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 田老福祉演芸大会・準備会 | | ○ | | × | | × | | ◎ | × | | | | | | |
| 支え合いマップ作成 | | | | × | | ○ | × | | | | | × | | | |
| 福祉体験教室 | | | | | | ◎ | ◎ | × | | | | | | | |
| 世代間交流会 | | | × | | × | | | | | | | | | | |
| たろうつながり通信発行 | × | ◎ | × | ◎ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | ◎ |
| 【総合評価】 ○効率性 ・ コロナ禍以降の地域の活動の低下の情報が多くあり、活動の様子を動画撮影し上映する機会とサロンや個人の作品展示の場として文化祭を計画。動画撮影について自治会長・団体代表からの理解や協力があり、計画に沿ってスムーズに進めることができた。顔を合わせたことで地域の現状や課題などの把握につながった。 ○有効性 ・ 地域が活動している場に出向いたことや以前からの関わりにより事業目的の理解が得られた結果、自治会との関係性が構築できた。反面、関わりが薄い自治会へのアプローチが不足した（関わり手段の検討が必要）。 ・ 法人の寄付付き自販機の設置をきっかけとして法人の赤い羽根募金への理解と自販機の利用を介した募金の機会となった。また、自販機の設置を通して法人とのつながり拡大と構築ができた。 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|---|--|
| <p>○インパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画撮影をきっかけに自治会や活動団体に活動状況を聞くことで地域の資源（強み）やつながりを発見・把握するなどプラスの効果があった。開催案内チラシの配布により、作品作りのきっかけとなり活動の再開につながったケースがあった。 ・ コロナ禍以降、活動停滞している地域に支援団体の主催イベントをマッチングし、多くの住民の参加があった。久しぶりのイベントで顔合わせることが出来たなどの声が聞かれ、住民同士が顔を合わせる機会を提供することが出来た。 <p>○妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会や活動団体の活動が認識される機会となった。 ・ 配食支援事業当該利用者を通して地域の企業を拠点とし、配食を介した地域のネットワークの構築ができた。拠点等で他者と関わり、孤立していた利用者の日常生活に前向きな変化が見受けられるなど拠点効果があった。 <p>○持続性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田老福祉センター文化祭のアンケート結果から、良かったとの回答が多くあり作品作りからやってみたい、作り方を聞きたいとの問い合わせがあり実施して行くことが地域の活性化に効果があると感じた。 ・ 配食支援事業を通して企業への当該事業の理解や発展性が見込まれる。 ・ 手話通訳等派遣事業では、派遣依頼件数が12件、手話通訳や要約筆記者にコーディネートをすることができた。講演や研修会などについては、事前に開催内容の確認や資料提供を依頼して手話通訳しやすい環境を整えることが出来た。手話通訳者からの活動報告書から、活動状況の把握や必要に応じて依頼元へ状況確認を行い手話通訳者等の通訳活動の環境整備につなげることができた。 <p>難聴者など、聞こえにくさから地域の活動に消極的な高齢者がいることを把握、当該事業の発信の必要性を強く感じた。</p> | | |
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両：（軽自動車2台） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援相談員 1名 ・ 生活支援体制整備兼相談員 1名 | <ul style="list-style-type: none"> スズキアルト1台 スズキアルトバン1台 |

〈田老デイサービスセンター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・ 要介護状態の利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう、生活機能の維持または向上を目指し、必要な日常生活上の世話及び機能訓練等を行うことにより、利用者の社会的孤独感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
- ・ 「能力を引き出すことを支援」「自らの意思で選択することを支援し、個人のニーズに合ったケア」
 - ⇒ 「自立」を目指し、必要なものを用意し環境を整え、現有能力、潜在能力を適切に引き出す関わりをすることで生活の営みを支援する。
 - ⇒ 「自立」を目指し、自分の意思で選択し、行動や生活が出来るよう、個人のニーズ、状態にあったプログラムを提供する。
- ・ 地域や地域住民あらゆる社会資源を活用したコミュニティケア（地域ケア）を実践していく。
 - ⇒ 地域で支え合う拠点づくりや取り組みの推進を目指す。
- ・ 職員の資質向上と研修の参加

⇒内部研修や外部研修で知識や技能のレベルアップを図る。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------------------------|---|---|--|---------|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①利用者の個別ニーズに対応した処遇と自立に向けた支援。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常動作支援 ・ 通所計画書作成 ・ 担当者会議 ・ 計画書説明・同意 <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度調査実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者 ・ 家族 | <p>[健康] 健康状態の把握や介護に関する心配事の相談。</p> <p>[入浴] 職員の介助を受けながら安心して入浴する。設備の整った浴室で利用者の状態に合わせた介助を行う。</p> <p>[食事] 栄養バランスの取れた手作りの食事を利用者同士で顔を合わせながら楽しむ。</p> <p>[レク] 身体機能の回復や維持が出来るようなレクリエーションの提供。</p> <p>[個別訓練]</p> <p>日常生活に必要となる動作に対して改善と維持を図るための訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの実施 | ・ 1日 9人 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度の1日平均は6.6人 ・ 達成率は73% ・ 下半期は、週3回利用者や介護度の重い利用者の終了が続いた。食道がんの利用者に対して嚥下状況に応じた食事形態や本人の希望する生活スタイルを理解した苦痛の緩和に努めた。 ・ 職員家族のあいつぐ新型コロナ感染がみられたが2日間のみ閉所とどまった。閉所による利用者の支障はなかった。再開後は、利用者情報共有し感染予防の意識を高めた。 ・ 利用者満足度調査を実施し、利用者の満足度が97%と高評価を得られた。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|---|---|---|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-------|-------|
| ②地域ケア | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流 ・地域イベントへの参加 ・運営推進会議の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 ・地域サロン利用者 ・地域住民 ・ボランティア | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に交流できる環境づくり ・地域とのつながりづくり ・地域へ外出し、地域の情報を得る ・サービスの内容を明らかにし、地域との連携を図る。 ・情報の発信（デイ新聞の発行） | <ul style="list-style-type: none"> ・センター内で開催する文化祭に向けた装飾づくりや季節の行事、野菜の収穫など、利用者の意欲や想いに沿った支援を提供することが出来た。 ・運営推進会議は、予定通り実施し、デイの情報を地域や関係者の方々へ広く発信することが出来た。 | | | | | | | | | | | |
| ③資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・内部研修 研修会への参加 ・非常災害対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・接遇、対人援助技術、リスクマネジメント、個人情報保護、認知症ケア、感染症に関する研修会講習への参加。 ・災害、避難訓練の計画、実施。利用者への情報周知 | <ul style="list-style-type: none"> ・内部研修 ・外部研修 ・年3回 <ul style="list-style-type: none"> ・内部研修、外部研修ともに実施することが出来少ない職員体制でもサービスの質を保ち業務をバランスよく遂行できた。 ・避難訓練も計画通り実施。定期的な設備の点検・管理や災害に対する心構え等を定期的に訓練することで職員の意識向上につながった。また、利用者や地域サロン利用者と合同での火災訓練も実施し意識を高めた。 | | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 21 | 20 | 21 | 20 | 20 | 19 | 17 | 22 | 241 | 99.6% | 242日 |
| 利用定員 | 13 | 13 | 13 | 13 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | — | — | — |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| 要支援1/事業対象者1回数 | 4 | 4 | 4 | 4 | 0 | 9 | 9 | 9 | 14 | 6 | 7 | 8 | 78 | 65.0% | 120人 |
| 要支援2/事業対象者2回数 | 18 | 16 | 19 | 13 | 4 | 9 | 9 | 9 | 0 | 5 | 8 | 11 | 121 | 50.4% | 240人 |
| 要介護1（延） | 30 | 36 | 38 | 40 | 44 | 41 | 43 | 45 | 48 | 50 | 49 | 61 | 525 | 109.4% | 480人 |
| 要介護2（延） | 54 | 52 | 53 | 50 | 48 | 33 | 50 | 55 | 51 | 54 | 46 | 43 | 589 | 48.0% | 1,227人 |
| 要介護3・4・5（延） | 36 | 25 | 30 | 33 | 33 | 33 | 21 | 18 | 20 | 20 | 17 | 19 | 305 | 254.2% | 120人 |
| 合計 | 142 | 133 | 144 | 140 | 129 | 125 | 132 | 136 | 133 | 135 | 127 | 142 | 1,618 | 74.0% | 2,187人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 避難訓練（火災・水害・地震） | | | | ◎ | | | | × | | | ○ | ◎ | | | |
| デイ新聞発行 | ◎ | | | ◎ | | | ◎ | | | × | ○ | | | | |
| 運営推進会議（おおむね6カ月に1回の実施） | | | × | ○ | | | | | | | ◎ | | | | |
| 外部研修・内部研修 | × | ○外部 | ◎内部 | | ◎外部 | ○内部 | ◎外部 | ○外部 | × | | × | ○内部 | | | |
| 利用者満足度調査 | | | | | | | | × | ○ | | | | | | |

【総合評価】

・効率性

⇒昨年からの利用者ニーズに沿い、田老地区外（崎山地区）の利用を受け入れたことで新たな利用者の獲得または複数回利用等、継続したサービスに繋がった。

近隣施設での感染症に伴う事業の閉所で臨時的な利用ニーズが高まり、迅速な対応をとることが出来た。

・有効性

⇒複数回の、定期利用により清潔の保持またはバランスの取れた食事が出来、孤独感の解消や心身機能の維持に役立てられた。

また、社会とのつながりを確認できる場としても継続して利用頂けた。

・インパクト

⇒昼食の麺メニュー定着と嗜好調査によるモニタリングで利用者の希望、要望に沿った提供を継続することが出来た。

個別の活動では、個人とじっくり向き合い懇談しながら無理のない範囲で、簡単な計算プリント・間違い探し・切り絵・手芸等を継続して実施できるように提供することが出来た。

・妥当性

⇒地域の活動への参加、作品の出展等で利用者自身の興味や生活意欲の向上につながった。

運営推進会議やデイ新聞を通じて、地域の方々に理解が広がり、身近な資源として周知されている。

・持続性

⇒実績については、1日平均6.6人。

年度途中の職員減少により定数を縮小（13名⇒10名）の職員体制となるが、総福職員の食事配送協力や業務内容の明確化と連携に努め効率よく安

定したサービス提供が出来ている。利用者一人一人にしっかりと向き合うことで信頼関係も築けている。

| | | |
|---|---|-----------------------|
| ○職員体制（運営規程）8月より変更 ・ 管理者 1名 ・ 生活相談員 1名 ・ 介護福祉士 1名 | ○職員体制（現行） ・ 管理者兼生活相談員 1名 ・ 介護員兼生活相談員 1名 ・ 介護福祉士 1名 | ○配置車両：2台 ・ 軽自動車：2台 |
|---|---|-----------------------|

【新里センター】

Ⅱ. 事業目標

〈新里センター〉

- ・ 地域住民が自らを知り、住民主体で地域福祉活動の推進を図る。

〈地域支援係〉

- ・ みんなで支え合う地域づくりについて学ぶ。
- ・ 地域の持てる力・資源を知る。
- ・ 地域の課題・ニーズの把握を知る。
- ・ 地域住民主体の居場所づくりの支援をする。
- ・ 新里を大切に思い『自分たちでできること』をすすんで行う子どもたちを育てる。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|--|---------------|---------------------------|---|---|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| 共同募金による地域福祉活動事業 Ⅰ 福祉の学びと担い手の育成 (1) 身近な福祉への気づきの醸成 | ①福祉体験教室 | ・ 小学校・中学校・企業・地域・介護施設・介護機器 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 学校訪問（小・中） ≫ 企業・地域サロン訪問 ≫ 福祉体験教室（小・中） ≫ 企業・地域向け体験教室 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 通年 ≫ 年3回 ≫ 年2回 ≫ 年2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域情報掲載の、広報誌配布訪問10回。 ・ 地域サロンで、福祉体験教室紹介10地区。 ・ 企業との連携で、体験教室協力7回あり、福祉の担い手育成強化。 |
| | ②福祉作文・標語コンクール | ・ 小学校・中学校・地域・企業 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 学校訪問（小・中へ周知） ≫ 情報発信（関係機関他周知） | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 通年 ≫ 年2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 応募声掛け実施 応募：作文1校、標語1校あり |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|---|------------------------|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------|-------|
| | ③『和来輪来まつり』 | ・小学校・中学校・地域・企業 | ≫住民参加の声掛け(祭りの内容にて決める) ≫イベント周知(サロン) | ≫サロンほか ≫7か所 | ・作品展示協力声掛け10団体実施⇒4団体参加 | | | | | | | | | | |
| (2)福祉への参加人口増加 | ④ボランティア活動 | ・学校(小・中) ・企業 ・地域 | ≫ボランティア活動情報発信 ≫ボランティア学習会(学校・地域・企業) | ≫年3回 ≫2か所(中・サロン1ヶ所) | ・施設・地域サロン支援Vの相談を受けていたが、コロナ関連で実施できず。 | | | | | | | | | | |
| II 安心の地域づくり (1)場の創出 | ①高齢者サロン事業 | ・ほっとほ〜む(5か所)・サロン(4か所)・関係機関・自治会 | ≫サロン・ほっとほ〜む活動申請支援 | ≫年1回、7か所 | ・サロン活動継続支援。(レク用品貸し出し等) ・ほっとほ〜む申請支援5か所 | | | | | | | | | | |
| (2)つながり・支え合いの充実 | ①会食会事業 ②地域見守り活動助成 | ・新里地区内・関係機関(商店・企業)・サロン | ≫会食会(または配食弁当) ≫企業協力の依頼 ≫実施場所 | ≫年1~2回 ≫2か所 | ・会食会⇒見守り配食弁当刈屋地区で実施 ・1か所相談のみで未実施 | | | | | | | | | | |
| | | ・自治会(5地区) | ≫敬老会事業助成金申請支援 | ≫5か所 | ・1地区申請 | | | | | | | | | | |
| III 活動基盤の充実 (1)財源・情報 | ①社協会費 ②共同募金配分金 ③寄付金(物品) | ・新里地区(5地区) ・法人(22法人)・職域・民生委員 | ≫福祉協力員へとりまとめの依頼。 ≫法人訪問 ≫赤い羽根募金・歳末助け合い募金 | ・年3回(協力員31名) | ・協力法人20件(昨年と同じ) | | | | | | | | | | |
| IV 地域相談支援機能の充実 (1)相談機能の向上・福祉サービスの充実 | ①福祉教育相談 ②ボランティア相談 ③低所得相談 ④その他(地域支援) | ・民生委員 ・学校 ・住民 | ≫相談対応 ≫償還支援 ≫書類管理事務 | ・通年 | ・福祉体験教室相談増加 小・中学校合わせて年8回の実施 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 地域訪問 | 13 | 17 | 19 | 20 | 16 | 13 | 19 | 16 | 14 | 15 | 15 | 16 | 193 | 402.1% | 48件 |
| サロン訪問 | 4 | 5 | 8 | 6 | 3 | 7 | 5 | 5 | 6 | 3 | 4 | 5 | 61 | 117.3% | 52件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|
| 福祉体験教室 | | | ○ | ○ | × | × | | | ○ | | |
| ボランティア活動 | | × | | × | | | | | × | | |
| ほっとほ〜む支援 | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | | |
| 会食会 | | | × | | | | | | | × | ○ |
| 会費・共募 | | | | ◎ | | | ◎ | | ◎ | | |

【総合評価】

・効率性

高齢者サロンの活動では、支援要求に寄り添ってリーダーや担い手に都度相談対応した結果、地域訪問増となり、自主的な動きが増えサロン訪問が減少となった。定期的な居場所の活動が良好に行なえていることの把握に努めている。

・有効性

地域力を生かした活動に意欲の高い住民も多い、また近隣の世帯状況を把握できる関係性が築かれている地区も多く、地域力にも、わだかまりにもなり得る事を理解しながら、地域の代表のみならず関係性を保てる担い手発掘に努めた。今後も地域の情報収集が重要と考える。

・インパクト

コロナ禍生活から活動意欲を自粛前に戻す事は難しく、3年の時間は大きい要因の一つとなっているが、支え合う活動が必要との認識を問題提起ができ、意欲向上に繋がる活動の機会に活かされたと思われる。

・妥当性

福祉体験教室は、学校との連絡調整を密に行ない、感染症の現況を鑑みながら、学校行事変更に合わせて調整を行った結果、日程変更し実施、追加相談も多く、結果的に実施回数増となった。一方、ボランティア活動については、学校等と相談対応を継続していたものの、地域にコロナ感染拡大のため延期が続き見送りとなったが、福祉体験教室の充実につなげることが出来た。

会食会では相談対応を継続していたが感染症関連の不安から内容変更や日程調整等を経て、意欲的なサロンを行う地域において年度終盤お弁当をお届けする形で実施が出来、高齢者にも大いに喜ばれる事業となった。

住民の視野は地域性が強く、同等に関係機関の地域性も強い事から、住民の意向を理解し支援者側との方向性を近づけることが重要で、地域力・自主活動の促しに繋がると考える。

・持続性

社協会費、共同募金運動ではコロナ禍の中、福祉協力員の協力のもと、期間内に会費・募金の取りまとめを行うことが出来た。また、イベント募金についても地域のイベント自粛が続く中、玄翁館まつりにおいて募金委員の協力のもと実施、次年度は通常どおりの活動を行うための基礎固めにもつながる活動が出来た。

担い手が不足することで代表の負担が増加し、どの団体も活動内容等の選択に苦戦し継続意欲が低迷していた。地域の担い手を対象に情報交換会等を実施し、活動を続ける意義を意識する事や自主性の促しにつながった。

○職員体制（運営規程）

○職員体制（現行）

- ・センター長 1名
- ・地域支援係主任 1名（生活支援コーディネーター兼務）

○配置車両：

1台（軽自動車 スズキアルト No.2405）

| | | |
|--|------------------|--|
| | ・事務員0.5名（ヘルパー兼務） | |
|--|------------------|--|

〈新里居宅介護支援事業所〉

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者・家族の意思に基づき、地域の様々な資源を活用しながら、自立した生活を送ることができるよう支援する。
- ・各関係機関と連携を図り、地域のネットワークの中で利用者・家族を支援していく。
- ・ケアマネジメント業務を確実に遂行する力量を身に付け、適切な書類作成と活用を図る。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|--|-------------------|--|---|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 居宅介護支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談業務 ・アセスメント ・ケアプラン作成 ・サービス担当者会議 ・モニタリング、評価 | 利用者、家族 サービス事業者 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族との信頼関係づくり ・自己選択の保証、自立支援 ・関係機関との連携、具体的で達成可能なケアプランの立案とモニタリング | <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成 月28件 | 月平均29.4件 （新規10件） 他県や他市町村の医療機関と連携し情報共有に努めた。 |
| ② ネットワーク構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携 ・特定相談支援事業者との連携 ・地区連絡会への出席 ・認知症カフェ参加 ・各地区の住民とのつながりを作る | 医療・福祉関係機関 地区住民 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有および連携体制の構築 ・医療との連携による在宅生活の継続支援 ・地域での見守りネットワークづくり ・介護保険の周知、安心キットや緊急通報装置などの周知と利用支援 ・災害時の避難支援体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・入退院連携加算 算定 9件/年 ・地区連絡会毎月参加 ・認知症カフェ2回参加 ・サロン等での講話 3回実施 ・全プランに記載 | 入退院連携加算 算定6件 地区連絡会・認知症カフェ目標値達成。 サロン等での講話はコロナの影響で2回実施により未達成。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------|---|---|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------|-------|
| ③ ケアマネジメントの向上 | <ul style="list-style-type: none"> 各種研修への参加 自己研修 業務内容点検 | ケアマネジャー | <ul style="list-style-type: none"> 積極的な研修、事例検討会への参加 隔月でケアマネジメント部会に参加 年2回業務点検の実施（アセスメント、訪問記録、モニタリング、サービス担当者会議の開催） | <ul style="list-style-type: none"> 研修目標の設定 左記以外の研修3回/年 減算なし | 研修目標を設定し振り返りを行った。外部研修・Zoom視聴を実施。達成。 | | | | | | | | | | |
| ④ 委託事業 | <ul style="list-style-type: none"> 相談業務 アセスメント、ケアプラン作成 サービス担当者会議 モニタリング 更新、区分変更調査 | 要支援1・2認定者 総合事業対象者 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> 各ケアプラン作成 自立に向けた効果的な介護予防サービスの提供と、モニタリング・評価 認定調査項目に基づいた調査の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 各ケアプラン数 要支援1・2認定者 月5件 総合事業対象者 月3件 調査 10件/年 | 介護予防・総合事業共に月平均2.8件により未達成 認定調査達成 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 総合事業 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 34 | 94.4% | 36人 |
| 介護予防 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 34 | 56.7% | 60人 |
| 要介護 | 28 | 28 | 29 | 29 | 29 | 30 | 32 | 32 | 30 | 29 | 29 | 28 | 353 | 105.1% | 336人 |
| 合計 | 35 | 34 | 35 | 35 | 35 | 36 | 38 | 38 | 36 | 34 | 33 | 32 | 421 | 97.5% | 432人 |
| 認定調査 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 16 | 160.0% | 10件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 所内会議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 地区連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ケアマネジメント部会 | × | ○ | ◎ | | | | × | ○ | × | | | × | ○ | × | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率性 委託事業（予防・総合事業）の実績は目標値を下回ったが、要介護は上回ることができた。利用者数に対する人員配置は適している。車両の配置も、訪問等に支障はなく行うことができた。 有効性 見守りネットワークづくり目的のサロン等での講話は、コロナの影響があり実施回数が未達成となったが、認知症カフェに参加し住民とのつながりを継続している。ケアマネ部会5回案内があったうち4回出席した。そのほか外部研修ではZoom視聴も行い自己研鑽に努めた。 インパクト 利用者本人だけでなく家族支援を行ったケース有り、医療や行政と連携し家族の生活の安定を図ることができた。 妥当性 | | | | | | | | | | | | | | | |

必要な支援が受けられるよう利用者・家族の意向を確認しながら、サービス調整や他事業所への移行などを行うことができた。
所内会議や地区連絡会を通じて、事業所内外・医療・関係機関等との連携を図った。

・持続性

総合事業については、新里地域に新規に受け入れるサービス事業所が無く利用者数が減っている。新規受け入れのためには、新たなサービスが必要と考えられる。住民とつながりの中から必要としているサービスを把握し、資源創出の働きかけや協力をしなければならない。

要介護者の実績は目標値を達成しており、今後も数値は継続できると考えられる。

| | | |
|--------------------------|------------------------|----------------------|
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両： |
| ・管理者 1名 ・介護支援専門員 1名以上 | ・管理者 1名 ・介護支援専門員 1名 | 1台（スズキアルトバン No.2408） |

【川井センター】

Ⅱ. 事業目標

〈地域支援係〉

- ・支え合う地域づくりを目指した住民主体の活動の推進を図る。
- ・住民の福祉力向上を目指した福祉教育およびボランティア活動の推進を図る。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|--------------|------------|--------------|---|-----------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①福祉教育の推進 | 学校における福祉教育 | 小中学校 福祉施設 | 児童生徒対象の体験教室 施設との交流、ボランティア活動 | 2回 2回 | 施設での体験はできなかったが、合唱披露などできる部分での交流を行うことができた。 |
| ②福祉活動の推進 | コミュニティ支援 | 住民・地域内団体・事業所 | 多様な通いの場の創出・サロン連絡会、高齢者団体等の支援 関係事業所連携事業の開催（むつわ地域まつり） | 6回 1回 | 小さな集まりは持ち始めている。まつりは中止。 |
| ③ボランティア活動の推進 | 福祉活動への参加 | 住民・ボランティア団体等 | 会食会・配食の実施 子ども食堂での調理・遊び・学習の見守り 災害ボランティア活動の支援 | 4回 24回 | ダイニングの開催を通し活動が活発になってきている。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--------|---|----------|-----------------------------|----|-----|-----|-----|--------|----|----|-----|--------|-------|
| ④相談支援事業 | 低所得者相談 貸付事業 | 住民 | 貸付相談・償還相談支援 | 12回 | 滞納者と連絡が取りにくい。 | | | | | | | | | | |
| ⑤共同募金事業 | 地域福祉活動財源創出 | 住民・団体等 | 赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動 助成事業支援（敬老会、会食会、配食等） | 2回 4回 | 会食会は配食に代えて実施。 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 低所得・貸付相談 | 1 | 1 | | 2 | 1 | | | | 1 | | | 1 | 7 | 58.3% | 12件 |
| ボランティア相談 | 3 | 1 | 1 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 | 133.3% | 18件 |
| コミュニティ支援 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 2 | | | 2 | | 9 | 75.0% | 12件 |
| お元気確認 | 10 | 10 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 110 | 91.7% | 120件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 共同募金・助成事業 | | | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率性 助成金の活用を支援し、住民のニーズに合った活動、住民の支え合いを生かす取り組みへと繋げることができた。 ・有効性 コロナ禍で中止された活動について、秋に再度相談し別な形でのボランティア活動を学校と連携し企画。防災に結び付けた福祉教育の体験を実施できた。 ・インパクト こども食堂でのボランティア活動は、地域の結束を生み出すきっかけとなり地域が活性化してきている。地域に誰でも集まれる居場所が新しくでき月1回の開催につながった。 ・妥当性 住民のニーズに沿った支援、住民自らが動き出したいくなるような支援として伴走している。送迎チームの設立と活動の方向性を行政とも連携し進めている。 ・持続性 住民自らが活動を継続できるよう地域づくり団体等との連携を少しずつ進めている。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・地域支援担当 1名 | | | | | ○職員体制（現行） ・係長 1名（2層SC兼務） | | | | | ○配置車両： | | | | | |

【在宅福祉係 かわいホームヘルパー事業所】

Ⅱ. 事業目標

- ・住環境や生活習慣を尊重し快適な生活が送れるように支援する。

- ・利用者や家族の意向に基づいた計画の内容に沿ったサービスを提供する。
- ・安全やプライバシーに配慮したサービスの提供に努める。
- ・他機関、他事業所と連携を図りながら地域に密着したサービスの提供に努める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------------|---|------|--|-------------------------------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 訪問介護 (身体介護) | ・排泄介助、食事介助、清拭、全身浴、部分浴 身体整容、更衣介助、体位交換、移動、移乗介助、通院、外出介助 起床及び就寝介助、服薬介助、自立生活支援、重度化防止のための見守りの援助等。 | 利用者 | ・利用者の安全やプライバシーに配慮し、環境を整え心身共にリラックスできるように援助する。 ・利用者の残存機能を生かし身体の機能低下を予防する。 ・利用者の咀嚼、嚥下能力に合わせ安全に食事ができるように援助する。 ・利用者の安全を確保しながら一緒にできることを積極的に見つけ意欲を高め自立支援につながるよう支援する。 | 平均9.1人/日 | ・入浴や清拭を行うことで身体の皮膚トラブルなどを見逃すことなく早期に改善することができている。 ・本人の意思を尊重し自己決定ができるように促し支援するよう努める。 |
| ② 訪問介護 (生活援助) | ・掃除、洗濯、ベットのメイキング、衣類の整理、被服の補正、一般的な調理、配下膳、買い物、薬取り | 利用者 | ・転倒予防に配慮し、安全で衛生的な環境、整備に努める。 ・衣類、寝具等の清潔を保ち肉体的、精神的に気持ちよく過ごせるよう援助する ・利用者の好みに合わせ安全で栄養バランスを考慮した調理を提供する。 | 平均9.1人/日 | 体調を崩すことなく普段の生活が普段通りに過ごせるように安全に配慮した支援を心掛けている。 |
| ③ 介護予防・日常生活支援総合 | 調理、掃除、洗濯 | 利用者 | ・利用者が行う調理、掃除等を共に行いその有する能力に応じて自立した生活が送れるように支援する。 | 平均1人/日 | ・一緒に行うことを勧めるように試みているが体調面の不調などで思うように実施できなかった |
| ④ 資質向上 | 各種研修会への参加 内部研修 個別研修 | 職員 | ・接遇、プライバシー保護、認知症ケア、食中毒、感染症、ヒヤリハット、虐待、調理実習など研修会、講習など積極的に参加 | 外部研修：4回 内部研修：7回 個別研修：5回 | ・職員が揃う曜日時間帯を工夫し実施したが計画通りとはいかない |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|-------------|-----|-----|-------|--------|--------|------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | かった。 |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | |
| 開所日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 28 | 31 | 365 | 100.0% | 365日 | |
| 利用定員 | | | | | | | | | | | | | | | — | |
| 要支援・事業対象者 (延) | 48 | 52 | 48 | 46 | 38 | 42 | 37 | 34 | 34 | 30 | 28 | 30 | 467 | 121.6% | 384人 | |
| 要介護1～5 (延) | 300 | 273 | 287 | 289 | 272 | 285 | 290 | 283 | 275 | 234 | 202 | 233 | 3,223 | 109.6% | 2,940人 | |
| 合計 | 348 | 325 | 335 | 335 | 310 | 327 | 327 | 317 | 309 | 264 | 230 | 263 | 3,690 | 111.0% | 3,324人 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 事業所内研修 | × | ○ | ◎ | ○ | × | ○ | ○ | ◎ | × | | ○ | × | | | | |
| 個別研修 | | × | ○ | ◎ | ○ | × | | × | | ○ | | | | | | |
| 【総合評価】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・効率性 利用者の希望される時間帯が重複してしまうことが多く限られた職員での対応が難しい、希望に添えられるように現在利用されている方々のご理解を頂いて、時間変更などの調整を行い、効率の良い稼働に努め利用者を受け入れている。 ・有効性 活動範囲が広いため移動時間や燃料費などの無駄が多く発生してしまうので効率の良く稼働できるように調整し行きスケジュールを組み込んでいく。 ・インパクト 身体介護により清潔を保つことや服薬介助を行いきちんと服用することで体調面も改善され精神的に意欲レベルも向上していった。 ・妥当性 長期間利用されている利用者のレベル低下に伴い支援内容にも変化が見られ、見直しが必要と思われる方の情報を他事業所と情報共有し検討して頂き、より良いサービス提供に努めた。 ・持続性 冬季になると施設入所や家族の元へ行かれる方や体調を崩され亡くなられる方が増えることで稼働数が減少し季節が変わっても利用者数が回復できない。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両： | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・介護福祉士 1名 ・サービス提供責任者 2名 ・看護師 1名 ・介護員 3名 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・介護福祉士 1名 ・サービス提供責任者 2名 ・看護師 1名 ・介護員 3名 | | | | | スズキアルトバン 3台 | | | | | | |

〈在宅福祉係 かわい訪問入浴事業所〉

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者の身体的及び精神的満足を得てもらい、住み慣れた居住で暮らすことが出来るよう健康状態の維持に努める。
- ・介護者の負担軽減を図り、介護の助言を積極的に行う。

- ・サービス提供地域を拡大し、新規利用者の獲得に繋げる。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|------|---|----------|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|------|-------|
| | | | | 目標値 | コメント | | | | | | | | | | |
| ①入浴サービス | <ul style="list-style-type: none"> ・健康維持 ・入浴 ・更衣整容・その他 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・入浴前のバイタルチェック等利用者の状況をよく観察、判断した上で入浴を実施する。 ・入浴中は、プライバシー保護に細の注意を図りながら行う。 ・入浴後は速やかに更衣介助を行い、利用者へ負担のないよう介助を行う。また居住にて気持ちよく暮らす事ができるよう整容を行う。 ・利用者の身体状況に応じて、自分で出来るところは無理のない範囲でもらい身体機能の維持・向上に努める。 | 提供数 102件 | 6月以降、死亡等により、サービス提供がゼロ状態となっている | | | | | | | | | | |
| ②資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・内部研修 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症、接遇、ターミナルケアコミュニケーション | 内部研修 4回 | 令和4年度内部研修を実施できなかった。モチベーションの向上が課題。 | | | | | | | | | | |
| ③サービス提供地域 | 通常の実施地域以外でのサービス提供 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて新里地区までサービス提供の範囲を広げ、利用者獲得に繋げる。 | 新規獲得数 2名 | 新里地区までのサービス利用拡大を呼びかけているが、新規獲得には至らない状況。 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 開所日数 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 8.8% | 80日 |
| 利用定員 | | | | | | | | | | | | | | | 一人 |
| 事業対象者(延) | | | | | | | | | | | | | | | 人 |
| 要支援(延) | | | | | | | | | | | | | | | 人 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|--------------------------------------|----|-----|-----|-----|-----------|----|----|---|------|-----|---|
| 要介護1・2 (延) | | | | | | | | | | | | | | | | 人 |
| 要介護3・4・5 (延) | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 8.8% | 80人 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 内部研修 | | | × | | | × | | × | | | × | | | | | |
| 【総合評価】 ・効率性 6月以降、死亡等により稼働ゼロの状態が続いた。今後、事業を継続していくうえで車輛・入浴機器等の整備が必要となるが、新規利用者の獲得は困難であり、車輛・入浴機器の経年劣化が進み事業再開できる目途が立たないために事業廃止を決定。 ・有効性 稼働ゼロ状態が続き令和4年度の目標が達成されなかった。 ・インパクト サービス提供範囲を拡大することで、新規利用者の獲得及び他地域利用者のサービス選択肢の広がり期待したが、利用者の獲得には至らなかった。 ・妥当性 通常の入浴サービスが提供できない事態には清拭へとサービスを変更し、できる限り訪問入浴サービスを継続していけるように対応 ・持続性 現在、利用者ゼロの状態が続いており新規利用者の獲得ができるか見通せない状況となった。令和5年4月30日をもって事業廃止を決定した。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両： | | | | | | |
| ・管理者 1名 ・看護師 1名以上 ・介護職員 2名以上 | | | | | ・管理者兼介護福祉士 1名 ・看護師 1名 ・介護職員 1名 | | | | | ・訪問入浴車 1台 | | | | | | |

〈在宅福祉係 むつわ荘デイサービス事業所〉

Ⅱ. 事業目標

- ・利用者の機能訓練の充実を図り、身体機能の維持、向上を目指した活動を中心に行う。
- ・他機関との連携を密にし個々に合ったサービスを提供する。
- ・川井、門馬、小国との合同活動を増やして活発化し、総合的なサービスの提供に努める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------|---|---|---|------------------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 日常動作支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・送迎 ・食事 ・レク ・行事（通常業務内） | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 ・家族 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族との連携。送迎中の表情の確認。 ・転倒防止。安全な場所までの移動、見守り。 ・栄養バランスを常に考え希望に沿ったメニューや食事形態で健康維持に努める。 ・身体機能及び精神的機能の維持向上に努める。脳トレ、ゲームを行い、刺激を与えな | 500人 *サテライト含む | <ul style="list-style-type: none"> ・合同活動の定着で交流の輪が広がって来ている。 ・本人希望の食事形態を取り入れることで健康維持につながって |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|---|--|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|--|--|--|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> がら満足感を得てもらう。 ・お誕生会（毎月）を楽しんでもらう。 | | <ul style="list-style-type: none"> いる。 ・毎月のお誕生会は皆さんで楽しんでもらっている。 |
| ② 健康管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック ・感染症予防対策 ・入浴 ・個別機能訓練 ・総合事業 ・介護予防 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 ・家族 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調確認 ・家族からの聞き取り（2～3日分） ・緊急時の対応 ・身体清潔保持、皮膚状態の観察、状況に応じて家族への連絡。 ・日常生活全般における身体機能及び精神的機能の維持向上に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調不良と「感染者ゼロ」を目指す。 ・3ヶ月ごとの測定 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策の徹底が行われ継続していく。 ・機能訓練の実施と継続で日常生活の維持が保たれている。 | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会への参加 ・内部研修 ・個別研修（オンライン研修） ・センター会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・研修会、講習会、など積極的に参加。 ・倫理規定・認知症・身体拘束・非常災害時の対応・感染症と食中毒の予防及び蔓延防止・事故発生と再発防止 ・ヒヤリハット（随時） | <ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・年間7回開催 ・毎月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットは毎月、毎日のミーティングで話し合い再発防止に繋げている。 ・研修参加は可能な限り行っている。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | | | |
| 日数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| むつわ・小国 | 21 | 22 | 22 | 21 | 21 | 22 | 21 | 22 | 20 | 20 | 20 | 23 | 255 | 100.0% | 255日 | | | | |
| 門馬 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 11 | 12 | 12 | 14 | 153 | 106.3% | 144日 | | | | |
| 利用定員 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | — | — | — | | | | |
| 事業対象者（延） | 92 | 96 | 96 | 86 | 83 | 69 | 66 | 54 | 55 | 46 | 46 | 53 | 842 | 86.2% | 977人 | | | | |
| 要支援（延） | 60 | 55 | 54 | 57 | 50 | 58 | 64 | 64 | 64 | 74 | 67 | 82 | 749 | 64.7% | 1,157人 | | | | |
| 要介護1・2（延） | 264 | 269 | 287 | 259 | 232 | 271 | 279 | 272 | 229 | 240 | 226 | 259 | 3,087 | 76.1% | 4,056人 | | | | |
| 要介護3・4・5（延） | 40 | 72 | 73 | 56 | 66 | 95 | 73 | 69 | 66 | 50 | 47 | 53 | 760 | 130.4% | 583人 | | | | |
| 合計 | 456 | 492 | 510 | 458 | 431 | 493 | 482 | 459 | 414 | 410 | 386 | 447 | 5,438 | 80.3% | 6,773人 | | | | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | | | |
| 研修関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・内部研修（事業部内） | × | × | | × | | ◎ | ○ | × | | × | | ◎ | | | | | | | |

【総合評価】

・ 効率性

新規利用者の希望に添えられる様に情報の共有を行い、利用の継続が行われている。業務内では業務分担や時間の調整を行いながらも業務の継続が行なわれる様に稼働に努めている。事業所内での協力体制があった事も今後も重要になっている。

・ 有効性

継続しての利用や回数を増やしたいとの希望もあり意欲低下や身体機能の低下を予防出来ている。清潔保持が保たれることで身体状況の情報共有が家族、事業所で行われている。

・ インパクト

独居暮らしの利用状況や確認を行ってきたことで自宅内での転倒や低栄養、冬季間の生活課題など情報の共有が行われた。認知機能の低下も情報共有される様になってきている。

・ 妥当性

身体状況や身体機能の低下がみられる利用者への支援の見直し、利用者、介護家族への寄り添いの気持ちを持ちサービス内容の変更、対応に適切出来る様に支援体制を整える。

・ 持続性

現在のサービスを維持していくためには、職員の体調、現在のサービスに対応する人員体制（病気休暇1名）では職員の高齢化も進み、今後三施設の稼働と人員配置、業務分担の調整、事務処理の時間など課題が出てきている。若い世代の人材育成も含めて検討が必要。

○職員体制（運営規程）

- ・ 利用定員 むつわ荘30名 門馬10名 小国10名
- ・ むつわデイ 門馬サテライト 小国サテライト
- ・ 管理者1人 生活相談員1人 生活相談員1人
- ・ 生活相談員1人 看護師（兼）1人 看護師（兼）1人
- ・ 看護師1人 介護職員1人 介護職員1人
- ・ 機能訓練指導員1人 調理員1人
- ・ 介護職員4人
- ・ 調理員1人

○職員体制（現行）

- ・ 利用定員 むつわ荘30名 門馬10名 小国10名
- ・ むつわデイ 門馬サテライト 小国サテライト
- ・ 管理者1人 生活相談員1人 生活相談員1人
- ・ 生活相談員1人 看護師（兼）1人 看護師（兼）1人
- ・ 看護師1人 介護職員1人 調理員1人
- ・ 機能訓練指導員1人
- ・ 介護職員4人
- ・ 調理員1人

○配置車両：

- トヨタハイエース 3台
- トヨタヴィッツ 1台
- 日産ノート 1台
- スズキエブリィ 1台

〈かわい居宅介護支援事業所〉

Ⅱ. 事業目標

- ・ 毎月の収入目標を決めて事業所内で把握し目標達成に向けて利用者の獲得を意識していく。
- ・ ご利用者、ご家族の意向を確認してできるだけ住み慣れた地域で生活できるように支援を検討していく。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 |
|---------|------|------|------------|----|
|---------|------|------|------------|----|

| | | | | 目標値 | コメント |
|------------|--|----------------|--|----------------------|--|
| ① 居宅介護支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談業務 ・アセスメント、課題分析 ・居宅サービス計画作成 ・担当者会議 ・計画説明、同意 ・計画交付 ・モニタリング ・再アセスメント | 利用者・家族 | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧、迅速、的確な対応。 ・利用者、家族の意向、総合的な援助方針、解決すべき課題、役割分担の確認、サービス実施状況の継続的な把握及び評価。 | 提供数 90 | 職員の体調等考慮し、出来るだけ新規受け入れは行ってきたが、長期入所や死亡者が1月～3月に増えたことで減少となる。提供数平均59.8人 |
| ② ネットワーク構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・多職種との連携 | 職医療・福祉・地域の関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向き自分たちを知ってもらう。 ・いつでも相談出来る関係性を築く。 ・独居、認知症高齢者、重度の要介護者への対応。 ・利用者の緊急時体制を把握し具体化。 ・入・退院時の情報の提供および共有 ・地域の見守りネットワークに参加情報共有 | 会議出席：15 加算取得：10 | 新規利用の加算 今回受診同行加算算定 所内会議、センター管理者会議 毎月の川井地区医療連携会議参加 |
| ② 資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・各研修会の参加 ・内部研修 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント、認知症ケア、接遇、対人援助技術、苦情処理、個人情報保護、認定調査に関する研修会、講習などに積極的に参加。 ・地域ケア会議、ケース会議に参加 | 内部研修：12回 外部研修：13回 | 必要な研修を見極めて参加 内部研修11回 外部研修17回 |
| ③ 運営管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・法令、運営基準の再確認及び情報収集 ・給付管理 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、必要な書類の定期的なチェックの実施。 ・加算項目の的確な請求及び過誤請求の防止。 | 月1回点検 | 個々で管理し、確認を行う。 毎月の収益の意識を持つ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----|----|-------------------|----|----|---|-----|-----|----|----|----|-------------------------|--------|--|--|
| ④ 委託事業 ・介護予防・日常生活 支援総合事業 ・要介護認定訪問調 査 | ・相談業務 ・アセスメント、課題 分析 ・居宅サービス計画作 成 ・担当者会議 ・計画説明、同意 ・計画交付 ・モニタリング ・再アセスメント | | | 事業対象者・小支援 者・家族 | | | ・丁寧、迅速、的確な対応。 ・利用者、家族の意向、総合的な援助方針、 解決すべき課題、役割分担の確認、サービ ス実施状況の継続的な把握及び評価。 ・認定調査研修会参加 ・所内研修にて研修実施 ・認定切れ（暫定）を防ぐ調査実施・提出 | | | | | | 提供数：月30件 調査数 29件 | | 平均24.1件 認定調査平均4 名 区分変更もあり 調査数が増えて いる。 | |
| | ・更新調査・区分変更 調査 | | | 要支援者・要介護者 ・家族 | | | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | |
| 開所日数 | 20 | 19 | 22 | 20 | 21 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 242 | 100.0% | 242日 | |
| 利用定員 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | — | — | — | |
| 事業対象者（延） | 18 | 18 | 18 | 18 | 17 | 15 | 15 | 13 | 12 | 11 | 11 | 11 | 177 | 98.3% | 180人 | |
| 要支援（延） | 7 | 8 | 7 | 8 | 8 | 8 | 12 | 9 | 11 | 13 | 10 | 12 | 113 | 62.8% | 180人 | |
| 要介護1・2（延） | 39 | 30 | 43 | 44 | 38 | 40 | 40 | 44 | 40 | 39 | 34 | 36 | 467 | 70.8% | 660人 | |
| 要介護3・4・5（延） | 15 | 22 | 19 | 19 | 19 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 17 | 14 | 225 | 125.0% | 180人 | |
| 合計 | 79 | 78 | 87 | 89 | 82 | 83 | 87 | 86 | 83 | 83 | 72 | 73 | 982 | 81.8% | 1,200人 | |
| 認定調査 | 5 | 1 | 5 | 2 | 4 | 5 | 5 | 7 | 5 | 3 | 4 | 4 | 50 | 172.4% | 29人 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 事業所内職員研修 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | |
| 外部研修 | ○ | ◎1 | ◎3 | ◎1 | ◎1 | ◎1 | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | × | × | × | × | |
| 【総合評価】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・効率性 業務分担や時間の調整を行いながらできるだけ新規利用も受け入れるようにしていたが、年度後半より入院や施設入所、死亡など中止者が増え全体として利用者減少。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・有効性 研修や、民生委員との情報共有などに参加し、理解を求め、情報提供しやすい関係づくりも出来ている。利用のない方の更新申請時の認定調査等も行うことができた。地域の支援を希望する方が多く、各事業所と調整しながら、情報を共有して住み慣れた地域で過ごせるように対応している。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・インパクト | | | | | | | | | | | | | | | | |

事業対象者の利用の受け入れをしてから、新規申請が必要なケースが増えている。緊急で利用ではなく今後を見据えての確認が重要であると思います。一度でよい事務処理が2重になっていることが多い。ご本人の意向や介護者の気持ちに寄り添い、必要な支援を提案して介護負担を軽減しながら支援の提案を行い、地域のインフォーマルサービスは重要な支援になるので情報提供や提案をしていく。

・妥当性

体調や能力等も見極めて、地域以外の事業所をお願いすることも、支援方法の勉強にもなり、地域内の事業所にとっても良いと思う。利用者やご家族のニーズに合わせて支援の提供を検討しできるだけ地域で暮らせるように提案してきたが冬の期間は地域外の老健等の入所になっている。

・持続性

令和4年度退職者の後任について依頼をしながら、引継ぎがスムーズに支援が出来るように、新規を他の職員が対応し、変更後すぐに変更対応できるように、事務処理を優先にして現状の利用者の対応がしっかりできるようにした。地域での居宅介護事業所や包括支援センターとの連携で利用者の受け入れが必要な時期に対応できるようにしていく。

| | | |
|---|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ○職員体制（運営規程） ・管理者 1名 ・介護支援専門員 2名以上 | ○職員体制（現行） ・管理者 1名 ・介護支援専門員 2名 | ○配置車両： トヨタヴィッツ 1台 スズキアルト 1台 |
|---|-------------------------------------|-----------------------------------|

<在宅福祉係 高齢者生活福祉センター>

Ⅱ. 事業目標

- ・ 自立生活の助長、介護支援機能、居住機能の充実を図る。
- ・ 入所者が安心して健康で明るい生活を送ることが出来るように支援する。
- ・ 入所希望者が平等に施設を利用できるよう施設運営を実施する。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|--------------------------------------|-------|---|---|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①居住における援助 | ・ 食事援助 ・ 身体機能維持 ・ 在宅での生活を目的として | 居住入居者 | ・ 栄養バランスの摂れた食事を提供し健康維持に努める。 ・ 施設が併設されていることからデイサービス利用を通じてレク、機能訓練を積極的に行い、身体機能維持に努める。 ・ 住み慣れた地域で生活が送れるように日常生活において、自分でできることは積極的に行う。また、必要に応じて入所者の話し相手となり精神的支えになるよう努める。 | 1日3食バランスの摂れた食事。 週2～3回デイサービス利用 週1回相談支援 | 援助員による手作りの食事を提供。体調不良時は積極的にデイサービス利用。精神的に不穏状態が見られる入居者さんが増えている精神的サポート寄り添う支援必要。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|----|----|----|----|----|--|-----|-----|----|----|----|-------------------------------|--------|--|--|
| ②施設運営管理 | ・運営基準の再確認 情報収集 | | | 職員 | | | ・入所期間については、最長1年間と定めており、入所希望及び緊急時においても対応できるよう体制を整える。ただし、入所者の状態及び状況等を判断して期間延長の対応も考慮しながら運営する。 | | | | | | 常時満床となるように調整 | | 長期入所が課題となっているが、体調不良に伴う入院やADL低下に伴い他施設へ入所するなど入所者さんの入れ替わりがあった多くあった。 | |
| ③資質向上 | ・内部研修 | | | 職員 | | | ・接遇、プライバシー保護、認知症ケア食中毒、感染症、ヒヤリハット、虐待調理実習など研修会、講習など積極的に参加 | | | | | | 外部研修 4回 内部研修 7回 個別研修 5回 | | 9月以降、日々業務に追われ研修を実施することができなかった。 | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | |
| 開所日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 29 | 29 | 28 | 31 | 361 | 100.6% | 359日 | |
| 利用定員 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | — | — | 120人 | |
| 事業対象者(延) | | | | | | | | | | | | | | | 人 | |
| 要支援(延) | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 36 | 150.0% | 24人 | |
| 要介護1・2(延) | 6 | 6 | 6 | 7 | 7 | 6 | 7 | 7 | 7 | 8 | 6 | 6 | 79 | 82.3% | 96人 | |
| 要介護3・4・5(延) | | | | | | | | | | | | | | | 人 | |
| 合計 | 9 | 9 | 9 | 10 | 10 | 9 | 10 | 10 | 10 | 11 | 9 | 9 | 115 | 95.8% | 120人 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 事業所内研修 | × | ○ | ◎ | ○ | × | ○ | × | | × | | × | × | | | | |
| 個別研修 | | × | ○ | ◎ | ○ | × | | × | | × | | × | | | | |
| 【総合評価】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・効率性 援助員の日々の支援により入居者さんを観察しながら生活をサポート、身体的及び精神的に状態が悪化する事案が見られ長期入所している方が入院や施設入所に移行するなど新規入居者が増加した。 ・有効性 在宅での生活が身体的及び精神的に困難となり入所されるケースから、居住における支援により栄養状態等が良好になり身体的・精神的に良好となるケースも見られるが、一方で入所の長期化が重なりサポート体制が課題。 ・インパクト 栄養バランスやデイ利用による身体機能の維持向上が図られ、社会的な孤独、孤立の解消につながっているが、居住生活のマンネリ化も見られ、自立生活への助長が課題である。 ・妥当性 所得に応じて安価な金額で入所できる生活支援ハウスであり、経済的負担が軽く抑えられているため入居希望者が増加している。 ・持続性 入所の長期化を回避し、在宅での生活と施設での一定期間の生活を営みながら、入所者の自立支援に向けた取り組みが課題である。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|--|----------|
| ○職員体制（運営規程） ・生活援助員（常勤） 1名 ・生活援助員（非常勤）1名 ・夜間帯については宿直体制をとるものとする。 | ○職員体制（現行） ・生活援助員（常勤） 2名 ・生活援助員（非常勤）1名 ・宿直員 2名 | ○配置車両：なし |
|---|--|----------|

【清寿荘】

〈入所支援係〉

II 事業方針

地域包括ケアシステムを意識し事業活動に取り組み、感染症や災害への対応力強化に努める。

（＊地域包括ケアシステム：地域に住む高齢者がその地域で自分らしい生活を最期まで持続していくために「介護」「医療」「住まい」「生活支援」の提供）

III 事業目標

- （1）利用者の尊厳の保持と個別支援（個別プログラムへ取り組み）の充実
- （2）安全安心の施設運営に取り組む
- （3）感染症や災害への対応力強化に努める
- （4）職員の資質向上（専門性の向上）
- （5）安定した施設経営に努める

IV. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|-----------|-------------------|--|--|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| 生活相談 | 入所者のニーズ把握 | 入所者 (要介護者・自立者) | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者の思いに寄り添いながら傾聴する。 ・相談しやすい環境に配慮しながら、傾聴しニーズ把握を行う ・定期相談、満足度調査、嗜好調査等を実施し入所者の思い・要望を把握、支援につなげる ・日常での会話を重視し、日常生活動作で困っている事や取り組んでみたい活動の把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・満足度調査 年1回 ・嗜好調査 年1回 (1月) | <ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査を実施し、日常、活動中の観察及び随時相談を受ける等して入所者の状況把握に努めた。その内容について・毎朝・夕のミーティングで情報共有をした。 |
| | 家族との交流促進 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族との交流の場（関わりを持つ機会）の設定・発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・清寿荘だより 年4回 | <ul style="list-style-type: none"> ・清寿荘だよりの発行ができなかった。 ・リモートでの面会 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|-------------------|------|--|---|--|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・リモート面会や感染症対策を徹底しての短時間での計画的な面会 ・清寿荘だよりにて情報発信・年賀状の送付 ・定期的に通信手段（電話・メール等）を活用して関わりをもつ | <ul style="list-style-type: none"> ・リモート面会 ・身元引受け人全員への年賀状送付 | <ul style="list-style-type: none"> ・はななかったが、感染症対策を徹底した。 ・短時間での面会にて対応している。 |
| | 介護サービス導入・施設行移行の検討 | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人、親族、関係機関と連携し今の状態に合わせた介護サービスの利用や適切な施設入所の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・随時処遇会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者の状態に合わせた介護サービスを利用しながら荘での生活を維持している。介護度の高い方については特養等の施設への移設を進めている。 |
| 生活支援 | 入所者の尊厳の保持と個別支援 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者の個別的な理解（基本情報の振り返り、アセスメント） ・プライバシーの保護 ・自己決定への支援（自己選択と自己決定の原則） ・満足度や生きがい等の精神面を重視したQOLの向上 ・処遇会議の開催（随時） ・入所者のストレンクス（強み）に目を向け個々にあったできる事（自立）を増やしていく | <ul style="list-style-type: none"> ・処遇会議の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・新規入所時や必要に応じて支援調整会議を実施している。 ・入所者の状況把握・理解を深め支援の充実を図る方針を検討している。 |
| | | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> ・エンパワーメントの機会を増やしながらい入所者の自己選択と自己決定の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・選択食や菓子販売等、自分で選択する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者が自己選択、自己決定を尊重し支援し、必要な場合は適切な助言をしている。 |
| | | 自立者 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な自己選択、自己決定への支援・個別支援の充実を図りながら生活面で自立できる部分を増やす | <ul style="list-style-type: none"> ・選択食や菓子販売等、自分で選択する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己選択及び自己決定を尊重し、各入所者の可能な限り活動に取り組んでいただ |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|---------------|------|--|---|--|
| | | | | き自立へと繋げている。 | |
| | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束廃止研修会参加、参加後伝達研修 ・虐待防止研修会参加、参加後伝達研修 ・精神科との情報交換・共有 ・精神科認定看護師による助言（来荘による状況把握） | <ul style="list-style-type: none"> ・リモート研修会参加：1回 ・内部研修（伝達研修含む）1回 ・随時 ・月1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束等の適正化を図る為の指針及び虐待防止対応の指針を策定し、適宜委員会を開催した。研修会は、出来なかった。 |
| | 運動機能の向上・認知症予防 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動への参加（書道・創作・レクカフェクラブ随時） ・介護予防体操・レク等を行い機能低下を防ぐ ・小グループ活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・書道：毎週1回 ・創作：随時 ・レク：随時 ・カフェ：随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動は定期的に活動を実施できているが、レク等は職員体制等で安全が確保できる内容が工夫できず実施できていない。 |
| | | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> ・PT訓練へ積極的に参加、適切な福祉サービスを利用し残存機能の低下を防ぐ（PT訓練月1回） | <ul style="list-style-type: none"> ・PT訓練：月1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のPT指導日による指導を基に各々のプログラムに意欲的に取り組んでいる。 |
| | | 自立者 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種行事等に積極的に参加し、残存機能の保持に努める。 ・施設内の清掃や洗濯たたみ等、役割を担う ・散歩や花づくり等に参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・清掃、作業活動への参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の入所者の自己決定・自己選択を尊重し可能な活動に取り組んでいただき自立へ繋げている。 ・利用者が役割を持ち責任を持って取り組む場を設けている。 ・散歩は、各自で荘 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------------|-------------|------|---|---|---|
| | | | | | 内しまたは、荘周辺で行っている。 |
| | 入所者主体の自治会運営 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者の意見を反映させた総会、役員会の運営（総会5月） ・定期的な自治会役員会実施 ・自治会費の集金と適切な使途 | <ul style="list-style-type: none"> ・総会（5月） ・役員会（年3回） | <ul style="list-style-type: none"> ・5月に総会、役員会を開催し自治会の活動内容について確認している。 |
| 健康管理 (事故防止含む) | 体調管理 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の体調確認 ・嘱託医の定期診察 ・嘱託医、他の医療機関、関係機関との連携協力、情報共有 ・健康についての相談（健康不安の解消） ・チームアプローチによる体調異常の早期発見、対応 ・定期的な通院による病状悪化防止 ・精神科との情報交換・共有 ・精神科認定看護師による助言（来荘による状況把握） | <ul style="list-style-type: none"> ・検温：1日2回 ・月2回 ・健康相談 随時 ・随時 ・月1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医の診察時で報告した。 ・毎月の認定看護師による助言を頂き精神疾患患者への対応統一や支援へ繋げている。 ・職員の対応等についてもアドバイスを頂いている。 |
| | 事故防止 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止対策委員会の開催と事故発生時の分析・再発防止対策 ・心肺蘇生法、ADL講習の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員会：毎月 ・年2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月委員会を開催し事故分析をして再発防止策を検討し改善に努めている。 |
| 栄養管理 | 安心・安全な食事提供 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に応じ食事形態を変更し安全な食事を提供する。 ・バイキング食や選択食等の実施により自己選択し『食』を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイキング食 年2回 ・選択食：毎月 | <ul style="list-style-type: none"> ・補助食品も含め安全な食事提供ができています。 ・自身で選択することができています。 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|-------|------|---|--|---|
| | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者に喜ばれ、衛生管理を徹底した安心、安全な食事の提供 ・嗜好調査の実施により、結果を食事メニューへ反映 ・給食委員会の開催 ・嗜好調査の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員会：毎月 ・調査：年1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な食事の提供を意識し、食の要望を献立に反映させる。 |
| 感染症対策 | 感染症対策 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の検温 ・感染症対策の徹底（常時マスク着用・手洗い・うがい・消毒） ・ソーシャルディスタンスを保った活動 ・各居室の換気、加湿 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の検温（1日：2回） | <ul style="list-style-type: none"> ・検温・感染対策も定着している。 ・室温・湿度の計測を実施し把握し、状況に応じて対応している。 ・コロナ感染時には、更にこまめなバイタルチェックを実施。 |
| | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・検温の実施と報告 ・休日等の市外外出、帰省家族等の報告 ・感染症対策の徹底（換気、消毒、マスク着用等） ・衛生用品の在庫確認、補充 ・感染症対策マニュアルの見直し、作成 ・感染症発生時の速やかな感染症対策予防委員会の開催（随時） ・感染症対策の勉強会実施、研修会参加（随時） ・感染症が発生時の訓練（シュミレーション）の実施 ・事業継続計画（BCP）の作成準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の検温（1日：2回） ・感染症対策委員会の開催（随時） ・感染症研修会参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・スマートホンでの検温・外出等の報告も定着している。 ・ほぼ毎日開催し情報を共有し、感染対策等を確認している。 ・感染対策委員会341回開催 ・荘内でコロナ感染時には、県保健所に指導を仰ぎ、さらなる感染拡大を防いだ。 ・感染症対策に関する研修会に参加。（クラスター発生した施設実例研修参 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|-----------|------|--|---|---|
| | | | | | 加) |
| 安全管理 | 施設設備点検・修繕 | | <ul style="list-style-type: none"> 施設設備の定期的な保守点検の実施 入所者に安心して生活していただくための改善、計画的な修繕 | <ul style="list-style-type: none"> 業者による点検：随時 | <ul style="list-style-type: none"> 業者による定期点検を実施している。 日常生活に支障が出ないように修繕を行っている。 |
| 災害対策 | 避難訓練 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> 自衛消防訓練の参加 | <ul style="list-style-type: none"> 年4回 | <ul style="list-style-type: none"> 火災・土砂災害想定避難訓練を実施。 |
| | 避難訓練 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> 自衛消防訓練の実施（地域の方にも参加いただく） 非常招集訓練 消防設備の確認（配電盤等） | <ul style="list-style-type: none"> 年4回 年1回 年1回 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の方の参加はコロナ禍により見合わせている。 非常招集通報訓練・火災・土砂災害想定訓練を実施。 |
| | 防災設備点検等 | | <ul style="list-style-type: none"> 備蓄品の点検（確保） 定期的な防災設備の点検 総合防災点検 | <ul style="list-style-type: none"> 年2回 毎月 年2回 | <ul style="list-style-type: none"> 月に1回実施。 |
| | 委員会等 | | <ul style="list-style-type: none"> 防災対策委員会の開催 事業継続計画（BCP）の作成準備 | <ul style="list-style-type: none"> 委員会2回 事業継続計画の作成 | <ul style="list-style-type: none"> 委員会は実施できていない |
| イベント | 敬老祝賀会 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> 来賓等（少数）を招待しての祝賀会 リモートで小学生に出演していただく（感染症が無ければ直接の出演） * 感染症対策を徹底した上で開催 | <ul style="list-style-type: none"> 9月第2水曜日開催 | <ul style="list-style-type: none"> 来賓、参加者を少数とし実施している。 リモートではなく動画を撮影していただき会場にて視聴する形で参加いただいた。 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|------------------------|---------|--|---|---|
| | イベント (夏まつり会・ふれあい祭り) | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所者の意見を企画に反映し、準備段階から主体的に関わっていただく(感染症を鑑み内部開催) ・夏まつり会 ・ふれあいまつり * 感染症対策を徹底した上で開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・8月第1週の土曜日 ・11月第1週の土曜日 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族等外部からの参加をせず荘内のみでの開催。 ・共同作品や個々の作品作り・飾り付け・当日の屋台販売員等入所者に主体的に関わっていただき開催している。 |
| 金銭・公的証書の管理 | 預貯金(小遣い)等の管理 | 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・金銭取扱要領に基づき、通帳、印鑑の管理 ・定例預貯金払い出し、その他、必要に応じて払い出し ・日々の預かり金の管理 ・預かり金出納簿の作成 ・保険証等の保管 ・費用徴収事務 ・自治会費の集金 ・収支のバランスを考慮しての金銭管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期払い出し 月1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・金銭取扱要領に基づき安全に考慮し通帳・印鑑の管理を行っている。 ・毎月定例払い出しを実施、その他必要に応じて払い出しを行っている。 ・日常の預かり金の管理をしている。 ・月ごとの預かり金出納簿を作成している。 ・毎月、定例払い出し時に費用徴収・自治会費の集金をしている。 ・収支のバランスを考慮した金銭管理を実施。 |
| 地域とのつながり | 地域懇談会 | 地域の方・職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の主要な方々に参加いただき、地域懇談会を開催する。 * 感染症対策を徹底した上で開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・年1回実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・開催を検討し調整するもコロナ禍の状況下でできなかった。 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------|------|---|--|---|--|
| | 地域交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 入所者 ・ 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で行なわれる活動へ参加（職員派遣） ・ 小学生等とリモートでの交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時派遣 ・ 年2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度初めに小学校・中学校を訪問し地域交流等についての打ち合わせ会を実施。敬老祝賀会で津軽石小学校児童の映像発表で交流している。 ・ 中学校とは、宝くじ大会で、映像での交流をしている。 |
| 地域貢献 | 地域貢献 | 入所者・職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献活動の実施（入所者と共に荘周辺や地域のゴミ拾い清掃活動の実施） ・ 地域で行なわれる活動へ参加（職員派遣） ・ 入所者に限らず、地域で暮らす高齢者等も対象とした相談支援の充実。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でのごみ拾い等（年2回） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症予防の観点から地域へ出向いての活動は実施していない。 |
| 安定した施設経営 | 施設経営 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 収入と支出等を意識した計画的な消耗品、備品の購入 ・ 各種支援金、交付金の活用（コロナ感染症に係る衛生用品等） ・ 定員50人の維持（退所後は迅速に新規入所に取り組む） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定員50人の維持 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 経費削減を意識し、ペーパーレス及び電気代等の節約に取り組んでいる。 ・ 空床がでないように退所を見越した新規の調整を実施。（新規入所：6名退所：5名） |
| 研修 | 研修 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各専門分野におけるリモート研修会への参加 ・ ソーシャルワーク研修会（ソーシャルワークスキル向上、専門的支援機能の強化） ・ ICTへの取り組みと展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会年：5回（随時） | <ul style="list-style-type: none"> ・ リモートでの研修参加（感染症・口腔ケア関係・身体拘束等の適正化・虐待防止対応等） |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | | | 活動対象 | | | 活動項目への取り組み | | | | | | 評価 | | |
|--|--------|-------|----|-------|----|----|--|-----|-----|----|----|----|-------|-------|----------------------------|
| 専門性 | 効率的な事務 | | | 職員 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な支援を行えるよう、事務とデータ処理に取り組む。 ・ICT（情報通信技術）を活用しての連携 | | | | | | ・随時 | | ・システムを活用し、日々の支援状況等の記録している。 |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 入所定員 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 49 | 50 | 50 | 50 | 48 | 50 | 597 | 99.5% | 600人 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 夏祭り会 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | |
| 敬老会 | | | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| ふれあい祭り | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 健康診断（入所者） | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | |
| ワックス清掃・窓・外壁清掃 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 全館防除 | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | |
| 自衛消防訓練・避難訓練 | | ◎通報訓練 | | ◎避難訓練 | | × | × | × | | | | | ◎避難訓練 | | ◎土砂災害避難訓練 |
| 研修会（リモート含む） | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | × |
| 【総合評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性 感染対策を講じながら日々の生活・行事等概ね事業計画通り進められたが段取り等に遅れが目立ち、開催時期が延期になったものもあった。新型コロナウイルス感染症に入所者の感染が12名職員6名あった。入所者が感染してから6日目に県保健所から指導を頂き、3週間程度で通常生活に戻ることが出来た。 ・ 有効性 今年度は、新規入所者6名、退所者5名あった。又、入所施設で新型コロナウイルス感染クラスターの発生の為、退所者と入所者の繋がりがうまくいわず空床のある時期もあった。空床により収入減につながることから、退所者が出た場合は速やかに関係機関と連携しながら計画的に新規入所に取組んでいきたい。また、指定管理委託料の事務費が改訂となり収入増となったが、安定した施設経営までには至っていない。その一方で「空床をつくらない」という経営に対する理解は職員間では深まってきている。 ・ インパクト 地域・施設生活全般でwithコロナを意識しながら、イベントの開催を実施し通常の生活に近づけるように更に取り組んでいきたい。来年度は、多様な緊急時に備えたBPC計画及びマニュアルの作成・見直しを進めていく。 ・ 妥当性 日常生活の中で個々の入所者のニーズ把握に努めているが、対応できなかった場面もあり今後職員間の情報共有を確実にを行い状況に応じ対応でき | | | | | | | | | | | | | | | |

るように取り組んでいく。また、日常の生活の中での活動の観察、相談内容及び嗜好調査等の実施により、更にニーズの把握に努めQOLを高めながら安全・安心な生活に繋げていく。

・持続性

イベントについては、昨年度と同様に規模を縮小して開催し、小学校との交流も行事の中に組み入れ地域とのつながりを持つことができた。更に入所者の自立へ向けての支援となるように今後も持続性を高めながら地域とのつながりを意識し工夫した取り組みを実行していく。また、職員体制の整備、職員の資質向上を目指し、経営の安定化につなげることができるように努めていきたい。

| | | |
|--|--|---|
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長 1名 ・主任生活相談員 1名 ・生活相談員 1名以上 ・主任支援員 1名 ・支援員 7名以上 ・看護職員 2名以上 ・栄養士 1名 ・調理員 6名以上 ・事務員 1名 | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長 1名 ・副主幹 1名 ・係長兼看護師 1名 ・主査兼生活相談員 1名 ・主査兼支援員 1名 ・生活相談員 2名 ・看護職員 1名 ・支援員兼介護福祉士 7名 ・支援員 1名 ・夜間支援員 2名 ・介助員 1名 ・管理栄養士 1名 ・調理員 6名 ・事務員 1名 | <p>○配置車両：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トヨタノア 1台 |
|--|--|---|

〈清寿荘ショートステイ〉

II. 事業目標

- 1) 利用者個々のニーズ及び家族の意向を反映した個別計画書に基づくサービス提供
- 2) 状況に応じた感染症予防対策を講じ、継続して安定したサービスの提供
- 3) 現状に即した各種マニュアル整備による事業推進力向上
- 4) 安定した経営を意識した事業実施
- 5) 職員の資質向上

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|------|------|------------|-----|------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| | | | | | |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|--|--|------|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 基本サービス 生活機能維持向上プログラムの充実 | <ul style="list-style-type: none"> 健康チェック 運動機能向上、認知症予防、生活機能維持向上プログラムの実施 感染対策の徹底 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> 医務を中心とし、バイタル測定や状態観察により健康状態を確認と服薬管理。 個々の状態に合わせた日常生活動作維持機能向上プログラムの実施。 コロナ禍を踏まえての荘内行事等を通じ、活動参加。 ご利用前においての利用者及び家族の健康状態等の把握確認とマスク着用や手指消毒等の基本感染対策の徹底実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 2名、1回/日 2名、1回/日 1回2名/年数回 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 医務を中心に状態観察を行い健康状態の確認、服薬管理できている。 個別のプログラムを作成し実施している。 荘内行事等への参加促し活動へ参加できている。 ご利用前に健康状態の確認を行い消毒等基本的感染対策も実施している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 虐待高齢者等の緊急保護対応 機能訓練 | <ul style="list-style-type: none"> 生活相談等 行政等と連携し虐待高齢者の保護 個別機能訓練 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者及びその家族等の介護に関する相談対応や、サービス利用に係る調整手続き等対応。 行政等と連携し虐待高齢者の保護 利用者の身体状況、機能状態に合わせた個別の機能プログラムを作成。その実施状況及び目標達成状況の評価を行い、次月取組内容へ反映。(随時、PT指導) | <ul style="list-style-type: none"> 随時 随時 1/3M評価及び状況により随時作成 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者、家族からの相談へ対応できている。 虐待高齢者の保護相談なし。 個別のプログラム作成し支援している。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 運動機能向上 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝のラジオ体操や日中活動レクや荘内行事等への参加 | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝、年数回 | <ul style="list-style-type: none"> 日課として毎朝のラジオ体操行っている。 日中活動レクは実施出来ていないが、荘内行事へは参加されている。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 認知症予防 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> 手先を使う創作活動、脳トレドリル等の提供、実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 2名、1回/日 | <ul style="list-style-type: none"> ぬり絵や脳トレドリル等提供できている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 送迎サービス | <ul style="list-style-type: none"> 事業所車両での送迎 | 利用者 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の身体状況及び家族都合に合わせ | <ul style="list-style-type: none"> 随時 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態等確 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 |
|----------|-------------|------|---|---|
| | | | た、利用者、家族に負担とならない車両形態、時間帯での対応。 | 認し状態に応じて対応へ配慮し安全に送迎できている。 |
| ・入浴サービス | ・入浴介助 | 利用者 | ・利用者の自尊心に配慮し個々の身体状況と趣向に合わせた入浴、清拭着替えを行い清潔保持と心身のリフレッシュ。 | ・2名、1回/日 利用者個々の状態に合わせた入浴できている。 |
| ・給食サービス | ・食事の提供、食事介助 | 利用者 | ・利用者個々の嗜好、食制・食禁、アレルギー有無等把握のうえ、それに沿った食事の提供。 ・身体状況に応じた介助器具や直接介助の提供。 ・嗜好調査の実施 | ・2名、1回/日 ・年1回 ・個々の嗜好等に応じた食事を提供できている。 ・身体状況に合わせ福祉用具を使用し提供している。 |
| ・地域との連携 | ・避難訓練 | 利用者 | ・コロナ禍を踏まえ、地域住民と荘合同の避難訓練等への参加 | ・1回2名/年数回 ・地域住民との合同訓練へは参加できていない。 |
| ・感染症対策 | ・感染症対策 | ・利用者 | ・日々の検温 ・感染症対策の徹底 (常時マスク着用・手洗い・うがい・消毒) ・ソーシャルディスタンスを保った活動 ・各居室の換気、加湿、消毒。 | ・毎日の検温 (1日：2回) ・随時 ・日々の検温実施しており感染症対策(消毒、マスクの着用、各部屋の換気等)に取り組んでいる。 ・日頃からソーシャルディスタンスを保った活動行っておりイベントでも実施している。 |
| ・職員の資質向上 | ・職員の資質向上 | ・職員 | ・関連分野の研修会等へ参加と、伝達研修の実施。 ・満足度調査の実施(年1回) ・満足度調査結果を踏まえ、併せて職員個々で自己評価を実施。 ・他関連施設の事業内容等情報収集。 | ・年4回 ・年1回 ・年1回 ・年1回 ・動画配信を参考とした研修を実施している。 ・満足度調査は実施できなかった。 ・他関連施設の事業内容等情報収集 |

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | | | 活動対象 | | | 活動項目への取り組み | | | | | | 評価 | | | | | |
|--------------|------|----|----|------|----|----|--|-----|-----|----|----|----|---|-------|-------|---|--|--|
| ・安定した経営 | ・経営 | | | ・職員 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・収入と支出等を意識した計画的な消耗品、備品の購入 ・常に満床（2床）利用 ・急なキャンセル時、関係機関と連携、調整し利用につなげる | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・常に満床 | | | できていない。 ・空床を減らすよう意識し取り組んでいる。急なキャンセル時等、関係機関と連携、調整し利用に繋げている。 | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | | |
| 開所日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 14 | 28 | 31 | 348 | 95.3% | 365日 | | | |
| 利用(延べ)定員 | 55 | 56 | 55 | 53 | 48 | 52 | 55 | 53 | 42 | 42 | 25 | 37 | 573 | 79.6% | 720人 | | | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | | |
| 個別サービス計画 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 個別サービスモニタリング | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 個別機能訓練計画 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 個別機能訓練モニタリング | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 伝達研修 | | | | | | | ◎ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | |

【総合評価】

- ・効率性
「常に満床」を意識し目標値に近づけるように調整したが、昨年より実績減少となった。利用者の体調不良、急なキャンセル等があり実人員も横ばい状態である。来年度は、更に関係機関との連携を密にして新規利用者獲得を目指す。
- ・有効性
入所で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により、ショートでは14日間2床が空床であった。施設全体で今まで通りの感染対策を継続させ、アセスメントを基に安心・安全なサービス提供を基本とし、身体的機能維持及び個々の利用者の身体状況に合わせた介護機器等を提供していきたい。
- ・インパクト
職員各々が新生活様式を理解し、利用者のニーズに対応できるように研修会への参加、または計画的に取り組む必要がある。来年度は、多様な緊急時に備えたBPC計画及びマニュアルの作成・見直しを進めていく。

| | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・妥当性 感染症対策等により、活動提供内容及び選択肢が狭まる中、個々のニーズに対応した活動提供が少なかったため、可能な限りニーズに対応した活動を工夫し提供していきたい。 ・持続性 安定した施設運営を念頭に2床の稼働率を維持できるように利用者家族、関係機関との連携した取り組みを継続していく。 | | |
| ○職員体制（ 運営規程 ） <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・医師 1名以上 ・生活相談員 1名以上 ・看護師等 1名以上 （機能訓練指導員と兼務） ・介護職員 1名以上 ・栄養士 1名以上 ・機能訓練指導員 1名以上 （看護師と兼務） ・調理員 1名以上 ・事務職員 1名 | ○職員体制（ 現行 ） <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・医師 1名 ・生活相談員 1名 ・看護師等 1名 （機能訓練指導員と兼務） ・介護職員 12名 ・管理栄養士 1名 ・機能訓練指導員 1名 （看護師と兼務） | ○配置車両： <ul style="list-style-type: none"> ・1台（シエンタ車） |

〈清寿荘デイサービスセンター〉

Ⅱ. 事業方針

住み慣れた地域で利用者の尊厳を保持しつつ、その能力に応じた自立支援と地域包括ケアシステムを意識し事業に取り組む。

Ⅲ. 事業目標

- ・総合事業対象者や要介護者の介護予防に努め、科学的な評価を通してサービスの質の向上や重度化予防に努める
- ・認知症利用者等への個別支援の充実に努める
- ・感染症や災害への対応力強化を図り、必要な介護サービスが安定的・継続的に提供できるように取り組む。
- ・安定した経営に努める

Ⅳ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|--------|-------|--|---|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①基本サービス | 健康チェック | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイタル測定、健康状態の把握 ・不調時、緊急時の早期対応 ・服薬管理の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回 ・随時 ・毎回 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用時は毎回バイタル測定を実施し、不調や緊急時は家族や |

| | | | | | |
|------|------|--|--|--|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 健康相談への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 随時 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と相談し対応している。 |
| | 送迎介助 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> 身体状況や自宅周辺の環境に合わせた配車や対応の工夫を行う 身体状況等に応じた適切な乗降介助を行い、安全な動作支援につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 送迎及び身体アセスメントを行い、個々の状況に応じた車両の調整や支援を行い、安全な送迎が出来る。 |
| | 機能訓練 | 利用者共通 個別機能訓練対象者 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の体操や機能訓練により身体機能維持向上につなげる。 定期的に運動クラブを実施し、機能維持向上につなげる。 定期的に運動会等身体機能向上のための企画を行い、身体機能維持向上につなげる。 希望者への個別機能訓練の実施 月1回理学療法士から身体機能の評価を受け、指示のもと機能訓練メニューを立案する。 個別機能訓練計画書の作成・評価（通所介護計画書との連動）。LIFEへのデータ提出を通してフィードバックを次の支援に活かす。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 月2回以上 年3回以上 随時 PT訓練 月1回 3ヶ月に1回 | <ul style="list-style-type: none"> 個別機能訓練希望者が増え、多くの利用者が機能訓練を実施している。 月1回のPT訓練日にPTより指導や助言を受け、機能訓練指導員を中心に個別機能訓練の実施をしている。 個別機能訓練について、通所介護計画書と連動させるとともに、LIFEの活用により計画・評価につなげることが出来る。 |
| | 入浴 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> 入浴アセスメントをもとに利用者個々に合わせた入浴支援の提供（入浴方法、入浴時間・湯温など） | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 入浴動作を把握し、個々に合わせた入浴提供を実施している。 |
| 自立者 | | <ul style="list-style-type: none"> 自立した入浴が継続できるよう環境の整備を行う。 見守り支援のもと、出来る部分を継続することで自立支援が継続できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 自立支援を意識し、利用者に合わせて出来ること、できないことを見極め支援している。 | |
| 要介護者 | | <ul style="list-style-type: none"> 適切な介助を受け、安全な入浴の機械を確保し、清潔保持につなげる。 見守り及び必要時の支援のもと残存機能へ | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 介護度等利用者に応じた支援を行い、残存機能への働きかけをし | |

| | | | | | |
|---------|--------|--|---|--------|--|
| | | | の働きかけを行い、入浴動作の自立支援につなげる。 | | ている。 ・機械浴の空きがなく一般浴で対応せざるを得ない要介護者の対応が課題となっており、福祉用具の整備が必要。 |
| | 中重度利用者 | | ・安全で利用者に負担の少ない入浴が出来るよう、身体機能状況に合わせて機械浴を実施。 | ・随時希望者 | ・特殊浴槽にて負担の少ない安全な入浴提供を実施している。 ・残存機能を活かし、介助方法を工夫している。 |
| 排泄 | 利用者共通 | | ・利用者個々に適した排泄介助を行い、自力での排泄を可能にし、気持ちよく日常生活を送れることが出来るよう支援する。 | ・毎回 | ・排泄動作を把握し個々の状態に合わせ支援している。 |
| | 自立者 | | ・排泄状況に変化がないか把握し、排泄動作の自立を継続的に支援する | ・毎回 | ・見守りを行い、排泄状況の把握をしている。 |
| | 要介護者 | | ・排泄動作が自立できるよう、排泄状況の把握を行い、リハビリパンツ等の介護用品の適切な使用の促しをする。 ・誘導や確認の必要な方については、排泄チェック表を活用する。 ・身体状況に応じてオムツ交換の実施。自尊心に配慮した対応を行い、清潔保持につなげる。 | ・毎回 | ・アセスメントを踏まえ、利用者に適した介護用品の促しや、利用者に合わせた排泄支援(定期誘導やオムツ交換等)を行っている。 |
| 歩行・移動支援 | 利用者共通 | | ・個々の利用者の身体状況に合わせて安全な歩行介助を行う。 | ・毎回 | ・歩行や移乗動作を把握し、個々の状態に合わせた福祉用具の選択や支援を実施している。 |
| | 自立者 | | ・歩行状態に変化がないか把握し、自立した歩行支援を行う。 | ・毎回 | ・声掛けや見守りを行い、歩行や移乗動作 |

| | | | | | |
|--|----------|-------|--|--|---|
| | | | | | の状況を把握している。 |
| | | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> 歩行状態に合わせて適切な福祉用具の選択を行い、安全な移動支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の歩行や移乗動作を把握し、状態に合わせて介助が必要な利用者の支援・対応を行っている。 PTへ移動手段の相談を行い、安全な移動手段の検討を進めることができています。 |
| | 食事 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> 栄養士と連携し、疾患、身体状況、好み、アレルギー等による禁止食材等アセスメントを行い、利用者に合わせた食事形態等の検討を行う。 必要に応じた介助用品を使用し、食事の自己摂取を支援する。 体調が思わしくない場合など、食事時間を変更し、利用者の生活リズムに合った食事の提供を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 必要時 毎回 必要時 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度STや栄養士より学んだことを活かし、正しいトロメリンの使用やお茶ゼリー等の活用をしている。 食事についてのモニタリングを実施し、利用者に合わせた食事形態の見直し等につなげている。 |
| | | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて食事介助を行い、美味しく安全な食事摂取を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 必要時 | <ul style="list-style-type: none"> 摂取時の動作を把握しながら、必要に応じて食事介助等の対応を行っている。 水分量の把握が必要な方はチェック表を活用し、適切な水分量の提供ができています。 |
| | 口腔機能向上支援 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> 食事前に口腔体操を実施し、嚥下機能を維持し安全な食事摂取につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎回 | <ul style="list-style-type: none"> 昼食前の口腔体操や食後の口腔ケアを行い、口腔機能維持向上につとめている。 |

| | | | | | |
|--|----------|-------------|---|--|--|
| | | 自立者 | <ul style="list-style-type: none"> ・食後の口腔ケアの声掛けや見守りを行い、口腔内を清潔に保つ | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に口腔ケアが行えるよう、見守りや声掛けを行っている。 |
| | | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> ・食後の口腔ケアの見守りや必要に応じて介助を行い、口腔内を清潔に保つ。 ・口腔マッサージや口腔スポンジ等を活用した口腔ケアを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回 | <ul style="list-style-type: none"> ・自宅での口腔ケアにもつながるように、自己にて口腔ケア行える方へは促しを行い、介助が必要な方へは職員が個別に口腔ケアの対応を行っている。 |
| | | 口腔機能向上加算算定者 | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能向上計画書の作成・評価（通所介護計画書との連動）。LIFEへのデータ提出を通してフィードバックを次の支援に活かす。 ・口腔ケアの実施や口腔ケアに関する指導を行う。 ・摂食・嚥下等の口腔機能に関する指導を行う。 ・音声、言語機能に関する指導を行う。 ・食事姿勢や食環境についての指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1回の計画及び評価 ・毎回 | <ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月ごとにアセスメント・計画・評価を行い、LIFEの活用も行っている。 ・家族や関係期間とも連携し、必要時歯科医院の情報も得ながら口腔維持のための取り組みを辞している。 |
| | 認知症ケア | 要介護者 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上に該当する対象者については、定期的なカンファレンス実施を行い、個別認知症ケアを実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・3ヵ月に1回カンファレンス ・対応は毎日実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度認知症加算の算定がなくなったが、認知症状がみられる方については、適時ミーティング内で対応について検討をしている。 ・家族や関係機関との連携を持ち、認知症利用者への適切な支援について考える機会を確保している。 |
| | 認知機能向上活動 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能に着目した活動に参加することで、考える機会を多く持ち、認知機能へ働きかけ | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動の中で認知機能に働きかける活 |

| | | | | | |
|----------|--------|-------|--|---|--|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学習クラブの実施を行い、考える機会を多く持ち、認知機能へ働きかける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・月2回以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・動内容の提供を行っている。 |
| 生活機能向上活動 | 利用者共通 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「衣・食・住」に関する活動を準備し、希望に応じて実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意向を確認しながら、希望に応じた活動提供をしている。 |
| | 自立者 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「衣」…手芸や編み物、縫物など手先を使った活動に挑戦する機会を支援 ・「食」…調理クラブ等の実施により、調理活動に挑戦する機会を支援 ・「住」…園芸活動や日常生活に関する活動に参加する機会を支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・月2回以上 ・4月～10月を目安に随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・「衣」の手芸は希望者には提供できるような活動準備を行ったが、個々のレベルに合わせた内容の検討までは至らなかった。 ・「食」の調理では、月2回の調理クラブを継続し、自宅での家事につなげることが出来ている。 ・「住」では、介護予防者中心に花植えを実施したが、継続的な取り組みはできなかった。 |
| | 要介護者 | | <ul style="list-style-type: none"> ・自立者と同じ活動に参加することで。刺激を受け、機能向上を目指す。 ・参加できる活動を見つけ参加することで、達成感を味わい楽しみや生きがいを感じるきっかけにつなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合事業など自立者の活動を見学することで、楽しみや生きがいのきっかけづくりをしている。 |
| | 延長サービス | 利用者共通 | | <ul style="list-style-type: none"> ・個別ニーズに応じてサービス提供時間を変更し、時間延長利用の提供。 ・延長時間に不安を抱かないような声掛けや、負担なく過ごせるような配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要時 |

| | | | | | |
|--------|--------|-------|---|--|--|
| | | | | | 方の検討が今後必要だと感じている。 |
| | 生活相談援助 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族のニーズに対し、状況に合わせたアドバイスや関係機関との連携を図る。 ・満足度調査を実施し、利用者、家族の意向の確認を行いサービスの質の向上につなげる ・デイ新聞等広報誌を活用し、デイでの活動風景や行事予定などを利用者、家族へ発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時 ・ 年1回 ・ 月1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳の活用や送迎時の家族とのコミュニケーションをとり、ケアの統一につなげている。 ・ 満足度調査を実施。8割を超える利用者から満足の声を頂いた。感染症対策のため、入所とデイのゾーニングを行ったことで、施設環境への要望の声が多数聞かれ、次年度の課題となる。 ・ デイ新聞を通して、利用者の活動風景や行事の様子などを家族や関係機関へ発信することが出来た。 |
| ②感染症対策 | 感染症対策 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用前、来所時、午睡後の検温と体調確認を行う。 ・ 感染症対策の徹底（マスク着用、手洗い、うがい、消毒） ・ ソーシャルディスタンスを保った活動支援。 ・ ホール内の換気の徹底（温度や湿度の調整） ・ 施設内、物品の消毒対応 ・ 予防接種の状況把握、市外外出、帰省家族等の把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回 ・ 毎回 ・ 毎回 ・ 毎回 ・ 毎回 ・ 随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・ デイ新聞等を活用し感染対策への働きかけを行うことが出来た。 ・ 予防接種や市外外出、帰省家族等の把握については、デイ新聞での呼びかけを続け、利用者家族が自主的に連絡をくれるように定着してきた。 ・ 感染状況に応じて、活動内容を検討しながら進めることが出来た。 |

| | | | | | |
|---------------|--------------|-------|---|---|--|
| | 感染症対策 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・検温の実施と報告 ・市外外出、帰省家族等の報告 ・感染症対策の徹底（マスク、フェースシールド、ガウン等感染状況に合わせた適切な着用） ・事務所等の換気・消毒の徹底 ・衛生用品の在庫確認、補充 ・感染症対策マニュアルの見直し、作成 ・感染症対策予防委員会の開催と参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日 ・随時 ・毎日 ・毎日 ・随時 ・随時 ・随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策委員会を年間で341回開催。 ・県の集中検査として抗原検査を週2回実施。 ・年末年始に併設入所施設においてコロナ感染症クラスター発生し事業停止。利用者家族等への体調確認等を進めた。 ・感染症対策についての研修会をリモートや動画の活用で参加することが出来た。 |
| ③防災対策 | 避難訓練 | 利用者共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・自衛消防訓練の参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・年4回 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練に参加し、災害時の動きについて確認することが出来た。 |
| | | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・自衛消防訓練の実施（地域の方にも参加いただく） ・非常招集訓練の実施 ・消防設備の確認（配電盤等） ・防災対策委員会への参加 ・事業継続計画（BCP）の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・年4回 ・年1回 ・年1回 ・年2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を交えた消防訓練の実施は出来なかった。 ・5月に非常招集訓練、2月、3月に避難訓練を実施。 |
| ④研修 | 研修の実施と参加 | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・各研修会（リモート研修）への参加・参加後の伝達研修 ・他事業所等との情報交換 | <ul style="list-style-type: none"> ・随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・リモートや動画を活用した研修が定着してきている反面、まだ、職員全体が使いこなせていない状況にもあり、下半期は特に研修が進まない状況がみられた。 |
| ⑤職員の働きやすい職場作り | 職員の働きやすい職場作り | 職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な形態の勤務体制 ・入所施設との連携を図る ・業務内容の見直しや改善・PCやデータの活 | <ul style="list-style-type: none"> ・随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者状況や予定に合わせて随時勤務形態を変更しながら進 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|--|--|---|-------------|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 用にて事務の効率化を図る | | めている。 ・PCの活用を進めてきたが年度末にかけて対応が停滞し課題が残っている。 |
| ⑥地域とのつながり | 地域交流 | | 職員 利用者共通 | | | | | | | | | | | | | | | ・地域で行われる活動への参加（職員派遣） ・行事等を通じた地域住民との交流の場の確保（リモートの活用） | ・随時 | ・感染症対策から地域の方を施設に招いた交流は出来なかった。 ・敬老会では小学生から動画によるお祝メッセージをもらい、式典の中で流す形で地域とのつながりを持つことが出来た。 |
| ⑦安定的な経営 | 安定的な経営 | | | | | | | | | | | | | | | | | ・利用者の定期的な受け入れ ・関係機関への働きかけ（魅力の発信） ・収支と支出を意識した備品の購入 ・各種支援金、交付金の活用（コロナ感染症にかかる衛生用品等） | ・随時 ・月1回 | ・新規利用者23名と昨年度の新規利用者を上回る受入れを行うことが出来、実績を延ばすことが出来た。 ・年末年始併設入所施設においてコロナ感染症発生したことで21日間のデイ休業となり、実績減少となった。 ・各消耗品費の値上げに伴い、必要物品の見直し等を行うことが出来た。 |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | | | | |
| 開所日数 | 26 | 24 | 26 | 26 | 24 | 26 | 26 | 26 | 25 | 9 | 24 | 27 | 289 | 95.1% | 304日 | | | | | |
| 利用定員 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | — | — | — | | | | | |
| 要支援（延） | 75 | 58 | 70 | 67 | 60 | 74 | 76 | 74 | 72 | 27 | 59 | 60 | 772 | 101.6% | 760人 | | | | | |
| 要介護1・2（延） | 250 | 238 | 247 | 251 | 249 | 249 | 252 | 248 | 263 | 82 | 241 | 298 | 2,868 | 89.5% | 3,205人 | | | | | |
| 要介護3・4・5（延） | 148 | 139 | 155 | 143 | 138 | 182 | 190 | 178 | 165 | 54 | 124 | 117 | 1,733 | 81.2% | 2,135人 | | | | | |
| 合計 | 473 | 435 | 472 | 461 | 447 | 505 | 518 | 500 | 500 | 163 | 424 | 475 | 5,372 | 88.1% | 6,100人 | | | | | |

| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 夏祭り | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 敬老会 | | | | | | ◎ | | | | | | |
| ふれあいまつり | | | | | | | ○ | | | | | |
| 避難訓練 | | ◎ | | | | × | | × | | | ○ | ◎ |
| 職員研修(リモート) | | | ◎ | | | ◎ | | × | | × | ○ | |

【総合評価】

・効率性

満足度調査実施し利用者より8割を超える「満足」という声を頂いたが、感染対策のために行事等の縮小、エリア分け等による施設設備への不満の声も上がった。入所施設と併設していることから、他のデイサービス以上に感染対策の強化をとる必要があったため、利用者のニーズにそのまま応えられない面も多くあった。今後、感染状況の変化に合わせて通常に戻れる部分から少しずつ対応していきたい。

機械浴のニーズも増えており曜日によっては空きのない日もあった。機会浴へ移行する前の段階として、一般浴に設置する福祉用具(シャワーチェア・滑り止めマット等)の整備が必要になってきている。配置車両4台に対して運転技士が不足し、上手く稼働できず利用者の受け入れが難しいときもあったため運転可能な職員の増員を望む。

・有効性

併設施設においてコロナウイルス感染症流行し、21日間事業停止となった。施設として感染症対策の継続が重要視される中で、通常の生活に戻ろうという世の中の動向との相違に難しさを感じた。今後は、感染症対策を継続しながらも、これまで行ってきた活動や行事に近づけるよう、過去のスタイルにとらわれず、新たな視点で事業を考えていきたい。特に感染症が流行する冬期間の活動の見直し、年間予定の見直し等を次年度進め、利用者の満足度につなげていく。

・インパクト

R4年度も感染症対策中心の1年となり、様々な活動への制限があった。職員だけでなく、利用者も感染症対策の意識向上がみられていたが、そこに重点を置くことでこれまで利用者が楽しみにしていた内容が実施出来ない面もあった。また、感染症の流行や職員体制等から避難訓練の実施が難しいことも多く、予定や内容を変更する形で対応した。緊急時の対応についてはさらに職員の意識を高める必要があると感じ、今後は様々な状況を想定した避難訓練等の実施や、マニュアルやBCP計画の作成・見直しを進めていく。

・妥当性

総合事業対象者から、中重度要介護者まで幅広く利用者の受け入れを行った。また、山田町からの利用希望が多くなってきたことで、豊間根地区、荒川地区まで事業拡大。サービス資源の少ない地区へも対応できるよう見直しを行うことが出来た。

BCP計画を完成させることが出来なかったため、次年度の課題として残る。入所と連携し作成していきたい。

・持続性

昨年度から算定を開始した科学的介護推進体制加算、個別機能訓練加算、口腔機能向上加算に関連する取り組みは定着がみられ、特に機能訓練については清寿荘デイサービスセンターの新たな魅力となり、新規相談の増加につながっている。ケアマネージャー等関係機関へ魅力が発信でき、加算を目的とした新規相談へつながってきている。また、新たな加算を始めたことで、職員のスキルアップ、専門性の向上にもつながっている。今後さ

らに内容の充実を図り、清寿荘デイの魅力として発信し続けることで、さらに利用者数の増加、重度化予防にもつながると考えられる。

| | | |
|--|--|--|
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・生活相談員 2名以上 ・看護師 2名以上 ・介護職員 6名以上 ・機能訓練指導員 1名以上 ・調理員 1名 ・事務員 1名（事務局職員） | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・生活相談員 2名（介護職員兼務 1名） ・看護師 2名 ・機能訓練指導員（看護師兼務 2名） ・介護職員 6名 ・介助員 1名（パート） ・運転手 1名（パート） ・調理員 1名 | <p>○配置車両：4台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフト車両 2台 ・普通自動車 1台 ・軽自動車 1台 |
|--|--|--|

【統括地域包括支援センター】

Ⅱ. 事業目標

「高齢者が住み慣れた地域でその人らしい生活を支援する連携体制の推進」

〈みやこ河南地域包括支援センター〉

Ⅱ. 事業目標

地域の資源や課題を把握し、地域の特色や強みを明らかにしてゆく。社会資源の活用をはかる。

多職種との連携強化を進め、地域で安心して生活できる包括的な支援体制づくりに努める。

地域包括支援センターのさらなる周知と役割の理解促進を図る。総合相談支援体制づくりに努める。

高齢者をはじめ地域住民が互いに支えあい安心して暮らせる地域づくりを進める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|--------------------------------------|----------------------------|--|---|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 総合相談支援業務 | 総合相談支援 実態把握 地域におけるネット ワーク構築 | 高齢者と家族 地域住民 圏域の介護事業所 | 地域住民の相談をワンストップで対応する 個別の事例の課題を分析し、多職種と連携して 課題の解決を図る。 地域の社会資源を把握する。地域課題を発見 し、地域づくりや社会資源の創出に努める | 相談件数 月120件 地域ケア個別会 議 年4回開催 | 相談件数月平均 110件達成率 91%。地域ケア個 別会議年間3件達 成率75%。ケース 検討会同7回達成 率350% |

| | | | | | |
|--------------------------------|---|--|---|--|---|
| <p>② 権利擁護業務</p> | <p>普及啓発 成年後見申し立ての支援 日常生活自立支援事業利用の支援 高齢者虐待対応 消費者トラブル対応</p> | <p>高齢者と家族 地域住民</p> | <p>権利擁護業務について、サロン等でチラシを配布し説明を行うなどの普及啓発に努める。（コロナウイルス感染状況によりサロン参加回数に変化あり。） 総合相談の中で、必要時に日常生活自立支援事業や成年後見申し立ての支援を行う。 高齢者虐待の早期発見早期対応に努める。通報を受けた場合は48時間以内に対応する。市の担当部署及び関係機関と連携し迅速・適切な対応を行う。 総合相談の中で必要時対応する</p> | <p>月一回はサロンに参加し啓蒙活動を行う。 必要時、成年後見申し立て支援実施。 必要時、虐待対応を行う。 必要時対応</p> | <p>コロナ禍でサロン開催できず。 成年後見申し立て年間計3件。 虐待相談は延べ66件対応している。虐待認定された案件は2件。</p> |
| <p>③ 認知症対策</p> | <p>認知症カフェ開催</p> | <p>高齢者・家族 地域住民</p> | <p>サロン等認知症ミニ講座の開催。認知症カフェ開催に向けて、他の認知症カフェに参加し情報収集を行う。開催地区を決定し、コアメンバー会議を開催する。圏域の居宅にも協力を仰ぎ、定期的な開催に繋いでゆく。（新型コロナウイルス感染状況によって開催回数等に変化あり）</p> | <p>月一回サロン等で認知症ミニ講座の開催 年度内一回以上認知症カフェの開催</p> | <p>藤の川地区での開催を令和5年4月に予定し準備中。認知症勉強会は2回開催し予定通り。</p> |
| <p>④ 介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援</p> | <p>契約 ケアプランチェック および助言 担当者会議参加 支援経過・評価のチェック 介護予防のための地域ケア個別会議への参加 給付管理等事務作業</p> | <p>事業対象者 要支援1・2の利用者 家族 居宅介護支援事業所</p> | <p>利用者に丁寧に説明し契約等を実施。居宅事業所に委託する。一連のケアマネジメントサイクルに沿って担当ケアマネと共に自立支援への取り組みを行う。（介護予防のための地域ケア個会議へ参加） 契約から給付管理までの事務作業を適切に実施する。</p> | <p>月平均35件 (委託)</p> | <p>ケアプランチェックおよび助言を行なっている。自立に向けてのケアプラン作成の支援を行う。件数は予定通りであった。</p> |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----|----|--|---|-----|---|-----|-----|------------|----|-----|-------------------------------------|--------|----------------------|-------|
| ⑤ 包括的・継続的ケアマネジメント支援 | 個別相談 助言 ネットワーク作り 関係各所との連携 困難事例への助言 | | | 居宅介護支援事業所 地域住民 医療機関 在宅・施設事業所 その他 | | | 介護支援専門員からの相談に対応する。 困難事例については「ケース検討会」を開催する。支援者のネットワーク構築と個別課題の解決を図る。 | | | | | | 相談対応 適宜実施 ケース検討会 年2回程度 | | 介護支援専門員への助言や後方支援を実施。 | |
| | 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 総合相談 | 119 | 113 | 94 | 101 | 107 | 135 | 143 | 138 | 98 | 84 | 72 | 113 | 1,317 | 91.5% | 1,440件 | |
| 介護予防支援 | 20 | 21 | 22 | 21 | 20 | 20 | 19 | 21 | 20 | 21 | 22 | 20 | 247 | 137.2% | 180件 | |
| 介護予防ケアマネジメント | 23 | 24 | 23 | 25 | 23 | 20 | 21 | 22 | 23 | 23 | 21 | 23 | 271 | 112.9% | 240件 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 地域ケア個別会議 | | × | | | ◎ | | | × | ◎ | | | | | ◎ | | |
| ケース検討会 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ○ | ◎ | | | | | | ○ | | | |
| 【総合評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性 緊急性の高い案件もあった。できる限り日中に対応をしてゆくことで経費を節減。主任ケアマネの更新や介護支援専門員現任研修等の参加で経費がかかっているができる限り少ない時間で成果があげられるように業務内容を検討している。 ・ 有効性 コロナ禍の影響で停滞していた認知症カフェへの取り組みを再始動している。ターゲットの地域を藤の川地区としマップづくりやコアメンバー会議を繰り返すことで「単発ではなく住民主体で継続してゆく認知症カフェ」「本来の目的に沿った認知症カフェ」へ思いを醸成することができている。小山田・藤原地区認知症勉強会を2回開催し次年度に繋げている。高齢者の関心は高いが若年層への働きかけが次年度の課題である。 ・ インパクト 徐々に地域活動の再開が見られ参集型の開催も抵抗なく行うことができた。併せてこども食堂への参加を開始している。個別の事例解決を通して地域住民と接することが増えている。 ・ 妥当性 地域ケア個別会議の開催が4回の予定に対して3回と未達である。ケース検討は7回行っているが、「地域課題の抽出」が地域ケア個別会議の目的である。地域課題抽出まで到達できるものが3回であった。次年度はケース選定の段階で目的を明示して達成をめざす。 ・ 持続性 地域がもっている“繋がり”や“力”活かすことができた。 今後も事業所や住民と共に活動できるよう働きかけを継続していきたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両： | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者兼看護師 1名 ・ 社会福祉士 1名 ・ SC 1名 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者兼看護師 1名 ・ 社会福祉士 1名 ・ SC 1名 | | | | | 1台（軽自動車1台） | | | | | | |

〈みやこ西部地域包括支援センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・地域の資源や課題を把握し、地域の特色や強みを明らかにしていく。
- ・多職種との連携強化を進め、地域で安心して生活できる包括的な支援体制づくりに努める。
- ・地域包括支援センターの周知と役割の理解促進を図り、総合相談支援体制づくりに努める。
- ・高齢者をはじめ地域住民が互いに支え合い安心して暮らせる地域づくりを進める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|-----------------|-----------------------|---|----------------------------------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 総合相談支援業務 | 総合相談支援 | 担当圏域の高齢者及びその家族・地域住民など | ▶本人、家族、近隣住民、地域のネットワーク等から相談を受け的確な状況把握を行い相談内容に即したサービス又は制度に関する情報提供、関係機関の紹介等を行う。 | 100件/月 | ・地域住民、民生委員から気になる人の情報が寄せられ早期介入し予防的に関わるが増えてきている。 |
| | 実態把握 | 担当圏域の高齢者及びその家族・地域住民 | ▶地域のネットワークの活用、様々な社会資源との連携、戸別訪問、別居家族や近隣からの情報集収より高齢者の心身や家族の状況を把握する。 | 15件/月 | |
| | 継続的・専門的な相談支援 | 担当圏域の高齢者及びその家族・地域住民 | ▶相談の初期段階で継続的・専門的又は緊急対応が必要と判断した場合は、関係者からの情報収集から課題を明確化し適切な支援を行うと共に個別の記録を作成する。 | 35件/月 | |
| | 地域におけるネットワークの構築 | 担当圏域の関係機関 | ▶実態把握により支援を必要とする高齢者を見出し適切な支援、継続的な見守り支援、また問題発生防止のための地域のネットワークの構築、その活用を図る。 さらに、高齢者を支援する又参加する団体の把握を行い、必要に応じてマップを作成する。 | 1回/3か月 1回/2か月 2回/月 1回/年 | |
| ② 権利擁護業務 | 成年後見制度の普及・啓発 | 担当圏域の高齢者及び家族・地域住民等 | ▶西部包括の説明・チラシの配布 ▶地域の高齢者の集まりに依頼し制度の説明に出向く。 | 30枚/月 1回/月 | 成年後見制度申立てについて、申立人の不安に寄り添いながら、必要な支援 |
| | 成年後見制度活用の支援 | 担当圏域の高齢者及び親族 | ▶制度の利用が必要な高齢者の親族に説明し関係機関と連携し支援する。 | 2回/年 | |

| | | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|---|
| | <p>高齢者虐待への対応</p> <p>困難事例への対応</p> <p>消費者被害の防止</p> | <p>担当圏域の高齢者及び家族</p> <p>担当圏域の高齢者及び家族</p> <p>担当圏域の高齢者及び家族・地域住民</p> | <p>▶虐待の情報を受けた場合は、速やかに市に報告し事実確認を行い適切な対応をとる。</p> <p>▶重層的な課題の存在や支援の拒否がある場合、センターとしての対応を検討した上で市に報告、助言を受ける。</p> <p>▶特殊詐欺等の消費者被害を未然に防ぐため、市の相談窓口や消費者生活センターと情報交換を行い民生委員や介護支援専門員等と情報を共有する。</p> | <p>3回／年</p> <p>2件／月</p> <p>1回／2か月</p> | <p>を行った。必要な虐待の相談が1件あったが、ケアマネと情報共有し、見守りを継続している。</p> |
| ③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 | <p>包括的・継続的ケア体制の構築</p> <p>日常的個別相談</p> <p>支援が困難な事例の検討、助言</p> | <p>担当圏域の介護支援専門員及び関係機関</p> <p>担当圏域の介護支援専門員</p> <p>担当圏域の介護支援専門員</p> | <p>▶医療機関をはじめ、関係機関との連携体制を構築し、地域の介護支援専門員との連携を支援する。</p> <p>▶定期的な地域ケア個別会議・事例検討会・研修を実施し制度・施策に関するスキルの向上を図る。</p> <p>▶介護支援専門員の相談に対応し関係機関等のつながりを利用しながら多角的視点から解決に向け取り組む。</p> | <p>1回／3か月</p> <p>4回／年</p> <p>4回／年・随時</p> <p>1回／月</p> | <p>介護支援専門員からのケースの相談を受け、同行訪問しながら支援の方向性を一緒に考え、後方支援に努めた。</p> |
| ④ 認知症対策 | <p>認知症カフェの開催</p> <p>認知症サポーター養成講座の実施</p> <p>認知症理解に関する普及・啓発</p> | <p>担当圏域の地域住民</p> <p>担当圏域の様々な活動団体</p> <p>担当圏域の既存の集まり</p> | <p>▶西ヶ丘地区の認知症カフェの開催を継続。</p> <p>▶地域で認知症高齢者を支える体制を整えるため認知症に関する理解を促進する。</p> <p>▶認知症ケアパスを理解し、認知症初期集中支援チーム・認知症推進員と連携しながら認知症の普及・啓発に取り組む。</p> | <p>1回／2か月</p> <p>2回／年</p> <p>1回／月</p> | <p>認知症カフェを計画通り実施することができた。</p> |
| ⑤ 介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援事業 | <p>居宅依頼</p> <p>契約締結</p> <p>ケアプランの確認及び利用者への助言</p> <p>支援経過・評価の確認及び支援への助言</p> | <p>事業対象者 要支援1・2の利用者とその家族</p> <p>居宅介護支援事業所</p> <p>居宅介護支援事業所 地域包括支援センタ</p> | <p>▶利用者の意向を確認のうえ、居宅の選定及び依頼</p> <p>▶サービス利用にあたっては懇切丁寧な説明を行い契約を締結する。</p> <p>▶プラン作成にあたっては要介護状態の予防、軽減、重度化防止及び生きがいや自己実現のための取り組みを支援する。</p> <p>▶介護予防のための地域ケア個別会議へ参加し評価や更新プランに役立てる。</p> | <p>3件／月</p> <p>3件／月</p> <p>70件／月</p> <p>1件／2か月</p> | <p>担当者会議に出席し、地域資源の紹介（主にサロン）を行い、ケアプランに地域資源の掲載が増えてきた。</p> |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------------|------------------|--|------------------------|-------------------------|----|-----|----------|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| | 適正な給付管理等請求事務 | — | ▶適正な給付管理を行い、過不足のない給付の管理に努める。 | 70件／月 | | | | | | | | | | | |
| ⑥ 地域包括支援センター業務に必要な知識やスキルの向上 | 内部研修の企画 外部研修の参加 市・委託包括連絡会の開催 | 市包括担当者 委託包括職員 | ▶研修や事例検討会を企画、定期開催する。 ▶県や市、各団体の研修に参加する。 ▶市の地域包括支援センターと委託地域包括支援センターの連絡会を定期的に開催し活動状況の共有及び相談の場として活用する。 | 1回／月 5回／年／人 1回／月 | 必要なオンライン研修に参加し自己研鑽に努めた。 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 総合相談 | 57 | 97 | 103 | 96 | 100 | 93 | 101 | 123 | 123 | 123 | 123 | 197 | 1,336 | 111.3% | 1,200件 |
| 介護予防支援 | 17 | 19 | 16 | 20 | 20 | 22 | 21 | 22 | 21 | 23 | 21 | 23 | 245 | 90.7% | 270件 |
| 介護予防マネジメント支援 | 52 | 53 | 51 | 54 | 55 | 51 | 49 | 50 | 46 | 42 | 44 | 40 | 587 | 95.0% | 618件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 地域ケア個別会議 | | | × | | ◎ | | ◎ | | | × | | × | | | × |
| 地域ケア連絡会 | | × | | ○ | | × | | | | × | | | | | × |
| 認知症カフェ | × | | ◎ | | × | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | ◎ |
| 認知症サポーター養成講座 | | | ○ | × | | | | | | | | | × | | |
| 普及啓発活動 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 【総合評価】 ・効率性：認知症カフェ開催時、圏内の福祉事業所が参加することでネットワーク構築につながり、連携がスムーズにできている。 ・有効性：制度にあてはまらないケースは、行政・地域の福祉事業所・住民と共に新たな活動の場を創出し、活動を継続している。 ・インパクト：介護支援専門員が日々、悩みを抱えながら支援を行っていることが改めて把握できた。包括が気軽に相談できる場所となるようスキルアップのため自己研鑽と地域資源の把握に努めている。 ・妥当性：地域の身近な所にある相談窓口が周知され、幅広い分野の相談増えている。他機関と連携し、解決方法を探り、対応している。 ・持続性：「公園に集まろう（ラジオ体操）」を毎週、継続することで地域住民とのつながりが強まり、認知症カフェがスムーズに雰囲気良く開催できている。「公園に集まろう（ラジオ体操）」「認知症カフェ」ともに参加者は少しずつ増えている。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | ○職員体制（現行） | | | | ○配置車両： | | | | | | | |
| ・ 管理者兼看護師 1名 | | | | ・ 管理者兼看護師 1名 | | | | 2台（軽自動車） | | | | | | | |
| ・ 社会福祉士 1名 | | | | ・ 社会福祉士 1名 | | | | | | | | | | | |
| ・ 主任介護支援専門員 1名 | | | | ・ 主任介護支援専門員 1名 | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------------------|------------------|--|
| ・生活支援コーディネーター 2名 | ・生活支援コーディネーター 2名 | |
|------------------|------------------|--|

〈みやこ南部地域包括支援センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・地域の資源や課題を把握し、地域の特色や強みを明らかにしていく
- ・多職種との連携強化を進め、地域で安心して生活できる包括的な支援体制づくりに努める
- ・地域包括支援センターの周知と役割の理解促進を図り、総合相談支援体制づくりに努める

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------------------------------|--|--------------|---|---|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①総合相談支援業務 ・認知症対策 ・地域包括ケアシステム | 総合相談業務 地域ネットワークの構築 地域住民への啓発 見守りネットワーク 関係機関との連携 認知症カフェ開催準備 研修への参加 | 地域住民 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握を行い、困りごとや問題への対応 ・関係機関との情報共有や連携 ・地域住民との連携、顔の見える関係作り ・チラシを配布し包括の周知 ・民生委員定例会への参加 ・地域イベントへの参加 ・地域連絡会への参加 ・認知症への理解の啓発 ・研修への参加にて質の向上 | 月50件 年2回 年2回 年4回 随時 随時 | 複数回の訪問や複雑した内容で関係機関との連携が増えてきている。 チラシにて包括の周知を図った地域イベントに参加し認知症の捉え方について確認できた。また重茂小での認知症講座に参加 |
| ②権利擁護 | 虐待対応 成年後見制度 日常自立支援制度 関係機関との連携 研修への参加 | 地域住民 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ・通報時等敏速な対応 ・制度について理解を深める ・研修への参加 ・各専門職、他包括との連携 ・被害防止に向けての啓発、チラシ配布 | 随時 | 虐待相談増えている。関わり方について振り返り必要振り返りを来年度に生かしていく |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------------------------|--|---|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------|-------|
| ③包括的・継続的ケア マネジメント支援事業 | 社会資源の把握 介護支援専門員の支援 困難事例への対応 関係機関との連携 | 地域住民 関係機関 介護支援専門員 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケア会議の開催 ・問題解決に向けて状況の確認や対応 ・介護支援専門員の後方支援 ・関係機関との連携 ・支援会議やケース検討会実施 ・事業所との良好な関係作り | 年4回 随時 | ケース検討会にて 解決案必須。 関係機関と情報共有する事で地域での見守りができた | | | | | | | | | | |
| ④介護予防マネジメント | 給付管理 プラン確認 担当者会議への参加 | 介護支援専門員 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、介護予防マネジメント給付管理 ・ケアプラン点検、提出書類の確認 ・担当者会議への参加 | 介護予防7件 介護予防マネジメント 25件 随時 年30件 | 介護保険への移行により終了が多かった為目標達成せず。プラン更新の担当者会議へ積極的に参加した | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 相談件数 | 68 | 60 | 58 | 66 | 42 | 55 | 74 | 52 | 75 | 61 | 80 | 81 | 772 | 128.7% | 600件 |
| 介護予防マネジメント | 30 | 28 | 28 | 28 | 27 | 27 | 26 | 26 | 26 | 24 | 24 | 24 | 318 | 106.0% | 300件 |
| 介護予防 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 51 | 60.7% | 84件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 地域ケア個別会議 | | | ◎ | | | | ◎ | ○ | × | | | | | × | |
| 地域連絡会 | | | | × | | × | | × | | | | | × | | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率性 地域での集まりについては消極的な部分があり未開催となっている。地域の情報収集により、どんな地域なのか把握に努め、世代での思いの違いや課題について把握に努めた。ケース会議を通じ連携の大事さを痛感し情報共有する事で見守りを行うことができた。また、高齢化による状態の悪化により介護保険移行が多く自立支援のプランは難しい状況にあった。 ・有効性 介護保険対象者以外の相談も多く、解決方法を探る為にも関係機関との連携を行った。新規相談や訪問回数は徐々に増えてきており、目標達成することができた。 ・インパクト 今年度どんな地域なのか見えて来た事もあり、来年度に向けて地域の力を借りながら集まりの場を創出していく。その反面、認知症について内向的な一面もある事から声を出せるよう周知をしていく事が必要。その為にもSCと協力しながら包括の役割を発信していく。 ・妥当性 地域イベントへの参加や地域からの声掛けにて今後についての発想を聞く事が出来た。包括と一緒に地域の為に動こうとしている声を拾う事ができた。 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・持続性 地域を見ているつもりが実は包括の動きを見ているという地域である事から、積極的に地域に出向く事を意識して行い周知に努めた。今後も積極的に地域イベント等に参加していく。 | | |
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両： |
| <ul style="list-style-type: none"> ・主任介護支援専門員 1名 ・社会福祉士 1名 | <ul style="list-style-type: none"> ・主任介護支援専門員 1名 ・社会福祉士 1名 | <ul style="list-style-type: none"> 軽自動車 1台 |

〈みやこ北部地域包括支援センター〉

II. 事業目標

- ・関係機関、民生委員、自治会、地域支援者との関係づくりにより、地域の高齢者の状況や要支援者の把握に努める。
- ・地域の状況や社会資源等を把握し、地域の強みを活かした地域づくりを行う。
- ・地域包括支援センターの役割や状態変化の早期発見、早期対応の周知に努める。
- ・多職種との連携強化を図り、包括的な支援体制づくりに努める。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|------------------|---|--|------------------------|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| 1 地域連携事業 | ①関係機関との連携体制構築の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関 ・民生委員等 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の状況把握 ・みやこ北部地域連絡会 ・グループホーム運営推進会議参加 ・みやこ北部地区民生委員児童委員協議会定例会参加 | 3回 随時 年3回 | 関係機関との連携は、必要に応じて円滑に行なう事が出来た。 |
| | ②介護保険課及び委託包括間の連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険課 ・委託包括 ・第1層 SC ・社協 | <ul style="list-style-type: none"> ・委託包括内連絡会 ・困難事例検討会 ・包括管理者会議参加 ・市包括との連携（情報共有） | 12回 3回 12回 随時 | 介護保険課との情報共有及び委託包括内の連携を円滑に行う事が出来た。 |
| 2 総合相談支援事業 | ①総合相談支援の対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者 ・家族 ・関係機関、医療機関 ・民生委員等 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談対応（通年） ・個別訪問（要経過観察者、新規要支援者） | 90件 20件 | 民生委員や日の出町駐在所からの情報により、把握し相談支援を行う件数が増加した。 |

| | | | | | |
|---------------------|--------------------|---------------------------------------|---|-------------------------|---|
| | ②実態把握 | ・高齢者 ・民生委員 ・住民 ・サロン、地域活動参加者等 | ・民生委員への心配な世帯の情報提供の依頼 ・自治会やサロン活動、地域住民からの情報提供の推進 | 随時 各民生委員との 情報共有地区 | サロン活動へ積極的に参加することにより、各地域の実態を把握する事が出来た。 |
| 3 一般介護予防啓発事業 | ①健康意識・生活機能向上の啓発 | ・サロン、地域活動参加者 ・見守り対象高齢者等 | ・地域活動やサロン等での健康講話 ・家庭訪問時、個人の健康状態に応じた知識の普及や助言 ・啓発のためのパンフレット等資材の確保 | 6回 | ・サロン活動へ参加し、季節に応じた健康管理について、講話した。 |
| 4 権利擁護事業 | ①高齢者虐待の防止及び対応 | ・介護事業所 ・民生委員児童委員 ・住民 ・高齢者 | ・早期対応と予防的支援 ・認知症対策の推進・高齢者虐待の予防周知 ・早期発見のための周知 ・虐待通報への早期対応 | 随時 | ・上半期に虐待対応事業が4件発生。介護保険課と連携し、円滑な対応が出来た。 |
| | ②判断能力を欠く状況にある人への支援 | ・高齢者、家族 | ・成年後見制度の理解周知及び ・本人や家族の相談対応、制度説明、申し立てへのつなぎ ・日常生活自立支援制度の普及啓発 | 随時 | ・相談があった事例は、成年後見センターに繋いだ。 |
| | ③消費者被害の防止 | ・高齢者、家族 | ・消費者被害についての理解促進 ・消費者被害予防と早期発見・再発防止 | 随時 | ・総合相談時、詐欺被害予防の啓発チラシ配布 |
| | ④認知症理解の推進 | ・高齢者・住民 ・民生委員 ・サロン、地域活動参加者等 | ・認知症理解普及・啓発活動 ・認知症地域支援推進員との連携 ・認知症サポーター養成講座開催 ・認知症カフェ | 相談・訪問時 3か所 2回 | ・銚ヶ崎、崎山民協において、認知症サポーター養成講座を開催。 ・市開催の講座へ講師として参加 |
| 5 包括的・継続的ケアマネジメント事業 | ①包括的・継続的ケアマネジメント支援 | ・居宅介護支援事業所 ・介護支援専門員 ・介護事業所 | ①地域ケア個別会議の開催 ②困難事例への対応 ③要支援者把握 | 4回 随時 随時 | ・地域ケア個別会議3回開催 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------------------|----|--|---|----------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|-------|
| | ②関係機関との連携 | | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関 医療機関 民生委員 自治会 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携体制構築（フォーマル、インフォーマル） 入退院や介護サービス利用が継続的に支援されるための連携 | | <ul style="list-style-type: none"> 支援会議の開催や同行訪問など、困難事例の支援に努めた。 | | | | | | | | | |
| 6 指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメント | ①介護予防ケアマネジメント ②指定介護予防支援事業 | | <ul style="list-style-type: none"> 事業対象者、要支援者、家族 居宅介護支援事業所 介護事業所 社協（総務課） | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況把握 利用者との契約業務 新規居宅支援事業所との契約業務 ケアマネジメントへの助言 担当者会議への出席 給付管理 | 随時 30回 30回 | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に担当者会議に参加し、ケアプランへの助言をした。 コロナ禍の影響か、事業対象者が増加した。 | | | | | | | | | |
| 7 専門的スキルの向上 | ①研修・会議への参加と自己研鑽 | | <ul style="list-style-type: none"> みやこ北部包括 委託包括 | <ul style="list-style-type: none"> 県内研修会への参加 委託包括内での研修 事例検討会による資質の向上 自己研鑽 | 3回 3回 | <ul style="list-style-type: none"> オンラインやZOOM研修を活用し、必要な研修に参加した。 | | | | | | | | | |
| 8 生活支援体制整備事業 | ②生活支援コーディネーター事業 | | <ul style="list-style-type: none"> 住民 自治会 民生委員等 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援相談 地域資源一覧表作成 支えあいマップ作り（随時）【2か所】 居場所づくりの活動（通年） 便りの発行【4回】 | 通年 活動参加16回 | <ul style="list-style-type: none"> サロン活動活性化のため、サロン代表者連絡会を開催し、課題や包括への要望について把握した。 | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 介護予防ケアマネジメント | 35 | 39 | 35 | 39 | 35 | 36 | 39 | 38 | 40 | 37 | 36 | 36 | 445 | 123.6% | 360 |
| 介護予防支援 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 7 | 8 | 9 | 11 | 12 | 10 | 10 | 122 | 113.0% | 108 |
| 総合相談対応 | 165 | 97 | 106 | 118 | 123 | 163 | 109 | 144 | 154 | 182 | 174 | 129 | 1,664 | 154.1% | 1,080 |
| サロン訪問 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 17 | 106.3% | 16 |
| SC相談件数 | 3 | 18 | 13 | 10 | 11 | 11 | 18 | 20 | 30 | 24 | 17 | 25 | 200 | 166.7% | 120 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 北部地域連絡会 | | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | ◎ | | ◎ |
| 地域ケア個別会議 | | | ◎ | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | |
| 認知症サポーター養成講座 | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 認知症カフェ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 民協定例会参加 | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | | | ◎ |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|--|--|---------------------------------|--|---|---|
| 支えあいマップ作製 | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率性：総合相談や虐待対応等対応が重なることもあったが、生活支援コーディネーターとの連携を図り、円滑な対応をする事が出来た。また、サロン活動や地域の実態把握に包括職員が同行し、それぞれの視点での支援をする事が出来た。また、箱石地区・佐原一・二丁目の支えあいマップを作成し、把握した独居や高齢者世帯や気になる世帯を訪問し、個別アセスメントを行っている。支えあいマップの作成は、要支援高齢者の把握やアセスメントに効率的な事業と感じた。 ・有効性：開所1年を経過し、地域住民にみやこ北部地域包括支援センターの役割が周知されてきたと感じる。医療機関や地域内の事業所へチラシ配置の依頼訪問や、サロン活動での周知活動の成果と思われる。 ・インパクト：昨年度から、いきいき支援財団の支援を受けて、地域づくりに取り組んできた。今年度は、サロン代表者連絡会において、介護予防講話や『音楽療法』講師派遣を依頼し、一般介護予防事業への取り組みを行い、サロン活動の活性化支援を行った。サロン活動に、生活支援コーディネーターと保健師が同行し、健康講話や地域のニーズ把握を行うことで、地域の相互見守りの必要性をアピールする事が出来た。 ・妥当性：銚ヶ崎・崎山地区の民生委員児童委員協議会において、認知症サポーター養成講座を行い、地域を見守る民生委員の認知症理解の推進を図った。地域の中で、認知症の相談が多く、地域住民の本人や家族理解の推進につながることを期待したい。 ・持続性：独居世帯や高齢者世帯の高齢化が進み、身近な近隣で相互に見守る地域見守り体制を強化するため、地域連絡会等の推進を図り、協議体の構築を図りたい。また、民生委員児童委員が変わった地区もあることから、地域包括支援センターの役割を再度周知し、活動への協力を再確認していきたい。 | | | | | | | | | | | |
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者／保健師 1名 ・社会福祉士 1名 ・生活支援コーディネーター 2名 | | | | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者／保健師 1名 ・社会福祉士 1名 ・生活支援コーディネーター 1名 | | | | <p>○配置車両：</p> <p>1台（軽自動車1台）</p> | | | |

〈たろう地域包括支援センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・地域の資源や課題を把握し、地域の強みを活かした地域づくりを行う。
- ・関係機関、民生委員、自治会、地域支援者との情報共有から要支援者の把握と掘り起こしを行う。
- ・地域包括支援センターの役割や状態変化の早期発見、早期対応の周知に努める。
- ・多職種との連携強化を図り、包括的な支援体制づくりに努める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|---------|------|------|------------|-----|------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| | | | | | |

| | | | | | |
|------------|--------------------|---|---|---------------------------|---|
| 1 地域連携事業 | ① 関係機関との連携体制構築の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 田老地域の関係機関 ・ 民生委員等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ たろう地域連絡会 ・ グループホーム運営推進会議参加 ・ 田老地区民生委員児童委員協議会定例会参加（事例検討、研修会等） | 6回 年6回×2施設 年4回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ たろう地域連絡会は予定通り実施。郵便局包括協定等の見守り活動は有効な情報であった。 ・ 民協改選により1/3の新任での活動開始。情報交換により包括連携理解につながった。 |
| | ② 生活支援コーディネーターとの連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民 ・ 自治会 ・ 民生委員等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源一覧表作成（通年） ・ 支えあいマップ作り（3回） ・ 居場所づくりの活動（通年） | 3回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターと情報共有し地域への必要な活動や個別対応について検討を行った。 ・ 認知症カフェを通じボランティア発掘につながった |
| | ③ 介護保険課及び委託包括間の連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険課 ・ 委託包括 ・ 第1層 SC ・ 社協 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託包括内連絡会 ・ 困難事例検討会 ・ 包括管理者会議参加 ・ 市包括との連携（情報共有） | 12回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営状況の共有、研修、課題の検討が図られている。 ・ 個別ケア会議形式による検討研修会は外部専門職からの助言により有効的な会議となった。 |
| 2 総合相談支援事業 | ① 総合相談支援の対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者 ・ 家族 ・ 関係機関、医療機関 ・ 民生委員等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合相談対応（通年） ・ 個別訪問（要経過観察者、新規要支援者） | 50件 15件 | 月件数を30件位上回った。コンスタントな相談あり。 |
| | ② 実態把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者 ・ 民生委員 ・ 住民 ・ サロン、地域活動参加者等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員へ心配な世帯の情報提供の依頼 ・ 自治会やサロン活動、地域住民からの情報提供の推進 | 随時 各民生委員との情報共有 18地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員、住民等からの情報により状況把握し介護申請等に繋がっている。 |
| 3 権利擁護事業 | ① 高齢者虐待の防止及び対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護事業所 ・ 民生委員児童委員 ・ 住民 ・ 高齢者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期対応と予防的支援 ・ 認知症対策の推進・高齢者虐待の予防周知 ・ 早期発見のための周知 ・ 虐待通報への早期対応 | 随時 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待相談は3件対応したままその現場に居合わせた第3者の通報で発覚したケースあり。分離なく様子観察継続。 |

| | | | | | |
|-------------------------|------------------------------|--|---|-----------------|--|
| | ②判断能力を欠く常況にある人への支援 | ・高齢者、家族 | ・成年後見制度の理解周知及び ・本人や家族の相談対応、制度説明、申し立てへのつなぎ ・日常生活自立支援制度の普及啓発 ・日常生活自立支援制度の利用支援 | 随時 | ・後見申立て支援1件。関わりから後見申請時期を支援者で検討していた為スムーズに進んだ。 ・相談対応は出来ているが、普及啓発が出来ていない。 |
| | ③消費者被害の防止 | ・高齢者、家族 | ・消費者被害についての理解促進 ・消費者被害予防と早期発見・再発防止 | 随時 | ・個別訪問時包括チラシと合わせて詐欺防止のチラシを配布。効率的に周知出来ている。 |
| | ④認知症理解の推進 | ・高齢者 ・民生委員 ・住民 ・サロン、地域活動参加者等 | ・認知症理解普及・啓発活動（認知症カフェ等の実施） ・認知症地域支援推進員との連携 | 4回 | ・2回開催。関係機関とのコアメンバー会議を重ね、認知症推進の為に協働で活動する必要性を把握できた。 ・当事者、家族が立ち寄りやすい環境づくりに努めていきたい。 |
| 4 包括的・継続的ケアマネジメント事業 | ①包括的・継続的ケアマネジメント支援 | ・居宅介護支援事業所 ・介護支援専門員 ・介護事業所 | ・地域ケア個別会議の開催 ・困難事例への対応 ・要支援者把握 | 4回 | ・予定回数の実施ができなかった。居宅事業所との協力体制構築が重要。会議後のモニタリングにてケアマネジメントや本人の生活への効果がみられている。 ・支援会議は6回開催。具体的支援策決定や役割分担により支援者間の連携強化が図れた。 |
| | ③関係機関との連携 | ・関係機関 ・医療機関 ・民生委員 ・自治会 | ・関係機関との連携体制構築（フォーマル、インフォーマル） ・入退院や介護サービス利用が継続的に支援されるための連携 | | |
| 5 指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメント | ①介護予防ケアマネジメント ②指定介護予防支援事業 | ・事業対象者、要支援者、家族 ・居宅介護支援事業所 ・介護事業所 ・社協（総務課） | ・利用者との契約業務 ・新規居宅支援事業所との契約業務 ・ケアマネジメントへの助言 ・研修会の実施（介護予防プランについて） ・担当者会議への出席 | 随時 1回 18回 | ・新規契約8名、終了9名・市主催介護予防ケア個別会議出席。今後のケアプラン点検の視点など学習できた。 ・目標設定、具体的取 |

| | | | | | | |
|-------------|-----------------|-------------------|---|----------------|--|--|
| | | | | ・ 給付管理 | | 組など個性がないプランについて助言がうまくできていない。 ・ 担当者会議への参加は14回。感染防止の観点から照会文書による開催も多かった。 |
| 6 専門的スキルの向上 | ①研修・会議への参加と自己研鑽 | ・ たろう包括 ・ 委託包括 | ・ 県内研修会への参加 ・ 委託包括内での研修 ・ 事例検討会による資質の向上 ・ 自己研鑽 | 5回 6回 6回 | | ・ 研修、会議に継続して参加が来ている。 |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|--------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|--------|-------|
| 介護予防ケアマネジメント | 13 | 15 | 17 | 16 | 16 | 16 | 17 | 14 | 13 | 7 | 13 | 12 | 169 | 108.3% | 156件 |
| 介護予防支援 | 5 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 5 | 4 | 4 | 4 | 5 | 48 | 80.0% | 60件 |
| 総合相談対応 | 67 | 80 | 85 | 70 | 72 | 105 | 67 | 74 | 103 | 116 | 80 | 82 | 1,001 | 166.8% | 600件 |
| ケアマネ支援 | 0 | 2 | 4 | 1 | 1 | 2 | 5 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 18 | 30.0% | 60件 |

| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| たろう地域連絡会 | | ◎ | | ◎ | | × | ○ | ◎ | | ◎ | | ◎ |
| 地域ケア個別会議 | | | × | | × | ○ | × | | | | | ◎ |
| 認知症理解普及・啓発活動 | | × | | | | × | | | ◎ | | | ○ |
| 民協定例会参加 | | | ◎ | | × | ○ | | × | | | | × |

【総合評価】

○効率性

- ・ 総合相談支援では下半期は相談数が増加し対応に追われた。訪問による実態把握では包括チラシと合わせて消費者被害防止に関するチラシを配布し、効率的に啓発活動ができた。
- ・ 成年後見制度の申立て支援を1件実施。1年前から支援者間で協議を進め、親族とも顔の見える関係性ができていた。意向確認や制度内容の理解、必要類の準備なども協力体制のもとスムーズにできた。

○有効性

- ・ 総合相談対応の目標値は達成できたが、要経過観察者の計画的な訪問や新規要支援者のアウトリーチが不足している。個別ケア会議は予定通りに実施できなかった。事例提供居宅について協力を得られるよう会議の重要性を発信していく必要がある。
- ・ 認知症推進活動における認知症カフェ等への取組みは関係機関との情報共有や協働を進めていくことで新たにセンターを拠点とし開催ができた。より課題抽出や検討が容易となり事業として効果が期待できる。また生活支援コーディネーターとの連携でボランティア発掘、住民目線での意見を参考にしながら活動ができた。
- ・ 指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業について新規契約8名、契約終了9名。終了理由は要介護への移行。自立した生活を維持できるような目標設定や具体的な取り組みをプランに落とし込むことが課題と感じる。適切な助言によるプラン修正など包括としての役割ができていない。

| | | |
|--|--|------------|
| <p>○インパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から地域の代表的な企業や、郵便局が連絡会参加事業所となった。郵便局が包括協定により地域の見守りの活動をPRするなどよい情報共有になった。また配食サービスの中継地点として企業が高齢者に関わる等で見守り支援のネットワークが拡大できた。 ・たまたまその現場に居合わせた第三者の通報で発覚した虐待ケースあり、介護者の介護負担増強を防止していくことが支援の方向性。住民意識によりどこでも情報入手や発信ができることに衝撃を受けた。映像による事実確認について学習した半面、IT社会の中情報管理の重要性や漏洩へのリスクを感じた。 <p>○妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者や関係機関のニーズに沿いながら、地域連携事業、総合相談支援事業など事業活動を進めることができた。体調不良による受診をきっかけに介護保険サービス、生活困窮支援制度利用につながったケースあり。複数課題を抱えておりケアマネジメント支援は継続している。ケアマネの困りごとに寄り添い対応することにより結果的には高齢者の個別支援につながっている。 <p>○持続性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との関係性構築により課題解決の連携が図れている。認知症推進活動についてはコアメンバー、連絡会等で地域での課題などを把握、検討しながら継続的な活動が可能と思われる。 | | |
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両： |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管理者／主任介護支援専門員 1名 ・社会福祉士 1名 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理者／主任介護支援専門員 1名 ・社会福祉士 1名 | 1台（軽自動車1台） |

〈にいさと地域包括支援センター〉

- ・地域の資源や課題を地域住民や関係機関と共有を図り、地域性を生かした地域づくりをともに進める。
- ・地域に積極的に出向き、地域の困りごとの把握と気軽に相談できる窓口を目指す。
- ・多職種と連携強化を図り、高齢者が地域で安心して暮らせるための支援体制づくりの強化を図る。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|----------------|-------------------|----------------|-------------------------------|-----|-----------------------------------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ①地域連携とネットワーク強化 | ≫ 地域の情報交換と共有、連携強化 | ≫ 医療・福祉関係者 | ≫ 新里地区連絡会 | 12回 | 12回開催、定期開催で定着、地域内の情報交換・共有が図られている。 |
| | | ≫ 地域住民 | ≫ 新里地区民協定例会への出席 | 6回 | 8回出席、コロナ感染拡大時は出席見送り。 |
| | | ≫ 関係機関・事業所・施設等 | ≫ 地域や関係機関・施設等が開催する運営推進会議等への出席 | 4回 | 出席2回、コロナ感染拡大時及び事業と重なり出席見送 |

| | | | | | |
|------------------------|---------------------------|----------------------|----------------------------|-----------------|--------------------------------|
| | | | | | り回あり。 |
| ②生活支援体制整備事業との連携・協力 | ≫生活支援コーディネーターとの連携・協力 | ≫地域住民 | ≫支え合いマップ作成 | 3地区 | 2地区実施：茂市・太長根、墓目・八坂地区 |
| | | | ≫地域資源一覧更新 | 1回更新 | R5.3月更新 |
| ③総合相談支援事業 | ≫高齢者世帯の状況と実体を把握した包括的な相談支援 | ≫地域住民・関係機関 | ≫相談支援と対応 | 50件／月 | 平均44件／月 |
| ④権利擁護事業 | ≫高齢者虐待の未然防止・早期発見・対応・普及啓発 | ≫地域住民、サービス事業所、関係機関 | ≫高齢者虐待対応 | 随時 | 虐待相談受付はなかった。 |
| | | | ≫成年後見申立及び日常生活自立支援事業の利用支援 | 随時 | 後見センターと連携を図り権利擁護支援方針会議を2回開催。 |
| | | | ≫権利擁護に関する周知と勉強会の実施 | 1回／年 随時パンフ配布 | 相談等で必要に応じて配布 |
| ⑤包括的・継続的ケアマネジメント | ≫多職種による包括的な支援体制づくり | ≫介護支援専門員 | ≫地域ケア個別会議 | 4回／年 | 2回開催ケアマネ、が抱える課題を多職種で検討、助言等頂いた。 |
| | | | ≫介護支援専門員への相談・支援・側面的サポート | 随時 | |
| | | | ≫困難事例等の支援会議 | 随時 | |
| ⑥介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援 | ≫要介護状態を予防し地域で自立した生活を支援 | ≫利用者、介護支援専門員、サービス事業所 | ≫給付管理 | 16件／月 | 15件／月平均 |
| | | | ≫介護予防のための地域ケア個別会議への事例提供と出席 | 2回／年 3ケース | 1回、1事例提供プラン期間が合わず1回の出席に留まる。 |
| | | | ≫担当者会議への出席 | 32回／年 | 32回出席 |
| ⑦認知症対策 | ≫認知症の理解促進と認知症にやさしい | ≫地域住民、学校、関係機関 | ≫茂市地区認知症カフェ「かだってカフェ」 | 4回／年 | 4回開催市広報掲載したことで参加者増 |

| | | | | | |
|--------------|-------------------|--------|-------------------------|-------|-----------------------------|
| | 地域づくり | | ≫ 墓目地区認知症カフェ「あづまっぺカフェ」 | 3回／年 | |
| | | | ≫ 認知症サポーター養成講座（学校・地域） | 3回／年 | 2回実施 新里小、新里中 |
| ⑧専門職としての資質向上 | ≫ 相談援助職としてのスキルアップ | ≫ 担当職員 | ≫ 研修会・講座・会議等への参加・復命 | 10回／年 | 研修：16回参加 ケアマネジメント部会：5回参加 |
| | | | ≫ 地域包括支援センター連絡会・研修会への出席 | 12回／年 | 12回出席（毎月） |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|--------------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-------|-------|
| 相談対応 | 43 | 49 | 41 | 44 | 44 | 43 | 47 | 45 | 67 | 35 | 35 | 34 | 527 | 87.8% | 600件 |
| 指定介護予防支援 介護予防ケアマネジメント | 19 | 18 | 16 | 17 | 16 | 16 | 17 | 15 | 13 | 13 | 11 | 13 | 184 | 95.8% | 192件 |

| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 地区連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| かだっぺカフェ | | × | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| あづまっぺカフェ | | | × | | × | | | × | | | | |
| 認知症サポーター養成講座 | | | ◎ | ○ | | × | | | | | × | |
| 地域ケア個別会議 | | × | ○ | × | | ◎ | | × | | | | |

【総合評価】

- ・ 効率性
係内会議を包括・SC・地域支援と合同で行うことにより、事業の共通理解を図り、連携・協力しやすい環境づくりに努めた。
旧歯科医師住宅でのフリーカフェにSCとともに運営に携わることにより、地域の実情や課題を肌で感じる機会となり、住民が参加しやすいアイデア・企画を自ら考え、提案し、SCと連携し進めていくことが出来た。
- ・ 有効性
認知症サポーター養成講座を新里中学校、新里小学校と実施。講義だけではないように工夫、子ども達に考え動いてもらえるよう寸劇やグループワークを取り入れた内容とし、終了後の感想ではやさしく対応する等の感想が聞かれ、認知症に対し概ね正しく理解できていたことから有効性はあったと思われる。
総合相談をとおして、要支援・事業対象者が通える通所型サービスの資源が乏しく、かつサロンや体操教室まで自力で通えない方が多く潜在していることが課題となっている。このことから、地域にある資源（施設・モノ・人材）の有効な活用について検討していく必要を実感、地域資源の実情について聞き取り、次年度につながる活動を行うことが出来た。
オンラインによる研修が増えたことにより距離や時間の拘束が軽減、参加しやすい環境が出来たことにより、多くの研修に参加できた。今後の実務

| | | |
|---|---|-------------------------|
| <p>に生かしていきたい。</p> <p>・インパクト 認知症カフェ「かだつてカフェ」では、2回目（9/26）開催より市広報に掲載、内容も関心の高いものだったこともあり、参加者が増え、インパクトが大きかったと感じている。今後も定期的開催し、定着できるように努めていきたい。一方、墓目地区では以前のコアメンバーが交代や後任が居ない状況とコロナ禍が重なり、再開するためには厳しい状況が続いた。</p> <p>指定介護予防・介護予防ケアマネジメント業務では新里地域において通所型サービス事業所の受け入れが厳しいこともあり、目標値達成には至らなかった。今後、介護予防が必要な高齢者について、改めてニーズ把握を行い、地域にある資源の再構築に取り組む必要性がある。</p> <p>・妥当性 地域ケア個別会議を2回開催。ケアマネが今抱えている課題のあるケースを取り上げるよう心掛けた。多職種による助言を通しケアマネが1人で抱えていた課題を会議を通し共有できた。新里地域は2つの居宅介護支援事業所で4名のケアマネしか居なく、妥当な回数と思われる。</p> <p>・持続性 新里地区連絡会は毎月定例開催で定着。事業所の近況についての情報交換のほか、今年度より1つのケースやテーマを深めることを行っている。その影響もあり、会議後に連携して対応できたケースも出てきている。一方、情報提供する関係機関・事業所が限られてきているため、改善が必要である。</p> | | |
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両： |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名 ・保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士のいずれか1名以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理者 1名（社会福祉士） ・主任介護支援専門員 1名 | 1台（軽自動車 スズキアルト NO.3316） |

〈かわい地域包括支援センター〉

Ⅱ. 事業目標

- ・地域の資源や課題を把握し地域の特色や強みを明らかにして行く。
- ・多職種との連携強化勧め、地域で安心して生活できる包括的な支援体制づくりに努める。
- ・地域包括支援センターの周知と役割の理解促進を図り、総合支援体制づくりに努める。
- ・高齢者をはじめ地域住民が互いに支え合い安心して暮らせる地域づくりを進める。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------|---|---------------------|--|----------------------|--|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 総合相談支援事業 | 総合相談 実態把握 地域ネットワーク構築 継続的、専門的相談支援 | 地域住民 高齢者 関係機関 | ・多様な相談の早期解決に向け関係機関と連携し民協定例会や生活支援コーディネーター主催の見守りネットワークに参加し情報交換に努める。個別訪問し地域課題を把握す | 相談件数月50件 個別訪問月15件 | 相談件数、個別訪問件数は目標値達成。介護申請や退院後の調整相談など多様な相談に対 |

| | | | | | |
|-------------------------|--|---------------------|--|----------------------|---|
| | | | る事で必要な社会資源を構築する。 | | 応した。SC主催の見守りネットワークに参加し情報共有や地域課題を把握し早期対応に努めた。 |
| ② 権利擁護事業 | 成年後見制度の普及啓発 高齢者虐待対応 消費者被害の防止 | 地域住民 高齢者 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ・虐待については市の高齢者虐待マニュアルに従い市と連携して対応する。 ・消費者被害は被害の早期発見ができるようチラシ等の配布や声掛けを行い周知啓発を行っていく。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度が必要な場合は関係機関と連携し制度利用に繋がる取り組みを行っていく。 | 随時 | 虐待相談件数はなかったが前回相談ケースの定期訪問を保健師と行い状況把握している。消費者被害防止に関しては訪問時声掛けしたりチラシなど配布。むつわ職員の知識習得を行うため消費者生活講座を開催、高齢者からの相談対応技術向上に努める |
| ③ 介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援 | 契約、給付管理 ケアプラン点検 サービス担当者会議参加 居宅事業所紹介 | 高齢者 関係者 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援に資するケアプラン作成の支援とサービス担当者会議参加と評価。 ・適正な給付管理 | 毎月のプラン件数 担当者会議参加数 | 毎月35件以上のマネジメントプラン件数で目標達成。 予防プランは重要性がないため少なかった。 予防マネジメント担当者会議参加し自立支援に向けたアドバイスを発行事業所のサービス提供状況を確認することができた。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|--|--|---|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|--------|--------|-------|
| ④ 包括的・継続的ケアマネジメント | 困難事例相談と対応 ケアマネ支援 関係機関との連携 | 介護支援専門員 関係者 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員からの相談に対して同行訪問、情報提供等を行い後方支援を行っている。 医療連絡会に参加し情報共有する。 | 相談件数 医療連絡会参加件数 包括連絡会毎月参加 | ケアマネからの相談対応として同行訪問や意見交換をしながら高齢者支援を行った。また、医療連絡会に毎月参加し情報共有や意見交換する事ができた。 | | | | | | | | | | |
| ⑤ 認知症対策事業 | 認知症カフェ開催 認知症予防普及啓発 | 地域住民 高齢者 関係機関 関係者 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員や関係機関との連携 認知症カフェ開催（川井地区、箱石地区） 認知症研修会に参加する。 認知症についての地域の理解を深め合う意識醸成 | 認知症カフェ開催 （川井地区、箱石地区） 研修会年に1回以上参加 | 7月に新規でかわい駅前認知症カフェを開催。民生委員にタップとして協力頂きスムーズに開催できた。認知症に関する研修会（リモート）に参加し知識習得する | | | | | | | | | | |
| ⑥ かわい地域ケア連絡会 地域ケア個別会議 | かわい地域ケア連絡会及び地域ケア個別会議開催 | 高齢者 地域住民 行政職員 関係機関 介護支援専門員 | <ul style="list-style-type: none"> 地域課題の把握・社会資源開発に取り組む。 高齢者支援の充実と社会基盤を目的に関係機関・住民組織と検討する。 | かわい地域ケア連絡会 年4回 地域ケア個別会議 年4回 | 地域連絡会は時間が取れず開催出来なかった。地域個別会議は1回のみ開催した。 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 総合相談件数 | 69件 | 100件 | 93件 | 78件 | 87件 | 62件 | 97件 | 113件 | 92件 | 83件 | 78件 | 75件 | 1,027件 | 171.2% | 600件 |
| 介護予防プラン | 1件 | 0件 | 0件 | 0件 | 0件 | 0件 | 2件 | 1件 | 3件 | 3件 | 1件 | 2件 | 13件 | 54.2% | 24件 |
| 介護予防マネジメントプラン | 37件 | 37件 | 35件 | 38件 | 36件 | 35件 | 36件 | 32件 | 31件 | 29件 | 31件 | 31件 | 408件 | 103.0% | 396件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 地域ケア個別会議 | | | × | ○ | | × | × | | ○ | × | | | | | |
| 認知症カフェ | | × | | ○ | × | | | ◎ | | | | | | | |
| 地域ケア連絡会 | × | | | × | | | | | × | | | | | | |
| 医療連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

| | | |
|---|---|-----------------------|
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性 介護申請対応や訪問など早めに対応し緊急を要するケースには市介護保険課や居宅と連携しサービス利用に繋げる事ができた。支援記録などは当日、行い残業しないよう作業の工夫を行った。 ・ 有効性 定例の医療連絡会は医療、福祉、保健等多職種間で情報共有ができスムーズな対応が出来ている。継続が必要である。見守りネットワーク(年に2回参加し民生委員や駐在所、ケアマネと情報交換や意見交換し地域課題の発見や支援の統一が図られている。引きこもりで就労していない若者の社会参加が大きな課題である。 ・ インパクト 認知症カフェ2か所開催し住民に認知症についての基礎知識を学んでもらい認知症の高齢者支援に協力していただく為、開催地域を拡大していく事が求められる。 ・ 妥当性 虐待対応については保健師と同行訪問し実態を把握している。成年後見制度の相談が無いことから住民に普及啓発をすることが必要である。 ・ 持続性 訪問し地域のニーズを把握する事は継続している。地域エリアが広域なので計画性が求められる。専門的な資質向上を目指すため研修会や会議に参加している。認知症で近隣宅に迷惑している高齢者には介護サービスに繋がらずSCと連携し地域でサロン再開し様子を見たり定期訪問し見守りしている。解決するまでには時間がかかる。多様な職種に協力を求め解決に繋げる。 | | |
| <p>○職員体制（運営規程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者兼主任介護支援専門員 1名 ・ 社会福祉士 1名又は看護師 保健師 | <p>○職員体制（現行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者兼主任介護支援専門員 1名 ・ 社会福祉士 1名 | <p>○配置車両：1台（軽自動車）</p> |

〈生活支援体制整備事業 第1層〉

Ⅱ. 事業目標

- ・ 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりが広がる
- ・ 地域住民の互助を基本とした、生活支援のしくみづくりがはじまる

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------|-------|---------------------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 地域のニーズと、資源の見える化、問題提起 | ・ 地域ニーズや課題を確認する ・ 地域資源等の利用状況 | 地域住民、民生委員 自治会長、企業、 福祉施設、第2層SC、 | 第2層SCとの地域ニーズや課題の確認 | 毎月1回 | 計画どおり月1回SC連絡会により確認。 |
| | | | 訪問等による資源やニーズの抽出 | 60回/年 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|--|-------------------|-------------------|-----------------------------------|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------|-------|
| | 況を把握する | 各地域包括支援C | 支え合いマップの作成、振り返り | 2回／年 | 未実施 | | | | | | | | | | |
| | | | サロン等訪問 | 60回／年 | 10回訪問・必要に応じて訪問したが、目標値未達成。 | | | | | | | | | | |
| ② 多様な主体への協力依頼等の働きかけ | ・協議体の設置 ・地域懇談会の実施 ・地域住民、関係者が、目指す地域の姿を共有する | 関係機関 地域住民、企業、 第2層SC 各地域包括支援C | 関係機関等の定例会、会議等への参加 | 随時 | 必要に応じて参加した。 | | | | | | | | | | |
| | | | 地域懇談会の開催 | 8カ所／圏域単位 | 地域懇談会：12回（このうち、北部包括主催3回を含む） | | | | | | | | | | |
| ③ 関係者のネットワーク化 | ・関係機関同士の顔が見え、中身がわかる関係の形成 | 関係機関 第2層SC 各地域包括支援C | 地域ケア個別会議への出席 | 毎月1回 | 2件出席。 | | | | | | | | | | |
| ④ 目指す地域の姿・方針、意識の共有 | ・地域ニーズや把握した課題を、全体で共有し、目指す地域の姿を共有する | 地域住民、民生委員 自治会長、企業、 福祉施設、第2層SC、 各地域包括支援C | 通信発行 | 6回／年 | 未実施 | | | | | | | | | | |
| | | | SNSでの情報発信 | 通信発行に準じる | | | | | | | | | | | |
| | | | 啓蒙用チラシや動画の作成 | 1回／年 | 未実施 | | | | | | | | | | |
| ⑤ 資源の創出 | ・担い手の養成や、サービスの開発 ・SCの資質向上 | 地域住民、民生委員 自治会長、企業、 福祉施設、第2層SC、 各地域包括支援C | 担い手の養成、研修会の実施 | 1～2回／年 | 要請研修未実施 視察研修2回 | | | | | | | | | | |
| | | | 先進地視察研修 | 1回／年 | スキルアップ研修6回。 | | | | | | | | | | |
| | | | スキルアップ研修 | 1回／年 Web研修（随時） | 先進地視察研修は、市主催の研修会に参加。その他、Web研修を受講。 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| 地域資源把握 | 9 | 15 | 13 | 15 | 16 | 16 | 5 | 4 | 7 | 4 | 3 | 3 | 110 | 183.3% | 60件 |
| サロン訪問 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 10 | 16.7% | 60件 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|----|----|----|-----------------------------------|----|-----|-----|-----|--------------|----|----|---|-------|-----|
| 地域ケア会議 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 16.7% | 12件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| SC連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 地域懇談会 | | | ○ | × | × | ◎ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| サロン連絡会 | | | × | × | | | | | | × | × | | | | |
| 支え合いマップ | | | × | | | × | | | | | | | | | |
| 協議体の設置 | | | | | | | | | | | | × | | | |
| 養成研修会 | | | | | × | × | | | | | | | | | |
| 視察研修 | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | ○ | ○ | | |
| 【総合評価】 ・ 効率性 各地域包括主催の地域懇談会への出席、Web研修の活用など実施手段を変更しながら、年間をとおして地域把握及びスキルアップに向けた取り組みができた。 ・ 有効性 未実施事項があり、評価基準に達することができなかった。 ・ インパクト 計画未実施事項について、成果につながるまでの活動に至らなかった。未実施事項について、時期や内容の再検討の必要性がある。 ・ 妥当性 計画については本事業のニーズに合致したものであったが、計画的な事業推進ができなかった。 ・ 持続性 本事業の事業計画は、単年度終結ではなく継続して取り組むことが必要。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・ 第1層生活支援コーディネーター 1名 | | | | | ○職員体制（現行） ・ 第1層生活支援コーディネーター 1名 | | | | | ○配置車両：公用車 1台 | | | | | |

<生活支援体制整備事業 第2層河南>

II. 事業目標

- ・ つながり支え合いの充実
- ・ 圏域で地域ごとの困りごとを支え合う住民同士の活動が増える
- ・ 独居・高齢者夫婦がこれからの暮らしに対して安心感が持てるようになる
- ・ 高齢者も含めた住民が安心して暮らしていくためには、支え合いが必要との気持ちが住民同士に広まる

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|------|------|------------|-----|------|
| | | | | 目標値 | コメント |

| | | | | | |
|-------------------------|---------------------|---|-----------------------------|----------|--|
| ① 地域のニーズ 地域資源の把握 | 地域の把握 | 住民、企業 民生委員 自治会長 各包括 | 河南圏域自治区単位のアセスメント作成 更新、共有 | 通年 | アセスメント更新のため地域訪問実施。サロン訪問・民生委員定例会に参加計画通り実施。個別訪問し地域課題・ニーズ状況把握を実施。 |
| | 情報発信 | | 地域資源の発掘やニーズの把握 | 通年 | |
| | 個別訪問 | | 支え合いマップの作成・更新 | 2回/年 | |
| | | | サロン訪問 | 2回/月 | |
| | | | 自治会長、民生委員、企業、事業所への訪問 | 通年 | |
| | | | ブログ、チラシ、社協だよりなどで取組の紹介 | 1回/月 | 未実施 |
| ② 住民との協議の場をもつ | 協議体の設置 | 関係機関 住民 企業 自治会長 民生委員 | ワークショップの実施 | 2回/年 | マップ2回実施（藤の川地区）。カフェ立ち上げのため情報交換を行う。 |
| | 地域役員や住民と顔の見える関係性の構築 | | 支え合いマップ | 2回 | |
| | | | 地域の定例会・行事への参加 | 6回/年 | 定例会2地区 |
| | | | サロン連絡会の開催 | 1回/年 | 未実施 |
| ③ 資源の創出 | ネットワークの構築 | 住民 民生委員 自治会長、役員 ボランティア 世話焼きさん 企業 関係団体 | 協議体の設置 | 1回 | 認知症カフェ立ち上げのため関係者と地域の状況共有の機会を設定。 |
| | 地域課題の共有 | | 課題一覧表の作成 | 随時 | 地域の状況把握調査を継続中。 |
| ④ 資質の向上 | 研修会の参加 | 生活支援コーディネーター | SC連絡会 SC研修会 | 毎月 1回 | ・連絡会計画通り出席。 ・研修会ズーム参加。 |
| | | | 事例検討、先進地視察研修 | | |

| | | 包括、関係機関 | | | | | 地域ケア個別会議 | | | | | 4回 | | 計画通り参加。 | |
|---|----|---------|----|----|---------------------------------|----|----------|-----|-----|-------------------|----|----|-----|---------|-------|
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| サロン訪問 | 0 | 1 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 20 | 55.6% | 36件 |
| 個別訪問 | 22 | 21 | 10 | 0 | 11 | 27 | 5 | 7 | 10 | 9 | 29 | 15 | 166 | 276.7% | 60件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| SC連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 定例会の出席 | × | ○ | × | | × | | × | | × | | × | | | × | |
| 支え合いマップ | | × | | | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| サロン連絡会 | | | | | | | | | | × | | | | | |
| ワークショップ | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 協議体の設置 | | | | | | | | | | | | | × | | |
| 地域ケア個別会議 | ◎ | ◎ | | | | × | | | | ◎ | | | | | ◎ |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性 関係機関と地域の状況を情報共有し、必要な情報発信を参集型で発信することができた。 ・ 有効性 上半期に不足していた内容について、地域の現状について支え合いマップや地域の声を拾い課題について協議し実施まではいかないが、地域に向け進めていく事ができた。 ・ インパクト 単年度だけでは活動の成果として可視化できることは少ないが、継続支援に向けて支え合いマップや地域の訪問の取り組み等、支援の過程では成果は感じられる。 ・ 妥当性 地域訪問により地域アセスメントの更新情報や地域課題、ニーズ把握を継続することで、地域に必要な活動や取り組みが見えてきた、引き続きアウトリーチを実施する。 ・ 持続性 妥当性同様、実施時期を変更しながら、計画内容に長期的に取り組む。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・ 生活支援コーディネーター（2層） | | | | | ○職員体制（現行） ・ 生活支援コーディネーター（2層） | | | | | ○配置車両： 軽自動車 1台 | | | | | |

〈生活支援体制整備事業 第2層西部〉

Ⅱ. 事業目標

- ・つながり・支え合いの充実
- ・圏域で地域ごとの困りごとを支え合う住民同士の活動が増える。
- ・高齢独居、高齢夫婦がこれからの暮らしに対して安心感が持てるようになる。
- ・高齢者も含めた住民が安心して暮らしていくためには支え合いが必要との気持ちが住民同士に広がる。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|------------------|-----------|--|----------------------|----------------------|------------------------------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ⑦ 地域のニーズ・地域資源の把握 | 地域の把握 | 住民・企業 民生委員 自治会長 各地域包括 関係機関 | 地域アセスメントの更新 | 千徳 通年 花輪 通年 | 情報が得られた 都度更新 |
| | | | 地域資源やニーズの把握 | 千徳 20件／月 花輪 20件／月 | 巡回は行っているが、戸別訪問ができず十分な把握ができない |
| | | | 支え合いマップの取り組み | 千徳 1地区 花輪 1地区 | 岩船地区で取り組んだ。 |
| | 情報発信 | | 定期的なサロン訪問を行い状況把握を行う。 | 千徳 2回／月 花輪 3回／月 | 活動が再開したサロンを訪問するよう努めた。 |
| | | | 住民を交えた協議の場を設定する。 | 千徳 3回／年 花輪 3回／年 | 「花輪うきうき教室」開催に向けた協議の場を設けた |
| | | | ブログ、チラシ、社協だよりなどで発信 | 千徳 6回／年 花輪 6回／年 | 「せいぶだより」の発行で情報を発信した |
| ⑧ 住民との協議の場を持つ。 | 協議体の設置 | 関係機関 住民 企業 | 地域づくり懇談会の実施 | 千徳 3回／年 花輪 3回／年 | 実施できていない |
| | | | 支え合いマップ | 千徳 1回／年 花輪 1回／年 | 岩船地区で実施した。 |
| ⑨ 資源の創出 | ネットワークの構築 | ボランティア | 地域課題の共有 | 千徳 5回／年 | 学校コーディネータ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------|----------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--------------------|-----------------|--------------------|------------------------|--|
| | | 関係団体 | | | | | | | | | | | 花輪 5回/年 | 一と連携し、情報共有に努めた。 | | | |
| | | 協議体の設置に向けた話し合い | | | | | | | | | | | 千徳 3回/年 花輪 3回/年 | 実施できていない | | | |
| | | 協議体の設置 | | | | | | | | | | | 千徳 1回/年 花輪 1回/年 | 実施できていない | | | |
| ⑩ 資質の向上 | 内部研修の参加 外部研修の参加 事例検討 | 各包括 SC | | | | | | | | | | | 連絡会 | | 千徳 1回/月 花輪 1回/月 | 連絡会に参加し、 情報を交換を継続 | |
| | | | | | | | | | | | | | SC研修会・事例検討・先進地視察研修 | | 千徳 3回/年 花輪 3回/年 | 外部研修に積極的に参加し、知識の習得に努めた | |
| | | 包括・関係機関 | | | | | | | | | | | 地域ケア個別会議への参加 | | 千徳 3回/年 花輪 3回/年 | 地域資源の情報提供に努めた。 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | |
| サロン訪問 | 千徳 | 2 | 8 | 8 | 3 | 0 | 4 | 2 | 4 | 4 | 6 | 6 | 51件 | 212.5% | 24件 | | |
| | 花輪 | 0 | 5 | 7 | 2 | 0 | 2 | 4 | 2 | 0 | 4 | 3 | 32件 | 88.9% | 36件 | | |
| 個別訪問 | 千徳 | 41 | 13 | 44 | 43 | 50 | 12 | 59 | 38 | 61 | 28 | 44 | 17 | 450件 | 187.5% | 240件 | |
| | 花輪 | 5 | 5 | 45 | 49 | 26 | 4 | 20 | 22 | 32 | 8 | 22 | 2 | 240件 | 100.0% | 240件 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | |
| 協議の場（千徳・花輪） | | | × | | | × | | | × | | | × | | | | | |
| SC連絡会（千徳・花輪） | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 支え合いマップ（千徳・花輪） | × | | | | | × | | | | | | | ○ | | | | |
| 地域ケア連絡会（千徳・花輪） | | × | | ◎ | | ◎ | ○ | × | | | | | × | | × | | |
| 【総合評価】 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・効率性：各サロン、老人クラブ等の代表者を訪問して活動状況の把握をし、地域アセスメントを深めるよう努めた。 学校コーディネーターと連携することで、地域に関する情報共有や学校行事を通じた世代間交流に取り組んだ。 ・有効性：地域のニーズをキャッチし、自治会・民生委員・老人クラブ・婦人会と話し合いを重ね「第1回花輪うきうき教室」を開催し、新たな住民の集まりの場を創出することができた。サロン連絡会や支え合いマップを実施し、地域の現状や課題を知ることができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- ・インパクト：包括職員に地域アセスメントで得た地域資源の情報を提供し、ケアプランに活用してもらえた。
定期的に広報誌「せいぶだより」の発行を行い、地域の情報提供を継続している。
- ・妥当性：住民より防災のしくみ作りの声が挙がり話し合いの場を検討していたが、コロナ感染状況と自治会の関係性等の課題があり、実施することができなかった。また、集まりの場の創出を目指した地区があったが、具体的なアクションを起こすことができなかった。
- ・持続性：地域の困りごとやボランティアの発掘・育成につながるよう、集まりの場への参加や地域巡回を通して情報収集を行う。
サロン訪問時は持続性を高めるために活動に必要な情報提供やアドバイスを行う。
千徳民協の定例会に毎月、出席することで、民生委員と連携を密にする。

| | | |
|---|---|----------|
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両： |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者兼看護師 1名 ・ 社会福祉士 1名 ・ 主任介護支援専門員 1名 ・ 生活支援コーディネーター 2名 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者兼看護師 1名 ・ 社会福祉士 1名 ・ 主任介護支援専門員 1名 ・ 生活支援コーディネーター 2名 | 2台（軽自動車） |

＜生活支援体制整備事業 第2層南部＞

II. 事業目標

- ・ 高齢者も含めた住民が安心して暮らしていくためには支え合いが必要との気持ちが住民同士に広まる。
- ・ つながり・支え合いの充実。圏域で地域ごとの困りごとを支え合う住民同士の活動が増える。
- ・ 高齢独居、高齢夫婦がこれからの暮らしに対して安心感が持てるようになる。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------------|---|---------------------------------------|------------------|---------|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 地域のニーズ地域資源の把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の把握 ・ 地域資源の発掘（人的・物的） | 住民、ボランティア、民生委員、自治会、包括、関係機関、関係団体（企業など） | 地域カルテ、アセスメントの更新 | 2回（年） | ⇒1回訪問する中で情報の更新を行った |
| | | | 訪問による地域資源やニーズの把握 | 120件（年） | ⇒148件 顔が見える事で得られる安心感から関係の構築を図ることができた |
| | | | サロン訪問による地域状況の把握 | 10件（年） | ⇒7件 地元住民より直接話意を聞く事でタイムリーな情報を |

| | | | | | |
|---------------|-----------|---|----------------------------------|------------------|---|
| | | | | | 得られた |
| ② 住民との協議の場をもつ | 協議体設置の準備 | 住民、ボランティア 民生委員、自治会、 包括、関係機関、 関係団体（企業など） | 地域づくり懇談会の開催 | 1件（年） | ⇒3件 畑を活用した取り組みに際し、地域住民の有志の方々と話し合いを実施した |
| | | | 支え合いマップの取り組み （津軽石・重茂の各地区で開催） | 2件（年） （各地区1件） | ⇒0件 対象地域を変更し只今準備中。次年度4月に実施予定 |
| | | | 協議設置に向けた話し合い | 2回（年） | ⇒0件 今後取り組み予定。 |
| ③ 資源の創出 | ネットワークの構築 | 住民、ボランティア、 民生委員、自治会、 包括、関係機関、 関係団体（企業など） | サロン連絡会の開催 | 2回（年） | ⇒0件 次年度の開催に向け年度をまたぎ準備を進めている |
| | | | 民生委員児童委員協議会定例会への参加 （津軽石・重茂地区） | 4回（年） （各地区2回） | ⇒3回 顔の見える関係性を築く為機会を見て参加し今後繋げていく |
| | | | つながり通信（チラシ）による情報発信及び広報活動 | 4回（年） | ⇒2回 住民が知りたい、住民に知らせたい情報を念頭に発信した |
| ④ 資質の向上 | 情報共有と連携 | 職員、関係機関 | SC連絡会への参加 | 12回（毎月） | ⇒5回 市内の各SCとの貴重な情報共有の場として積極的に参加した |
| | | 包括、関係機関 | 地域ケア個別会議への参加 | 4回（年） | ⇒0回 3月に開催予定だったが翌月へ延期となった |

| | | 職員 | | | | | | 各種研修会への参加 | | | | | | 4回（年） | | ⇒9回 SCとしてスキル アップの為積極 的に参加した |
|--|----|----|----|----|---|----|-----|-----------|-----|---------------------|----|----|-----|--------|-------|--------------------------------------|
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | |
| サロン訪問 | 2 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 16 | 160.0% | 10件 | |
| 個別訪問 | 18 | 14 | 18 | 24 | 10 | 25 | 20 | 44 | 5 | 39 | 19 | 21 | 257 | 214.2% | 120件 | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| SC連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 地域懇談会 | | | | | | | | × | | | | | | × | ◎ | |
| 支え合いマップ | | × | | | | | | | × | | | | | | | |
| サロン連絡会 | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 情報発信 | | | | × | | | | ◎ | | | ○ | | × | ○ | × | |
| 【総合評価】 ・効率性…民協定例会への参加は、地域状況を把握するうえで貴重な機会となっている。 ・有効性…担当地域の課題に沿った内容の研修会へ積極的に参加した。 ・インパクト…つながり通信を発行し、配布先を徐々に広げて行きながら情報発信を行った。 ・妥当性…確実な情報を得る為、自らの目で見て、耳で聞く事を意識して行動した。 ・持続性…関係の構築を図る為、定期的な訪問や連絡等継続して行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・生活支援コーディネーター（2層）2名 （津軽石・重茂中学校圏域各1名） | | | | | ○職員体制（現行） ・生活支援コーディネーター（2層）1名 （津軽石・重茂中学校圏域） | | | | | ○配置車両： ・1台（軽自動車） | | | | | | |

<生活支援体制整備事業 2層北部>

II. 事業目標

- ・つながり・支え合いの充実
- ・圏域で地域毎の困り事を支え合う住民同士の活動が増える。
- ・高齢独居、高齢夫婦がこれからの暮らしに対して安心感が持てるようになる。
- ・高齢者も含めた住民が安心して暮らしていくために支え合いが必要との気持ちが住民同士に広まる。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------|------|------|------------|-----|------|
| | | | | 目標値 | コメント |
| | | | | | |

| | | | | | |
|------------------|-----------------|--|---|--------------------|--|
| 1. 地域のニーズ把握・情報発信 | ① サロン活動の支援 | ・住民 ・関係機関 | ・サロン訪問 ・レク用品貸出支援 ・助成金活用の提案 | 2回/月 | サロン活動参加にて近所の様子を伺い地域の見守りが出来ていることを把握。包括より高齢者の健康管理について講話。 |
| | ② 地域課題の把握・支援 | ・民生委員 ・自治会長 ・各包括 | ・地域ケア個別会議への参加 ・支え合いマップの作成 ・自治会、民協からの情報収集 ・生活支援相談（訪問・電話・来所） | 3回/年 2回/年 通年 | 地域ケア個別会議ではSCとしての視点から意見を述べた。 |
| | ③地域情報の発信 | ・住民 ・関係機関 | ・北部便りの発行 ・総合見守りの普及啓発 | 4回/年 通年 | 北部だよりは4回発行。健康について、サロン活動の紹介、地域の紹介。 |
| 2. ネットワークの構築 | ① 一層及び、委託包括内の連携 | ・関係機関 | ・SC連絡会への参加 | 1回/月 | 地域連絡会へ参加し自治会長をはじめ民生委員、住民が地域の見守りをしていることを把握。 |
| | ② 関係機関との連携 | ・住民 ・民生委員 ・自治会長 ・各包括 | ・地域連絡会への参加 ・協議体の設置に向けた話し合い | 3回/年 | |
| 3. 資源の把握・創出 | ① 社会資源一覧の作成 | ・関係団体 ・企業 ・商店 | ・企業・商店への訪問 ・社会資源一覧の更新 | 通年 | 移動販売の情報があり、現地に出向き情報収集できた。 |
| | ② 集いの場の創出 | ・住民 ・民生委員 ・自治会長 ・各包括 ・関係機関 | ・ニーズ把握 ・サロン代表者連絡会の開催 | 通年 | サロン代表者連絡会を開催し、今後のサロン活動の課題ややってみたいこと、要望について把握できた。 |
| 4. 資質の向上 | ①研修受講 | ・包括 ・関係機関 | ・各研修会への参加 ・事例検討会、先進地視察研修 | 通年 | SCとして必要な研修に参加した。 |
| | ②SC連絡会 | ・関係機関 | ・連絡会での情報共有 | 1回/月 | |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|---|----|----|----|----|------------------|----|-----|-----|-----|---------|----|----|-----|--------|-------|
| サロン訪問 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 17 | 106.3% | 16件 |
| 個別相談 | 3 | 18 | 13 | 10 | 11 | 11 | 18 | 20 | 30 | 24 | 17 | 25 | 200 | 166.7% | 120件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 協議の場(サロン交流会) | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | | |
| SC連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 支え合いマップ | | | | | | | | | | | ◎ | | | ◎ | ◎ |
| 地域連絡会 | | ◎ | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 情報発信(北部便り) | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | ◎ | | | ◎ |
| 【総合評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性：サロン代表者連絡会を包括の協力を得て開催することができた。グループワークではサロンの課題を情報共有したことによって「他のサロンの様子を聞いてよかった」という声が聞けた。 ・ 有効性：生活支援コーディネーターとしてサロン活動に参加し、声掛けをしていることで、地域の課題等を包括と共有し関係機関に繋げていくルートが出来てきたと思う。 ・ インパクト：サロン代表者連絡会を行い、音楽療法を開催してサロン活動の活発化の提案ができた。各サロンからも音楽療法をしたいという要望があり、今後のサロン活動の活性化に繋がった。 コロナ禍で高齢者との交流がないという事から鎌ヶ崎小学校の学校行事のDVDを高齢者施設へ貸出し交流へと繋げた。その後高齢者施設より礼状を預かり学校へ届けた。 ・ 妥当性：サロン活動への支援では地域の見守りを推進するために包括と協力して認知症講話を取り入れ地域見守りの強化を図った。 ・ 持続性：サロン代表者連絡会の時に新しい活動について紹介してほしいという意見が多かったことから共同募金や歳末たすけあいの助成金を活用しながら新たな活動を取り入れ、サロン活動の継続を支援している。今年度は2件のサロンが助成金を活用した。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両： | | | | | |
| ・生活支援コーディネーター 2名 | | | | | ・生活支援コーディネーター 1名 | | | | | 軽自動車 1台 | | | | | |

<生活支援体制整備事業 第2層田老>

Ⅱ. 事業目標

- ・ 個と地域の一体的支援実施していくために取り組む。
- ・ 地域に必要な資源や活動を把握し働きかけるために実地踏査を通し地域アセスメントに取り組む。
- ・ 地域課題解決に向けて必要な資源や活動について主体的なかかわりができるよう地域に働きかける。
- ・ 高齢者も含めた住民が安心して暮らしていくために支え合いが必要との気持ちが住民同士に広まる。

Ⅲ. 事業活動

| Ⅲ. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | | |
|-----------------|-------|--------------------------------------|--|-----|---|--|
| | | | | 目標値 | コメント | |
| ① 地域のニーズ地域資源の把握 | 地域の把握 | 住民、企業 民生委員 自治会長 各包括 関係機関 | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 地域アセスメントの更新 ≫ 地域資源やニーズの把握 ≫ 支え合いマップの取り組み | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動再開や新たな活動の相談あり。コロナ禍で活動中止のサロンに情報提供支援。 ・マップ1回実施。聴取者と地域課題を共有できた。 ・保健センター等と情報共有し地域のニーズ対応を検討。 ・住民同士の関わりが減っている地域へのイベントとのマッチング、参加の機会と住民同士の顔合わせの機会を提供することができた。 | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 定期的なサロン訪問で状況把握 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの訪問により活動再開したサロンとコロナ禍休止から再開が困難となったサロンの把握が出来た。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ≫ 住民を交えた協議の場を設定する。 | 4回 | | <ul style="list-style-type: none"> ・2回実施。地域の活動の場について話し合いを実施し地域の課題につながった。 |

| | | | | | |
|-------------------|-----------|------------------|--|-----|--|
| | 情報発信 | 住民、 民生委員 | ≫たろうつながり通信発行・活動促しチラシ 発行・みやこボラセンだより掲載記事の提供 | 15回 | ・3回発行。 地域のつながりに ついて情報発信す ることができた。 |
| ② 住民との協議の場 をもつ | 協議体の設置 | 関係機関 住民 企業 | ≫地域懇談会、地域づくり懇談会の実施 | 2回 | ・地域活動の活 性化のためのイ ベントについて 意見交換を2回 実施。地域の 活動の把握及 び発信により 地域活動の 活性化を目的 に実施。来場 者約70名が あった。作 品も14団体 から出展が あり地域活 動のきっかけ となった。 ・民協との 情報交換会 で地域の状 況について 共有連携を 図ることの 共有が出来 た。 |
| | | | ≫支え合いマップ作り | 3回 | ・1回実施。地 域課題を共有 はできたが 課題の解決 のための 継続した マップを 勧めるこ とが出来 なかった。 |
| ③ 資源の創出 | ネットワークの構築 | ボランティア関係団 体 | ≫地域課題の共有 | | |
| | | | ≫協議体の設置に向けた話し合い | | |
| | | | ≫協議体の設置 | | ・関係機関と課題の 共有を図った。ボ ランティアの登 録や活動に 繋げることが 出来た。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------|----|----|--------------|----|----|--------------------------|-----|-----|----|----|----|-----|--------|-------|---|---|-----------------------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | ・既存のボランティア団体との関わりや活動状況の把握が出来なかった。 |
| ④資源の向上 | 研修会の参加 | | | 生活支援コーディネーター | | | ≫SC連絡会 ≫事例検討会、先進地視察研修 | | | | | | | | | | | |
| | 包括、関係機関 | | | ≫地域ケア個別会議 | | | | | | | | | | | | | | 1回 |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 | | | |
| サロン訪問 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 14 | 58.3% | 24件 | | | |
| 個別訪問 | 5 | 25 | 23 | 10 | 14 | 5 | 17 | 17 | 22 | 22 | 22 | 17 | 199 | 331.7% | 60件 | | | |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | | |
| 協議の場 | × | ○ | × | | | | | | × | | | | × | | | | | |
| SC連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | | |
| 協議体の設置 | | | | | | | | | | | | × | | | | | | |
| 支え合いマップ | | | | × | | ○ | × | | | | | | | | × | | | |
| たろうつながり通信発行 | × | ◎ | × | ◎ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| 【総合評価】 ○効率性 ・自治会活動など地域に出向き活動経緯を聴き取りする中で地域の取り組みやニーズなどを把握することが出来た。さらに、活動発表の場の提供により活動の再開や活発化につなげる機会をとった。 ・配食支援事業を通して関係機関との情報共有や役割分担の共有することができた。さらに配食の拠点として企業の地域貢献への理解にもつながった。訪問をきっかけに近隣住民からの情報提供によって利用者の生活状況の把握ができ地域との繋がりの大切さを実感した。 ○有効性 ・田老福祉センター文化祭の開催及びつながり通信の発行によりコロナ禍でも、地域での作品作りの仲間や活動団体のつながりが生活の張り合い、生きがいになっていることの大切さなどを発信することが出来た。 ○インパクト ・田老福祉センター文化祭の開催により、活動団体の作品展示をきっかけに新たな活動や活動再開の原動力となった。また、交流スペースでは住民同士が久しぶりに顔合わせの機会となりはカフェで談笑するなど住民同士の交流の場となった。コロナ禍で事業が減少している福祉作業所にカフェコーナーを依頼し活動の場を提供することができた。 ・映画生協による映画上映会の日程・開催場所の調整依頼があり、地域での顔合わせの機会がないとのニーズがあった地域とマッチング。地域から多くの参加があり久しぶりの顔合わせが出来てよかったとの感想も聞かれた。対面交流の大切さを住民同士が確認できる機会となった。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|----------------------|----------|
| <p>○妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により地域の状況が変化する中でサロン活動再開や活動休止について個々より活動内容、意見等の確認が出来た。サロン参加者減少の声が多いことから、今後、伴走型支援による住民同士のかかわりやつながりづくりの必要性を把握できた。 <p>○持続性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動場所や集まりの場所等での何気ない住民との会話を継続する中で、地域資源の発見及び課題について聴くことが出来る関係性ができた。また、その課題について保健センターや民生委員と共有し健康体操など実施し課題への取り組みを図ることができた。チラシの配布や参加の声がけについては民生委員や自治会長の協力もあり約12名の参加者があった。地域支援に係るネットワークの構築ができた。 | | |
| ○職員体制（運営規程） | ○職員体制（現行） | ○配置車両： |
| ・ | ・生活支援コーディネーター（2層） 1名 | 1台（軽自動車） |

<生活支援体制整備事業 第2層新里>

II. 事業目標

- ・つながり・支え合いの充実
- ・圏域で地域ごとの困りごとを支え合う住民同士の活動が増える。
- ・高齢独居、高齢夫婦がこれからの暮らしに対して安心感が持てるようになる。
- ・高齢者も含めた住民が安心して暮らしていくためには支え合いが必要との気持ちが住民同士に広まる。

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | |
|-----------------|-------|----------------------|---------------|------------------|---|
| | | | | 目標値 | コメント |
| ① 地域のニーズ地域資源の把握 | 地域の把握 | 住民、民生委員自治会長包括関係機関サロン | 地域訪問・アセスメント更新 | | <ul style="list-style-type: none"> ・支援要求把握に努めたことで、個別ニーズ把握に繋がった。 ・マップの実施に繋がる担い手の発掘実施したことで次年度への関わりを繋げた。 |
| | | | 地域資源やニーズの把握 | | |
| | | | 支え合いマップの取り組み | 新規1件 モニタリング2件 | |
| | | | サロン訪問で状況把握する | 月3~5 | |

| | | | | | |
|---------------|-----------|------------------|-------------------|-----------------------|---|
| | 情報発信 | | チラシ、社協だよりなどで活動を発信 | 年3回 | ・毎月にいさとつながり通信発行 |
| ② 住民との協議の場をもつ | 協議体の設置 | 関係機関 住民 企業 | 支え合いマップ | 新規1件 モニタリング2 か所 | ・開催2件（茂市・太長根地区、墓目・八坂地区） |
| | | | サロン連絡会 | 年1回 | ・リーダー情報交換会を実施。9団体中6団体の参加。 |
| ③ 資源の創出 | ネットワークの構築 | 住民 関係機関 | ニーズ調査 | | ・資源の情報収集に商店訪問でき、住民のニーズや現状把握に繋がった。 |
| | | | 地域資源情報発信 | 年1～2回 | ・地区の情報を毎月発信したことでつながり強化できた。 |
| | | | 地区連絡会 | 月1回 | ・関係機関へ新里つながり通信を配布し、地域資源情報を発信した。 ・情報交換では地域資源の状況把握に繋がっている。 |
| ④ 資質の向上 | | 各 SC 包括、関係機関 | SC連絡会 SC研修会 | 毎月 | ・11回出席 ・合意形成研修参加 ・令和4年度岩手県生活支援体制向上支援研修会参加 |
| | | | 事例検討、先進地視察研修 | 年2回 | ・先進地視察研修会参加 ・移送サービス研修会参加 ・令和4年度地域をつなぐコーディネーター研修参加 |

| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
|---|----|----|----|----|--|----|-----|-----|-----|--------------------------|----|----|-----|--------|-------|
| サロン訪問 | 4 | 5 | 8 | 6 | 3 | 7 | 5 | 5 | 6 | 3 | 4 | 5 | 61 | 113.0% | 54件 |
| 個別訪問 | 13 | 17 | 19 | 20 | 16 | 13 | 19 | 16 | 14 | 15 | 15 | 16 | 193 | 536.1% | 36件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| サロン連絡会 | | | × | | | | | | × | ○ | | | | | |
| SC連絡会 | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 協議体の設置 | | | × | | | | × | | | | | | | | |
| 支え合いマップ | | | × | | | ○ | | | | × | ○ | | | | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率性 関係機関・支援団体の情報提供を強化したことで、意欲向上の促しができ、低迷していたサロンの活性化となった。地域の力を引き出し、担い手を把握できる体制に近づいているものの、協議体設置までには至らなかった。 ・有効性 担い手との連絡を継続し相談支援したことで負担軽減につながる情報交換会が開催でき、その後、2地区で自主的に合同交流会等に繋がった。 ・インパクト 支援者（担い手）の相談支援を強化する中でコロナ禍でも活動できる情報を提案し外部支援などを調整したことにより、定期開催に繋がった ・妥当性 サロン等の代表や担い手に、サロン連絡会参加の意向を確認していたが、予定の日程では他地区と集まる事への不安の声が多く、調整を繰り返し年度内に実施できた。ニーズに合わせ活動の支援を強化したことで、活動継続や活性化に繋がり2地区で住民主体の活動が立ち上がった。⇒協議体への移行を考慮していく。 学校関係とのつながりでは、福祉体験教室の追加実施で、関係機関の地域貢献にも繋がっている。 ・持続性 サロン等に、外部講師の講話等を提案する事で、担い手の負担軽減につながり継続的に支援できた。心身の機能低下で高齢者サロンに参加できない住民の増加について解決策を検討し、身体機能低下予防のテーマとして活動支援に取り組む必要がある。 茂市地区の旧歯科医師住宅における居場所（フリーカフェ）の利用数は増加したが、地域の住民同士のつながりの再構築が地域課題の一つである事を把握、地域へのさらなる利用促進の周知に努め、居場所の認知度の向上に取り組んでいく。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） | | | | | ○職員体制（現行） | | | | | ○配置車両：専用車両 | | | | | |
| ・管理者 1名 ・生活支援コーディネーター（2層）1名 | | | | | ・にいさと包括支援センター管理者 1名 ・生活支援コーディネーター（2層）1名 | | | | | 1台（軽自動車 スズキアルト No. 2405） | | | | | |

<生活支援体制整備事業 第2層川井>

II. 事業目標

- ・住民の支え合いでみんなが安心して住み続けられる地域づくりを

III. 事業活動

| III. 事業活動 | 活動項目 | 活動対象 | 活動項目への取り組み | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------|-----------------------|---|----------------|---|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|--------|-------|
| | | | | 目標値 | コメント | | | | | | | | | | |
| ①地域のニーズ・地域資源の把握 | 地域の把握 情報発信 | 住民、事業所、民生委員、地域づくり委員会等 | 地域アセスメントの更新(地域資源やニーズの把握) 支え合いマップの取り組み 通信の発行 | 6回 | マップの取り組みを断られるなど深いアセスメントができない。 | | | | | | | | | | |
| ②住民との協議の場を持つ | 協議体の設置 | 関係機関 住民 | 課題解決に向けた体制構築の話し合い | 5回 | 現在の協議体の自立に向けて出来るところから少しずつ移行し始めている。 | | | | | | | | | | |
| ③資源の創出 | ネットワークの構築 | 関係団体・ボランティア等 | 小地域見守りネットワークの開催 サロン情報交換会 ボランティア団体等との連携 | 6回 2回 2回 | 情報交換の場が見守りに行かされている。 サロンの再開、継続に繋げることができた。 | | | | | | | | | | |
| ④資質の向上 | 研修会への参加 | | SC連絡会 研修・先進地視察 | | 送迎チームの事例を発表することで、多方面から意見をいただくことができた。 | | | | | | | | | | |
| 目標値管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 達成率 | 年間目標値 |
| サロン支援 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 7 | 58.3% | 12件 |
| 個別訪問 | 8 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | | 26 | 216.7% | 12件 |
| 事業管理 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 小地域見守りネットワーク | | | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | |
| SC連絡会 | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 協議体の設置 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| マップ | | × | | × | | | × | | | | | ◎ | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|----------------------------------|--|--|---|----------------------|--|--|--|--|
| サロン情報交換会 | | ◎ | | | | | × | | | | | |
| <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性 ニーズがはっきりしている地域への支援は、助成金申請など効率的に行われた。 ・ 有効性 目標がはっきりできた事業は、活動チームの設立に繋がり、関係機関との連携が進んでいる。 ・ インパクト 住民主体で自立した活動への移行は進めることができていないが、地域住民の中での課題に対する変化が見られ集まりには新しい人が加わるようになっている。 ・ 妥当性 地域課題が漠然として目標が定まらない地域では、住民のニーズが見えにくく、進めることができなかった。 ・ 持続性 住民自身が納得する事業の進め方になるまで、打ち合わせや会議の場を何回でも開催し、持続可能な形に繋がるよう支援している。行政や地域の団体と連携を強め持続できる方向性を検討し始めている。 | | | | | | | | | | | | |
| ○職員体制（運営規程） ・ 2層生活支援コーディネーター 1名 | | | | ○職員体制（現行） ・ 2層生活支援コーディネーター 1名 | | | | ○配置車両： アルト（リース）1台 | | | | |

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

社会福祉法人 宮古市社会福祉協議会
会 長 伊 藤 健 二

